

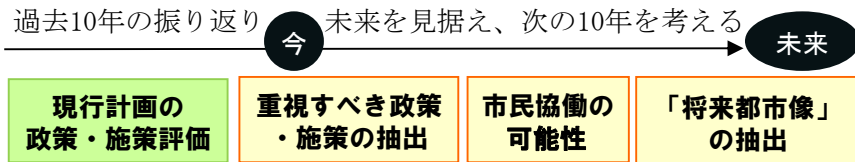
須坂市市民アンケート調査(総合意識調査) 結果報告書

1. 市民総合意識調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、第6次須坂市総合計画基本構想及び前期基本計画の策定に向けて、過去10年間の須坂市の取組みを振り返るとともに、これから10年先を見据えた「目指すべき将来都市像」や重視すべき政策・施策、市民協働の可能性を把握することを目的に実施しました。

市民アンケートのアウトプット

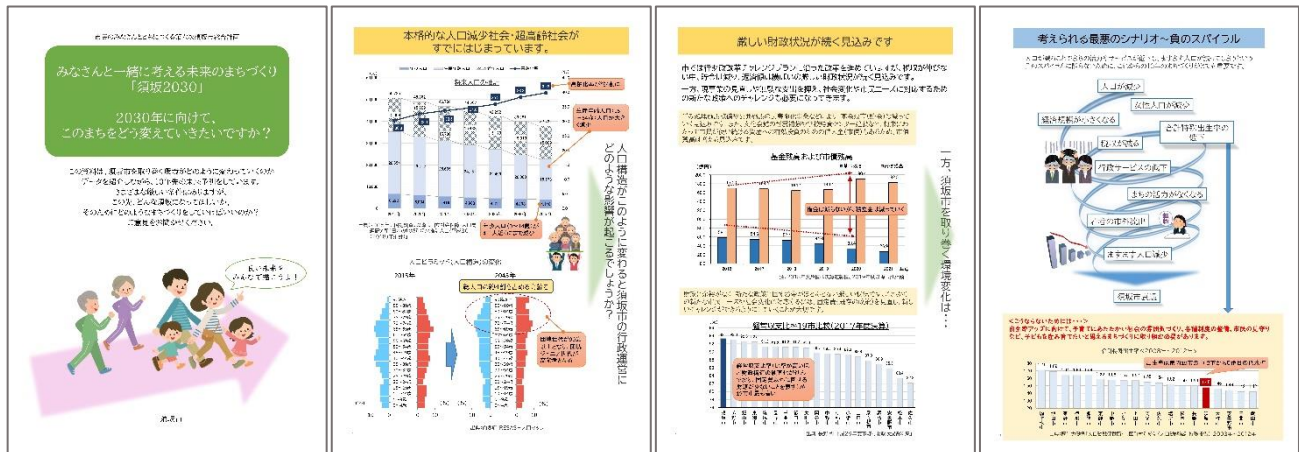


(2) 実施概要

調査は以下の通り実施しました。

- ・調査対象者：須坂市内に住む18歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- ・調査方法：郵送調査
- ・調査期間：令和元年7月11日～8月9日
- ・有効回答者数：1,400人（回答率46.7%）

なお、市民アンケート実施にあたり、市の人口動向や財政状況についてまとめた「情報提供資料」を同封し、須坂市の現状や将来予測を踏まえたうえでの回答を促しました。



(3) 調査結果の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問は、回答数を有効回答者数で除した割合を示しているため、割合の合計が100%を超えています。

2. 市民総合意識調査結果

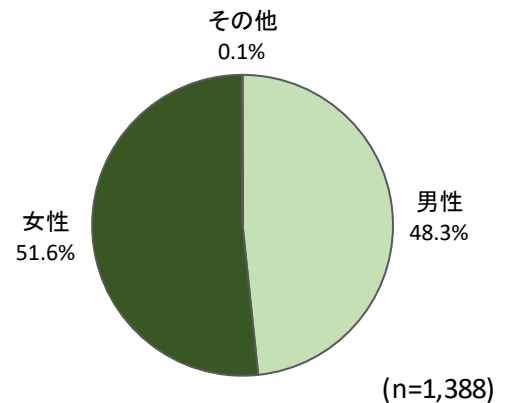
(1) 回答者とその家族の属性

- アンケートの回答者の属性は以下の通りです。性別を見ると、男女はほぼ同数となっています。
- 年齢を見ると、60代以上が過半数を占めています。
- 回答者の居住地は、須坂地区が最も多く、ついで小山地区、日滝地区が多くなっています。

① 回答者の性別

図表 1 回答者の属性

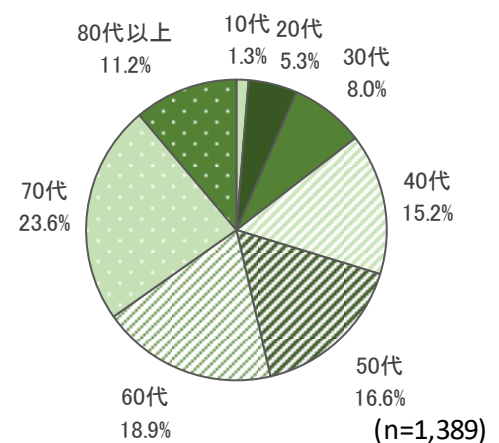
	度数	割合
男性	671	48.3
女性	716	51.6
その他	1	0.1
合計	1,388	100.0



② 回答者の年齢

図表 2 回答者の年齢

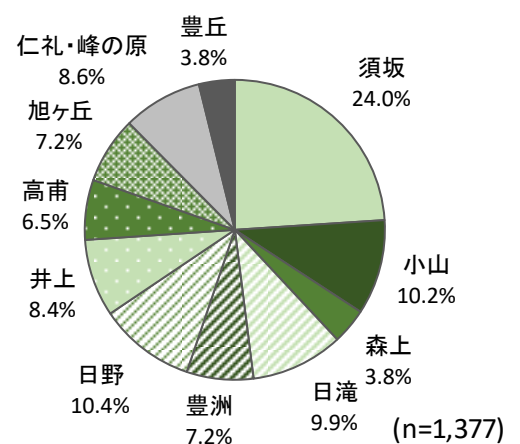
	度数	割合
10代	18	1.3
20代	73	5.3
30代	111	8.0
40代	211	15.2
50代	231	16.6
60代	262	18.9
70代	328	23.6
80代以上	155	11.2
合計	1,389	100.0



③ 回答者の居住地区

図表 3 回答者の居住地区

	度数	割合
須坂	330	24.0
小山	141	10.2
森上	53	3.8
日滝	137	9.9
豊洲	99	7.2
日野	143	10.4
井上	115	8.4
高甫	89	6.5
旭ヶ丘	99	7.2
仁礼・峰の原	118	8.6
豊丘	53	3.8
合計	1,377	100.0

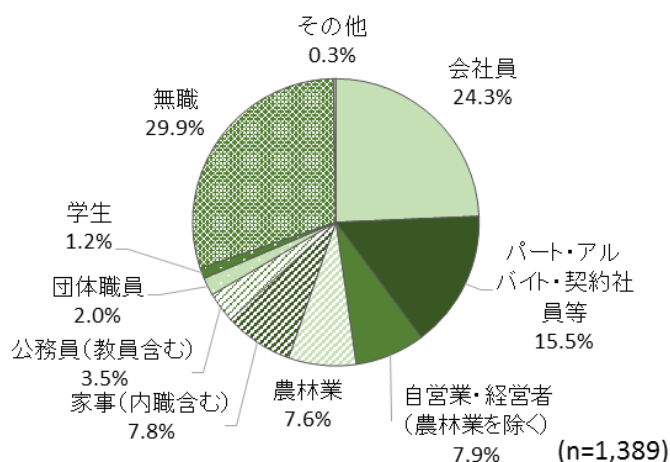


- 回答者の職業は、無職が最も多く、ついで会社員、パート・アルバイト・契約社員等が多くなっています。また、回答者で就業している人のうち、4割以上が市外に通勤しています。
- 回答者の農地の所有状況を見ると、農地所有は約3割となっています。

④ 回答者の主な職業

図表 4 回答者の主な職業

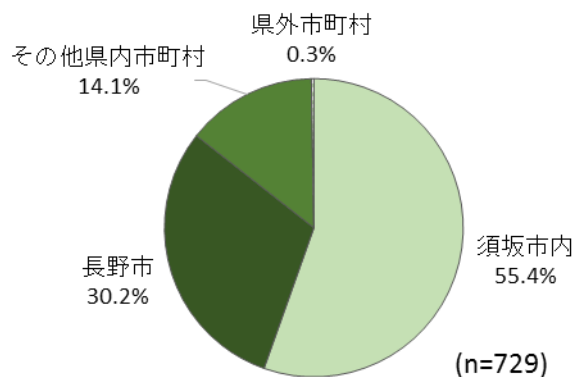
	度数	割合
会社員	338	24.3
パート・アルバイト・契約社員等	215	15.5
自営業・経営者（農林業を除く）	110	7.9
農林業	106	7.6
家事（内職含む）	108	7.8
公務員（教員含む）	48	3.5
団体職員	28	2.0
学生	17	1.2
無職	415	29.9
その他	4	0.3
合計	1,389	100.0



⑤ 回答者の勤務地

図表 5 回答者の勤務地

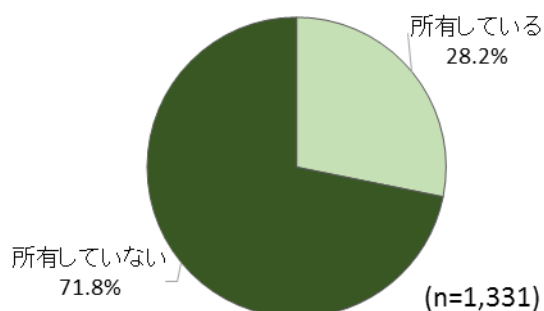
	度数	割合
須坂市内	404	55.4
長野市	220	30.2
その他県内市町村	103	14.1
県外市町村	2	0.3
合計	729	100.0



⑥ 回答者の農地の所有状況

図表 6 回答者の農地の所有状況

	度数	割合
所有している	375	28.2
所有していない	956	71.8
合計	1,331	100.0

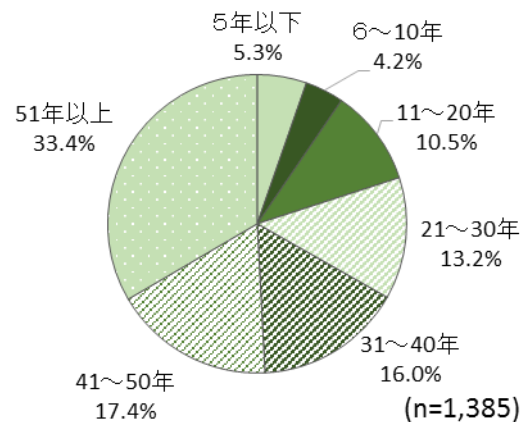


- 回答者の居住年数を見ると、51 年以上が最も多くなっています。
- 回答者の住まいの状況を見ると、約9割が持ち家となっています。
- 回答者の配偶状況を見ると、7割以上が既婚となっています。

⑦ 回答者の居住年数

図表 7 回答者の居住年数

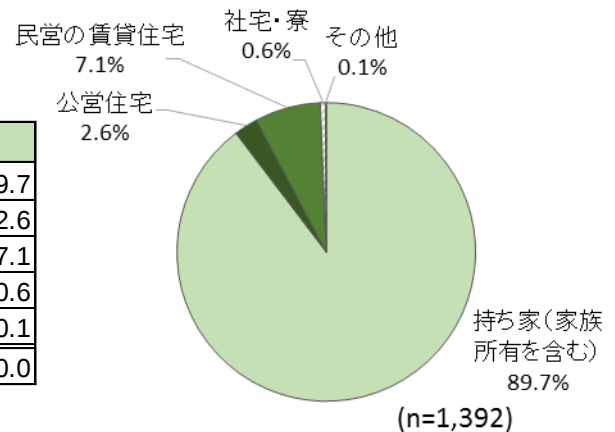
	度数	割合
5 年以下	74	5.3
6 ～10年	58	4.2
11～20年	145	10.5
21～30年	183	13.2
31～40年	221	16.0
41～50年	241	17.4
51年以上	463	33.4
合計	1,385	100.0



⑧ 回答者の住まいの所有状況

図表 8 回答者の住まいの所有状況

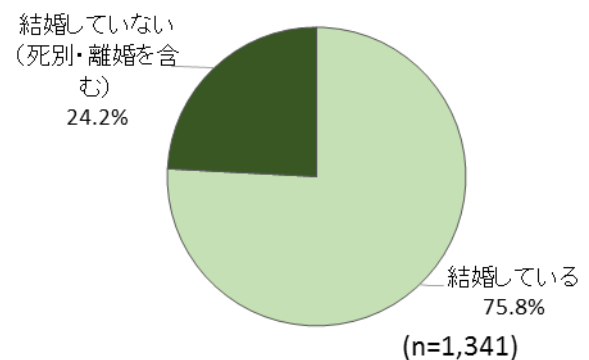
	度数	割合
持ち家（家族所有を含む）	1,248	89.7
公営住宅	36	2.6
民営の賃貸住宅	99	7.1
社宅・寮	8	0.6
その他	1	0.1
合計	1,392	100.0



⑨ 配偶者の有無

図表 9 回答者の配偶者の有無

	度数	割合
結婚している	1,017	75.8
結婚していない（死別・離婚を含む）	324	24.2
合計	1,341	100.0

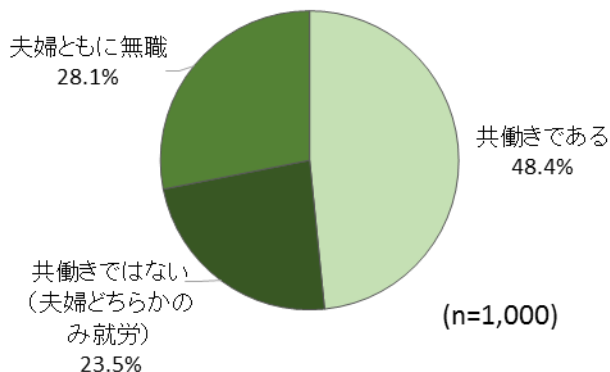


- 配偶者のいる回答者の共働きの状況を見ると、約 5 割が共働きとなっています。
- 同居している家族の構成を見ると、親子 2 世帯が最も多く、ついで夫婦だけの世帯が多くなっています。
- 同居中の 18 歳未満の子どもの有無を見ると、子どもがいる世帯は約 3 割にとどまっています。

⑩ 共働きの状況

図表 10 回答者の共働きの状況

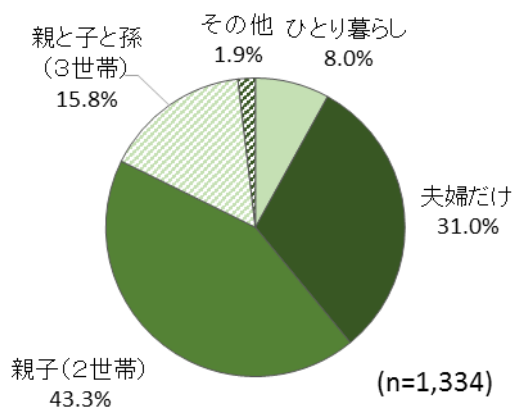
	度数	割合
共働きである	484	48.4
共働きではない（夫婦どちらかのみ就労）	235	23.5
夫婦ともに無職	281	28.1
合計	1,000	100.0



⑪ 同居している家族の構成

図表 11 回答者の同居している家族の構成

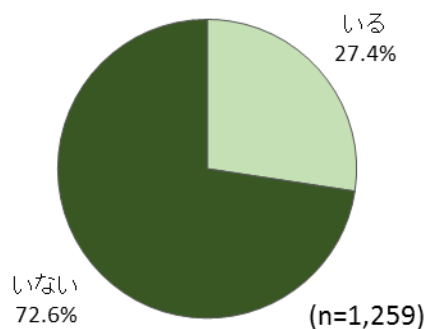
	度数	割合
ひとり暮らし	107	8.0
夫婦だけ	414	31.0
親子（2 世帯）	577	43.3
親と子と孫（3 世帯）	211	15.8
その他	25	1.9
合計	1,334	100.0



⑫ 同居中の 18 歳未満の家族の有無

図表 12 回答者の同居中の 18 歳未満の家族の有無

	度数	割合
いる	345	27.4
いない	914	72.6
合計	1,259	100.0

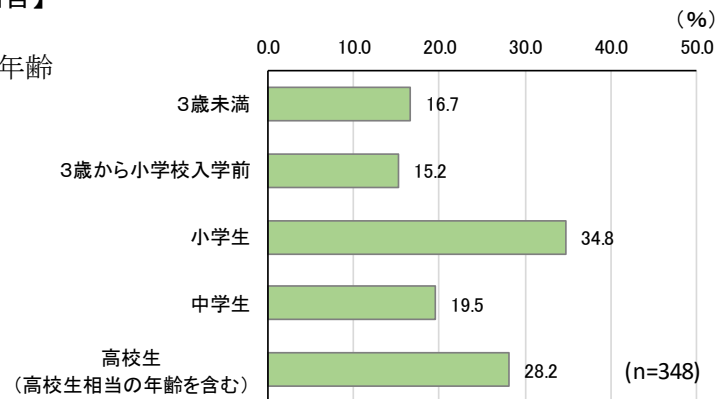


- 同居している 18 歳未満の家族の年齢を見ると、小学生が最も多く、ついで高校生が多くなっています。
- 同居している家族に何らかの生活課題を抱えている人がいると回答した人は 498 人で、そのうち 75 歳以上が最も多くなっています。

⑬ 同居中の 18 歳未満の家族の年齢【複数回答】

図表 13 回答者の同居中の 18 歳未満の家族の年齢

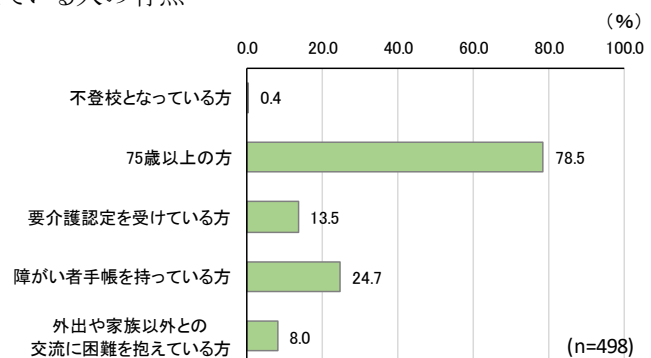
	度数	割合
3歳未満	58	16.7
3歳から小学校入学前	53	15.2
小学生	121	34.8
中学生	68	19.5
高校生 (高校生相当の年齢を含む)	98	28.2
回答者数	348	



⑭ 同居している家族のうち、生活課題を抱えている人の有無【複数回答】

図表 14 同居している家族のうち、生活課題を抱えている人の有無

	度数	割合
不登校となっている方	2	0.4
75歳以上の方	391	78.5
要介護認定を受けている方	67	13.5
障がい者手帳を持っている方	123	24.7
外出や家族以外との交流に 困難を抱えている方	40	8.0
回答者数	498	

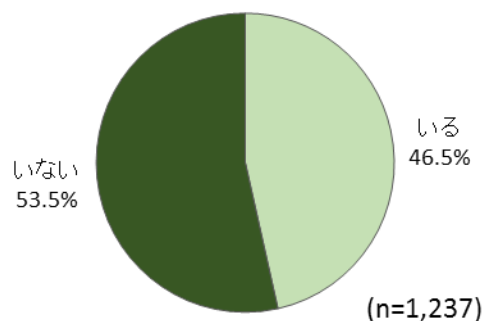


- 大学生以上の未婚の家族の有無を見ると、約5割の家庭で未婚の大学生以上の家族がいると回答しています。
- 大学生以上の未婚の家族の居住地については、市外に住んでいる人が 46.7%を占め、32.5%は県外に出ています。

⑮ 大学生以上の未婚の家族の有無

図表 15 大学生以上の未婚の家族の有無

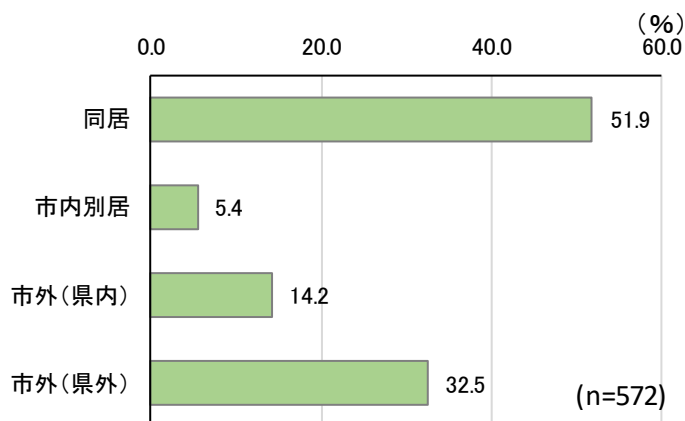
	度数	割合
いる	575	46.5
いない	662	53.5
合計	1,237	100.0



⑯ 大学生以上の未婚の家族の居住地

図表 16 大学生以上の未婚の家族の居住地

	度数	割合
同居	297	51.9
市内別居	31	5.4
市外(県内)	81	14.2
市外(県外)	186	32.5
回答者数	572	

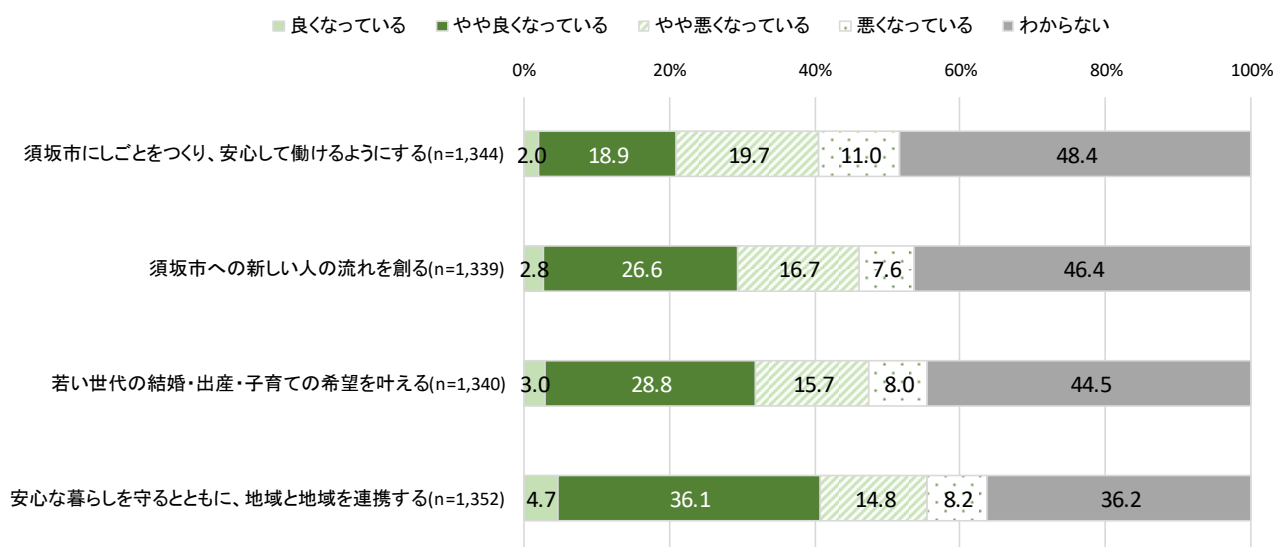


(2) 須坂市の施策に対する評価

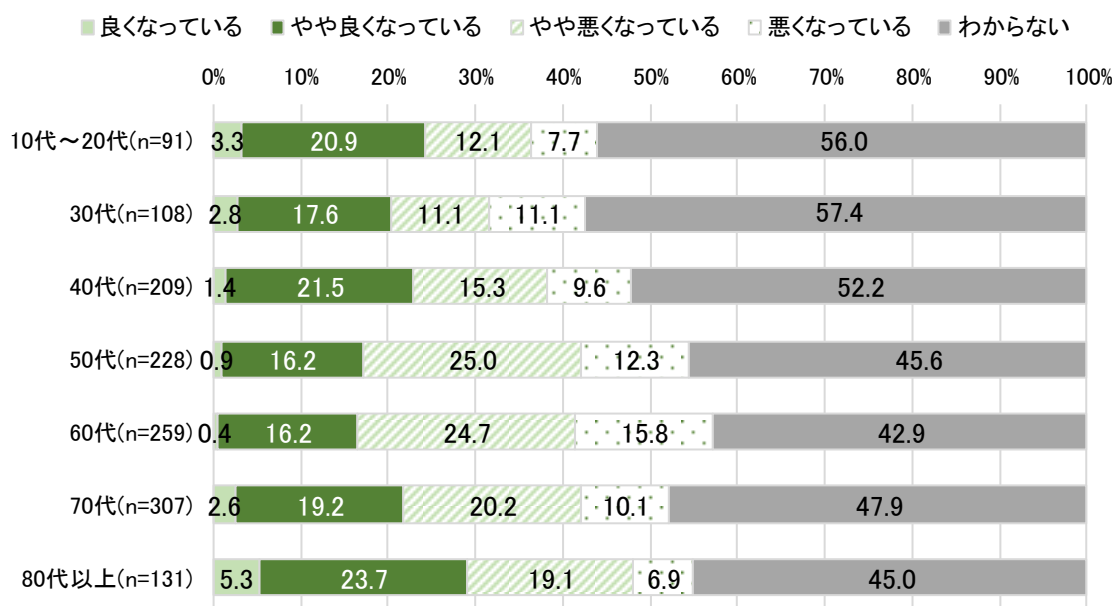
- 重点プロジェクトの評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人の割合は、「安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」で最も高く、40.8%となっています。一方で、「須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」は 20.9%にとどまっており、重点プロジェクトによって市民評価に差が出ています。
- 回答者の年齢別に重点プロジェクト「須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」の評価を見ると、若い世代では「わからない」が5割以上を占めており、50代、60代で「悪くなっている」「やや悪くなっている」との回答が多く、評価が厳しくなっています。

① 重点プロジェクトの評価

図表 17 重点プロジェクトの評価

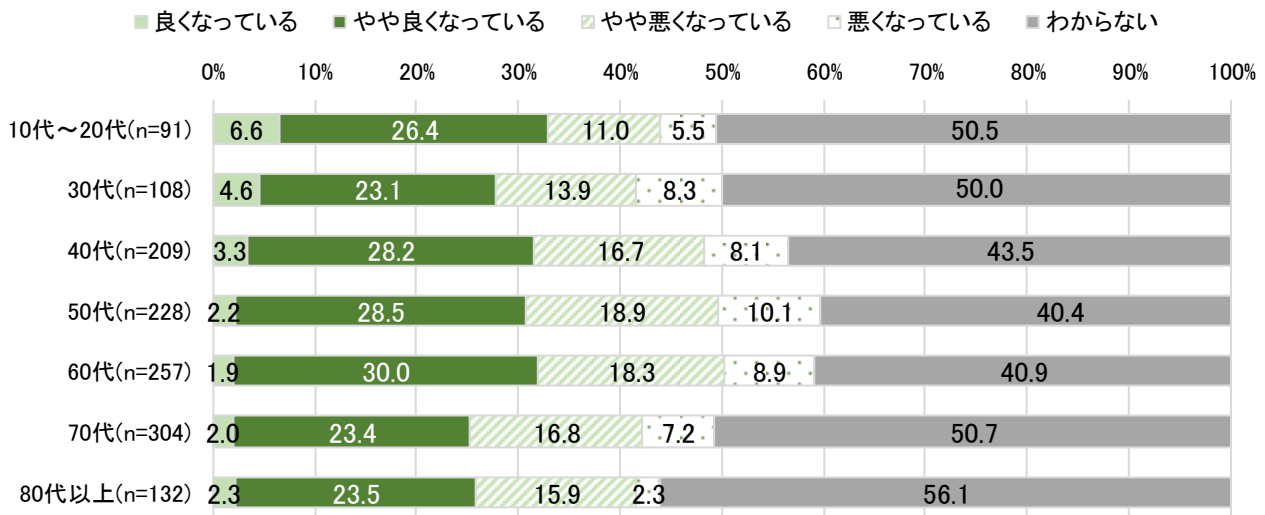


図表 18 回答者の年齢×重点プロジェクト「須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」の評価

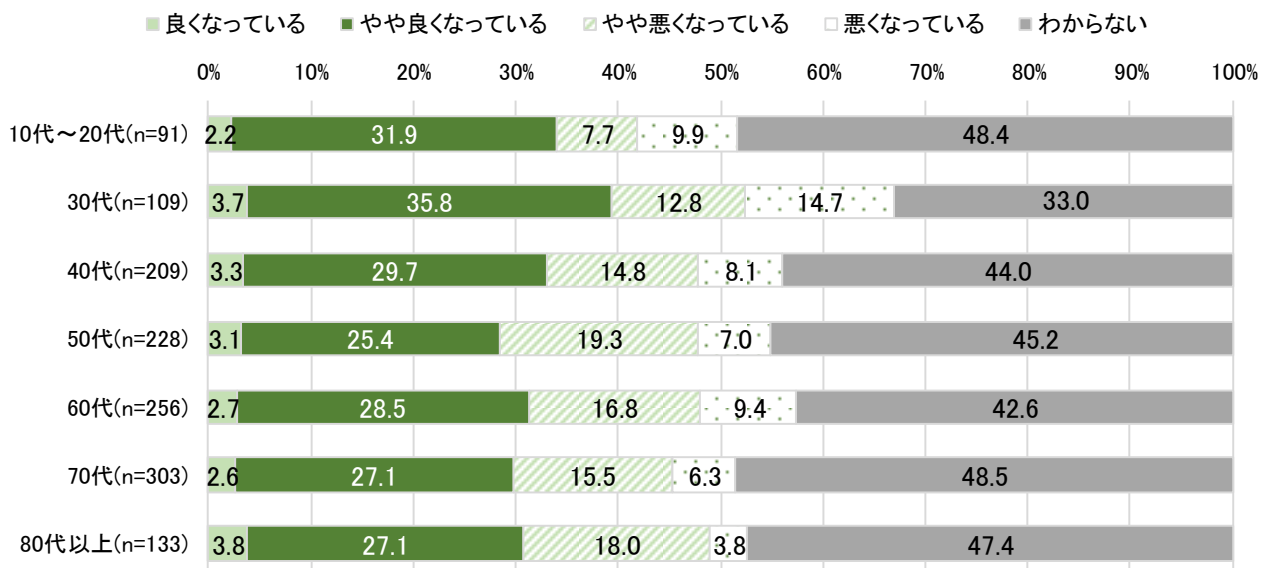


- 回答者の年齢別に重点プロジェクト「須坂市への新しい人の流れを作る」の評価を見ると、どの年代も「わからない」の割合が最も高くなっており、施策が実感されていないことがわかります。
- 回答者の年齢別に重点プロジェクト「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」の評価を見ると、「良くなっている」「やや良くなっている」と回答した人は、30代が最も割合が高く、受益者である子育て世代で評価が高くなっています。

図表 19 回答者の年齢×重点プロジェクト「須坂市への新しい人の流れを作る」の評価

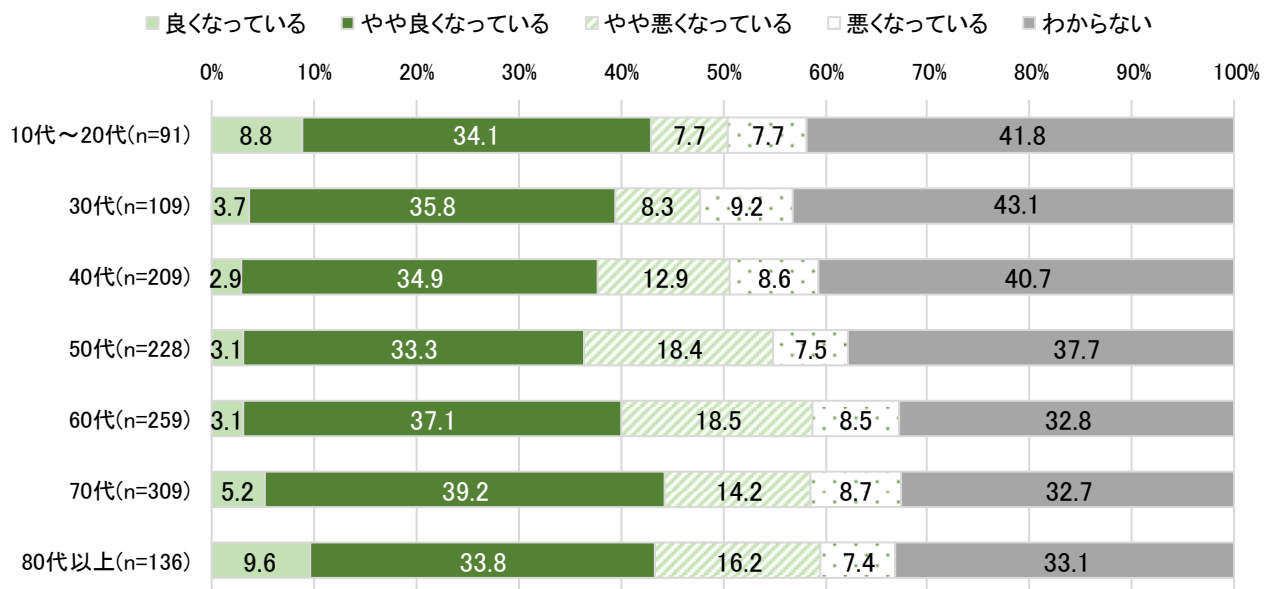


図表 20 回答者の年齢×重点プロジェクト「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」の評価



- 回答者の年齢別に重点プロジェクト「安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の評価を見ると、他の重点プロジェクトよりも全般的に「わからない」の割合が低く、安心な暮らしや地域連携の推進の評価が高くなっています。

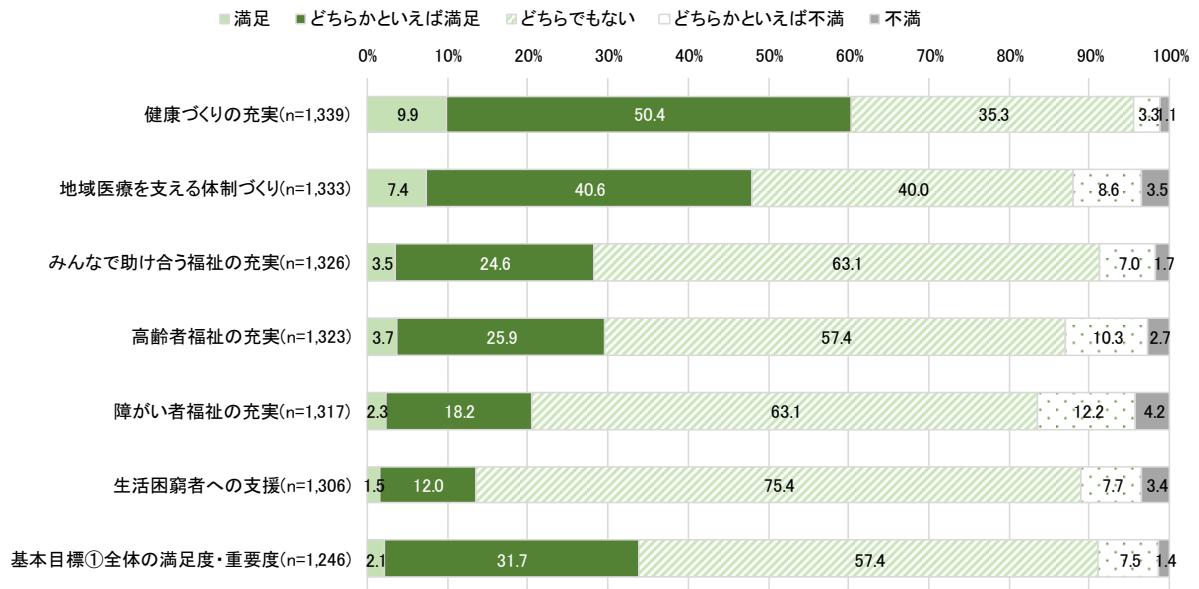
図表 21 回答者の年齢×重点プロジェクト「安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の評価



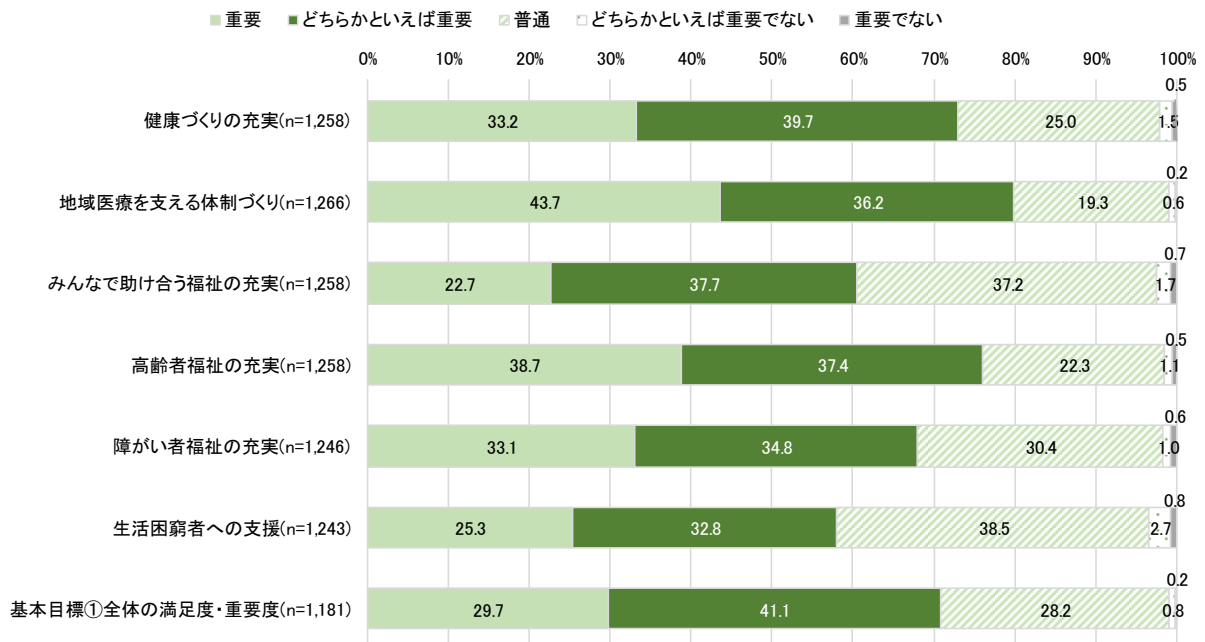
- 基本目標1の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、「健康づくりの充実」が最も高く、約6割に達しています。
- 基本目標1の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、どの施策でも5割を超えており、特に「健康づくりの充実」「地域医療を支える体制づくり」「高齢者福祉の充実」は7割を超えています。また、基本目標1全体でも7割を超えています。

② 基本目標1「みんなが助け合い、健康に暮らせるまちづくり」の評価

図表 22 基本目標1の満足度

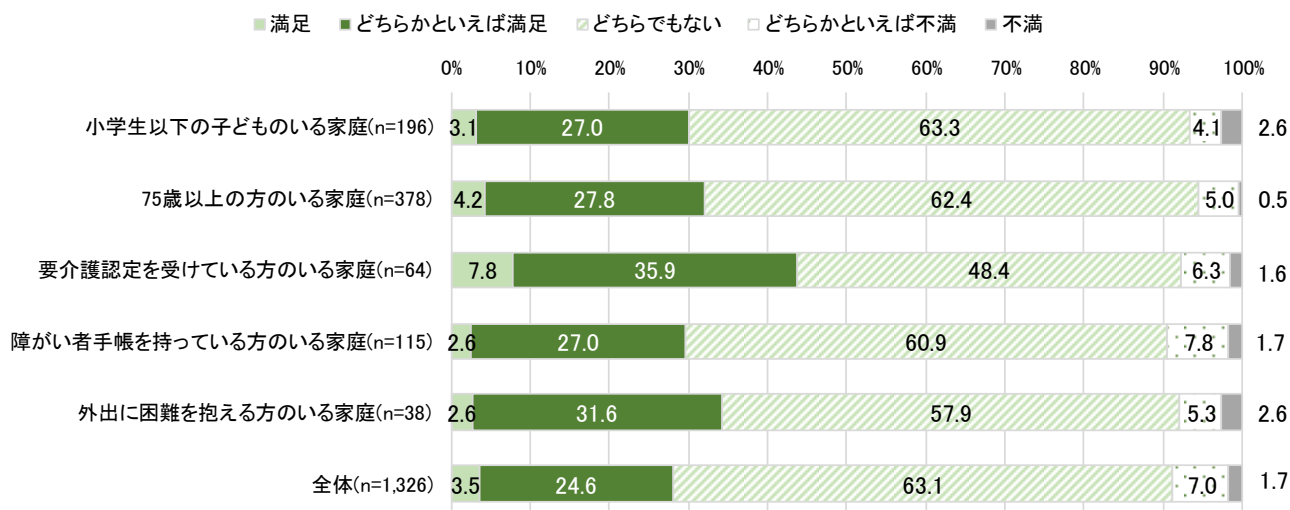


図表 23 基本目標1の重要度

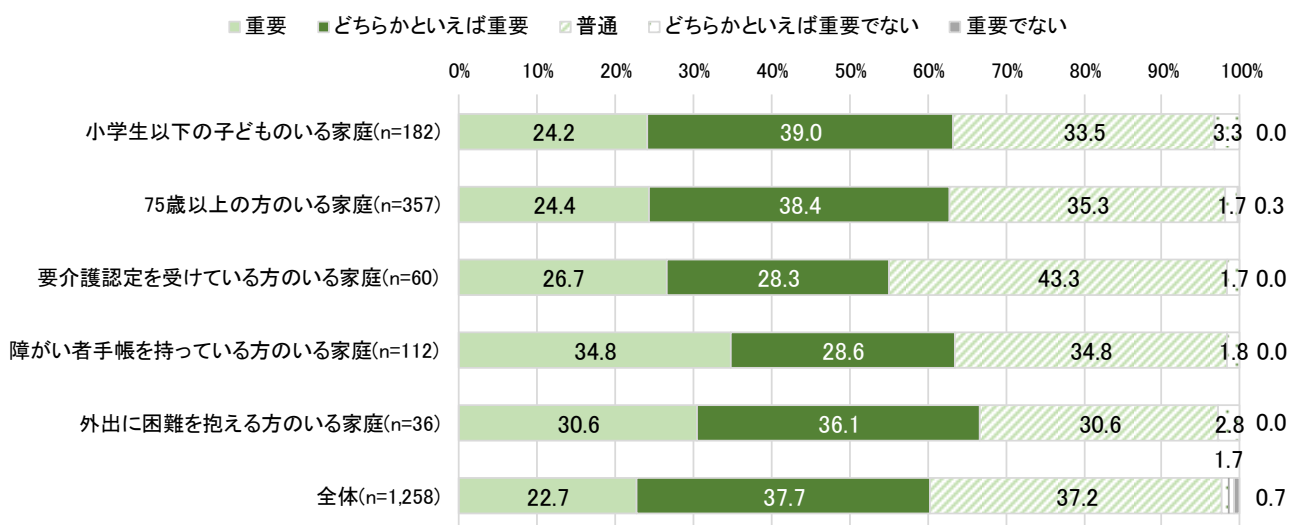


- 受益者別に施策「みんなで助け合う福祉の充実」の満足度の評価を見ると、全体の回答と比較して、受益者のいる家庭の方が、肯定的な評価が多くなっています。特に「要介護認定を受けている方のいる家庭」では肯定的な評価が多く、要介護認定者のいる家庭では、地域福祉施策が一定程度、評価されているといえます。
- 重要度を見ると要介護認定者以外の受益者のいる家庭の6割以上が「みんなで助け合う福祉の充実」は重要と評価しており、より包括的な地域福祉の取組みが求められます。

図表 24 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による満足度の分析

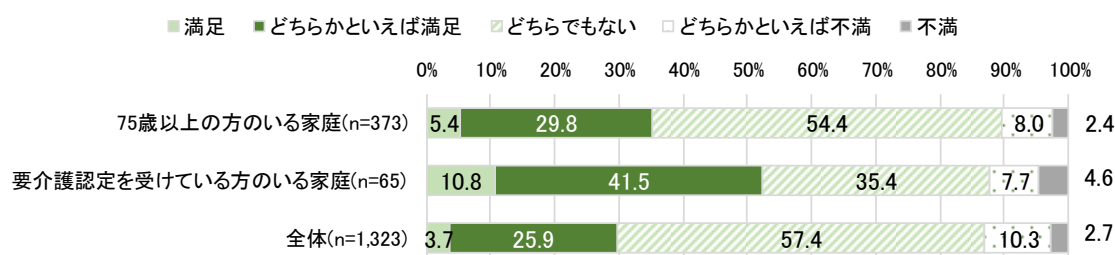


図表 25 「みんなで助け合う福祉の充実」の受益者による重要度の分析

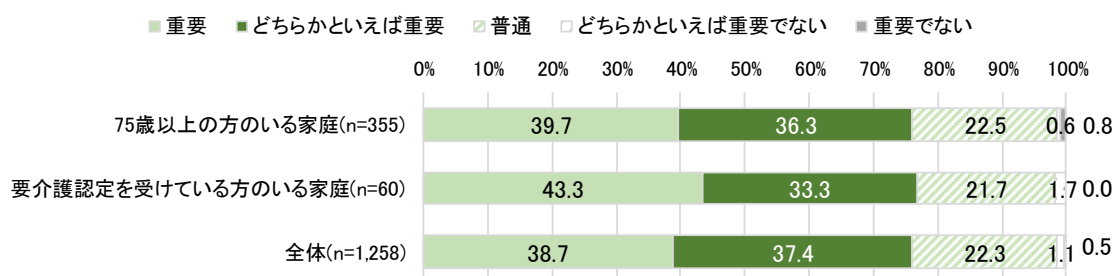


- 受益者別に施策「高齢者福祉の充実」の満足度の評価を見ると、全体の回答と比較して、受益者のいる家庭の方が、肯定的な評価が多くなっています。特に「要介護認定を受けている方のいる家庭」では肯定的な評価が多く、要介護認定者のいる家庭では、高齢者福祉施策が評価されている様子がうかがえます。重要度を見ると、「75 歳以上の方のいる家庭」でも、7割以上で重要と評価されており、要介護認定者のいる家庭に限らない、一層積極的な高齢者福祉・介護予防の取組みが求められます。
- 施策「障がい者福祉の充実」を見ると、「障がい者手帳を持っている方のいる家庭」では、不満と回答する人の割合が全体よりも 10 ポイント以上高くなっており、受益者における評価が低くなっています。重要度評価についても、全体より受益者のいる家庭で重要と考える人が多く、障がい者施策の充実とともに、障がい者と普段関わらない市民に対しても、障がい者福祉の重要性を訴えていく必要があります。

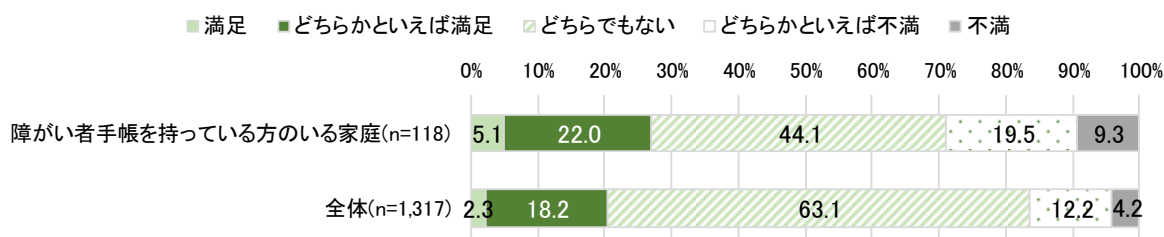
図表 26 「高齢者福祉の充実」の受益者による満足度分析



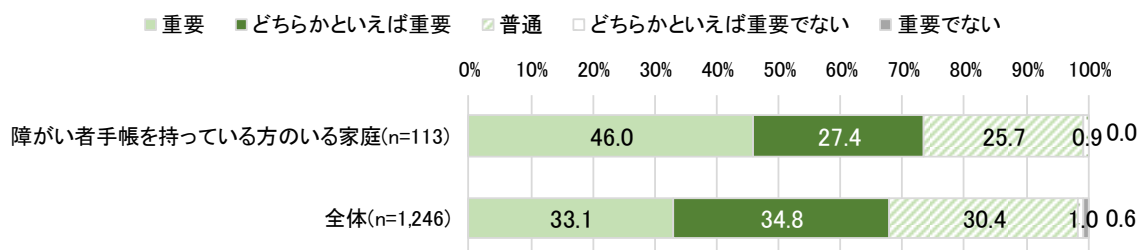
図表 27 「高齢者福祉の充実」の受益者による重要度分析



図表 28 「障がい者福祉の充実」の受益者による満足度分析



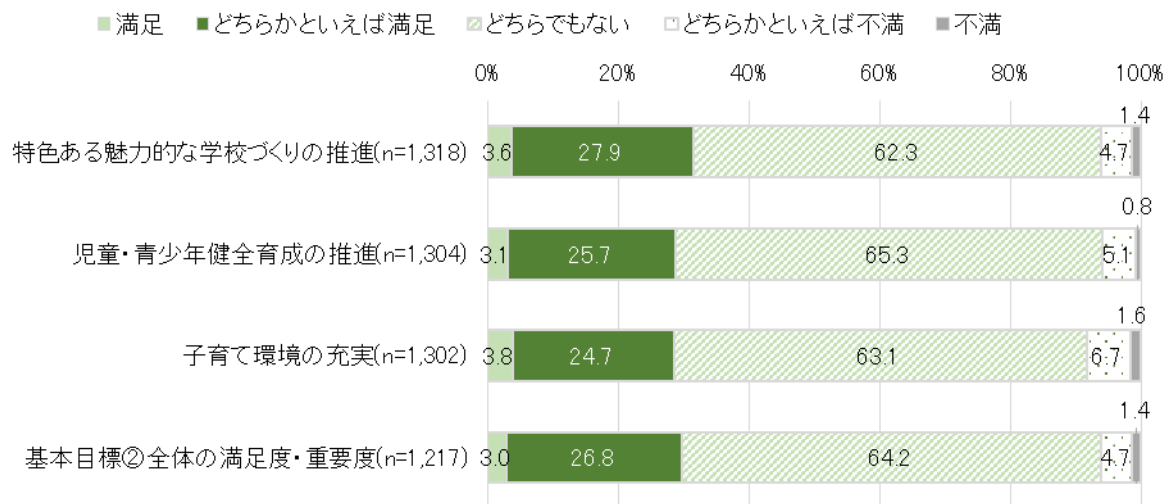
図表 29 「障がい者福祉の充実」の受益者による満足度分析



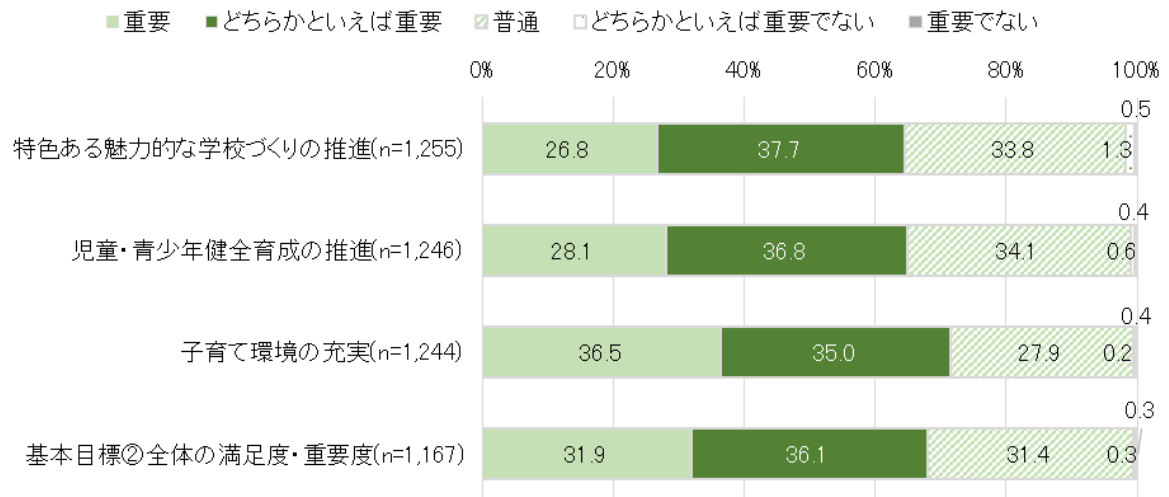
- 基本目標2の施策の満足度を見ると、いずれの施策も「どちらでもない」が6割台で最も多い回答となっています。「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、どの施策でも3割程度となっています。「子育て環境の充実」は「どちらかといえば不満」「不満」の割合が他の施策と比べてやや高くなっています。
- 基本目標2の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、「子育て環境の充実」が7割を超えて最も高く、その他の施策は6割程度となっています。

③ 基本目標2「子どもたちが未来に夢をもてるまちづくり」の評価

図表 30 基本目標2の満足度

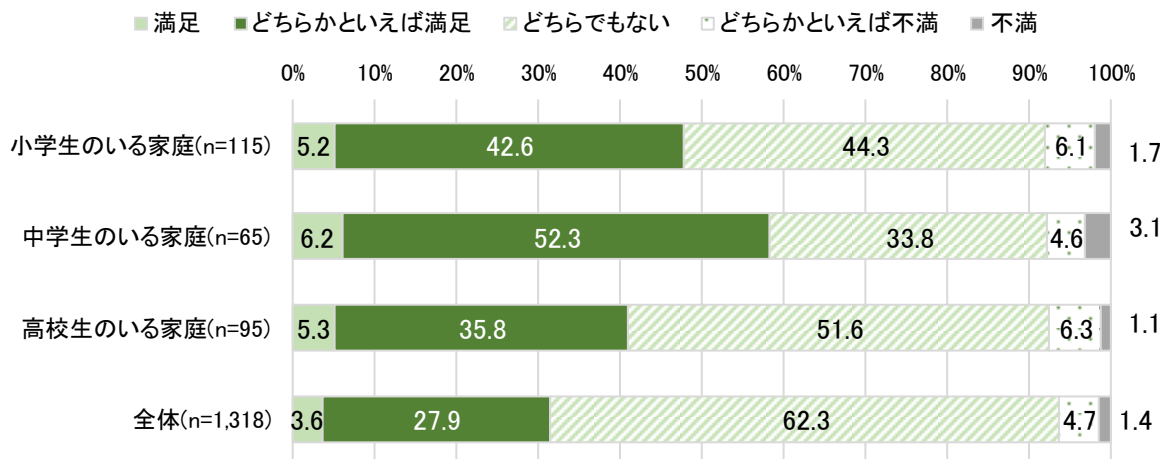


図表 31 基本目標2の重要度

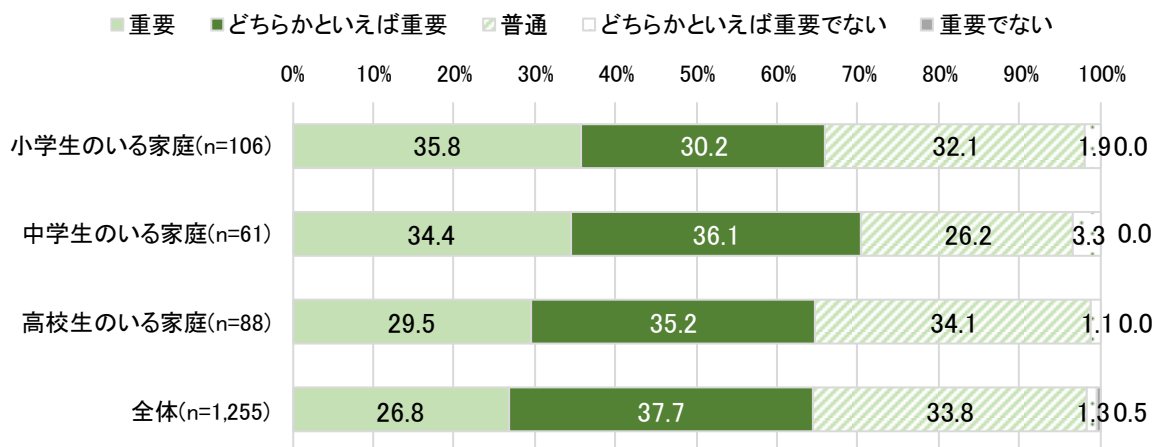


- 受益者別に施策「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の満足度の評価を見ると、全体の回答と比較して、受益者のいる家庭の方が、肯定的な評価が多くなっています。特に「中学のいる家庭」では肯定的な評価が多くなっており、学校教育の内容が評価されている様子がうかがえます。
- 重要度を見ると、「中学生のいる家庭」で重要と考える人の割合が最も高くなっていますが、全体でも重要度が高く評価されており、子どものいない家庭においても、魅力的な学校教育の推進に対する理解度は高いことが推測されます。

図表 32 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による満足度の分析

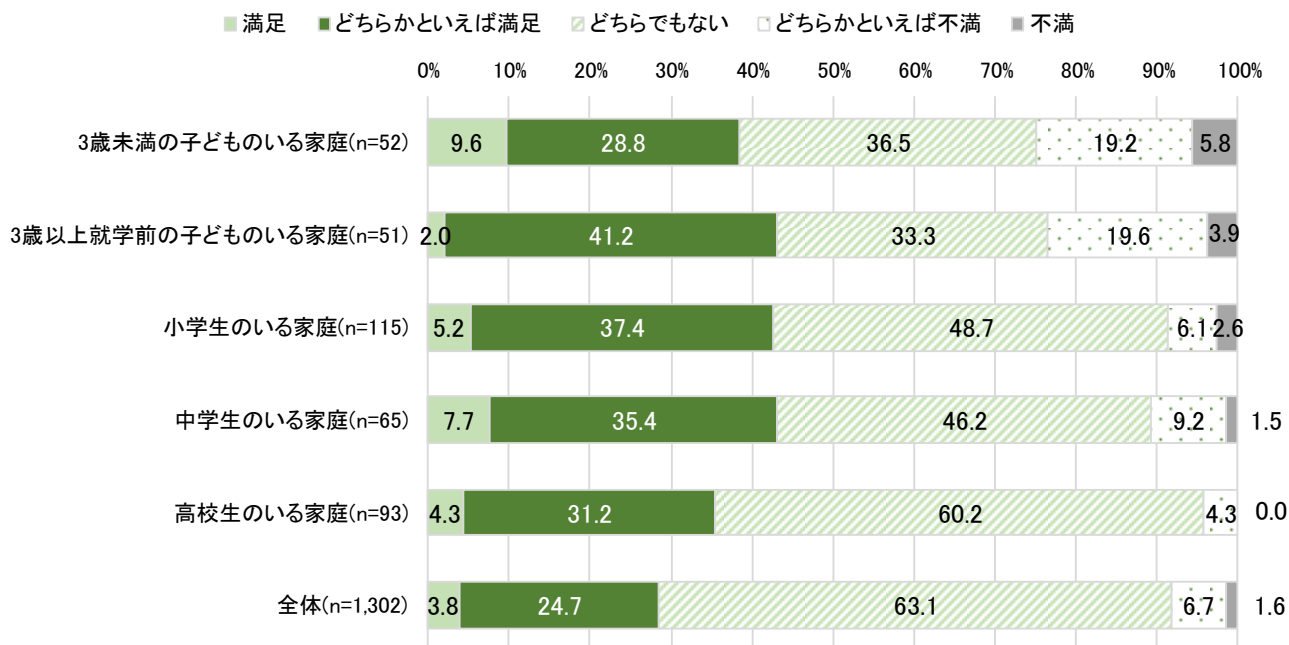


図表 33 「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の受益者による重要度の分析

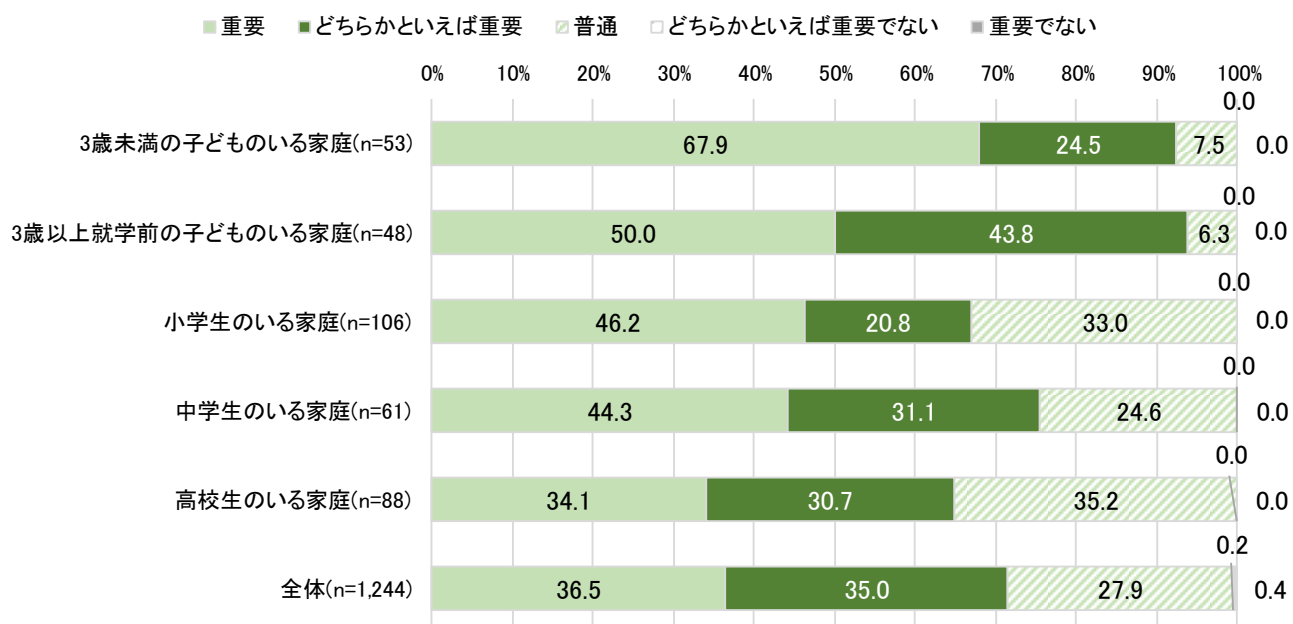


- 受益者別に施策「子育て環境の充実」の満足度の評価を見ると、全体の回答と比較して、受益者のいる家庭の方が、肯定的な評価が多くなっています。一方で、未就学児のいる家庭では、否定的な評価も多くなっており、未就学児への子育て支援の充実が求められます。
- 重要度を見ても、特に未就学児のいる家庭では評価が高くなっています。

図表 34 「子育て環境の充実」の受益者による満足度分析



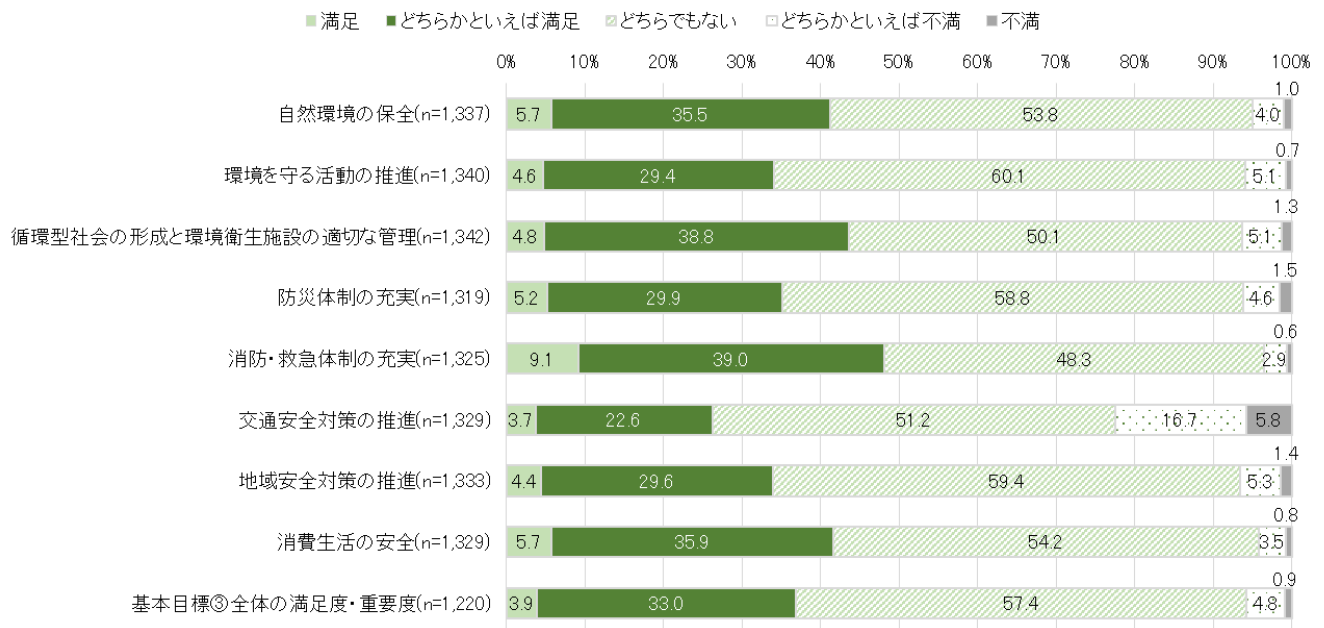
図表 35 「子育て環境の充実」の受益者による重要度分析



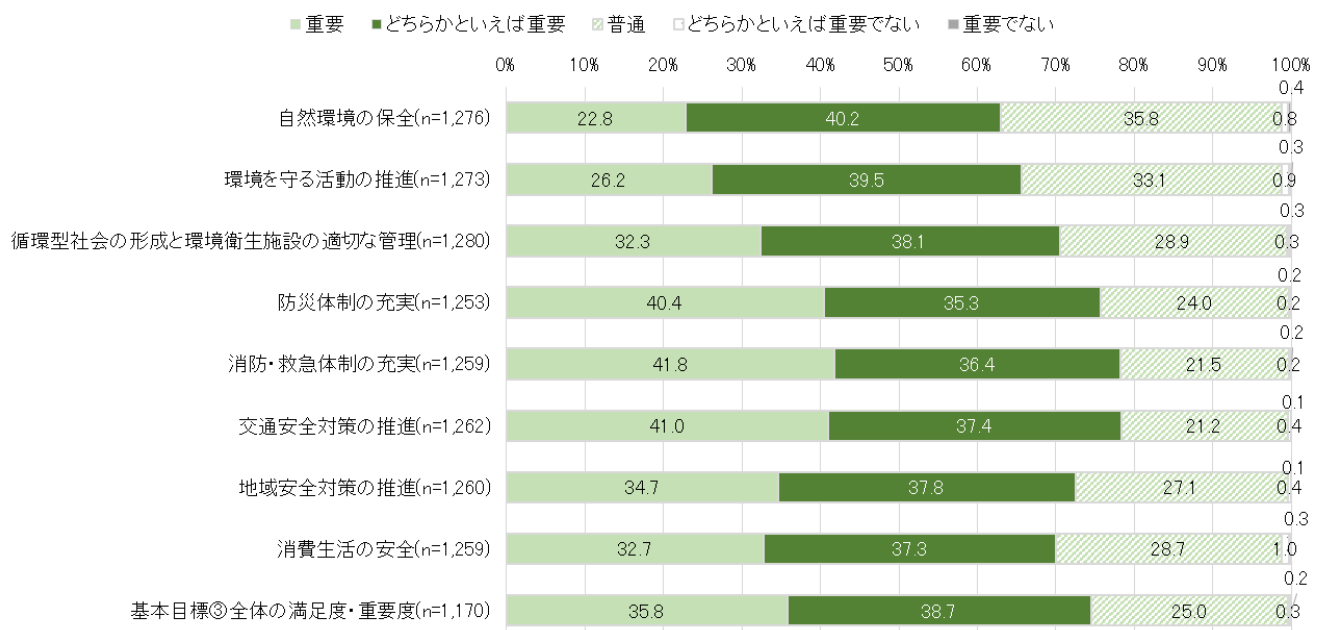
- 基本目標3の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は概ね3割を超えていますが、「交通安全対策の推進」のみ 25%程度の低い満足度にとどまり、不満足度割合も唯一2割を超えています。
- 基本目標3の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、どの施策も6割を超えており、基本目標全体としても7割を超えています。

④ 基本目標3「豊かな自然あふれる地域環境を守り、安心して安全に暮らせるまちづくり」の評価

図表 36 基本目標3の満足度



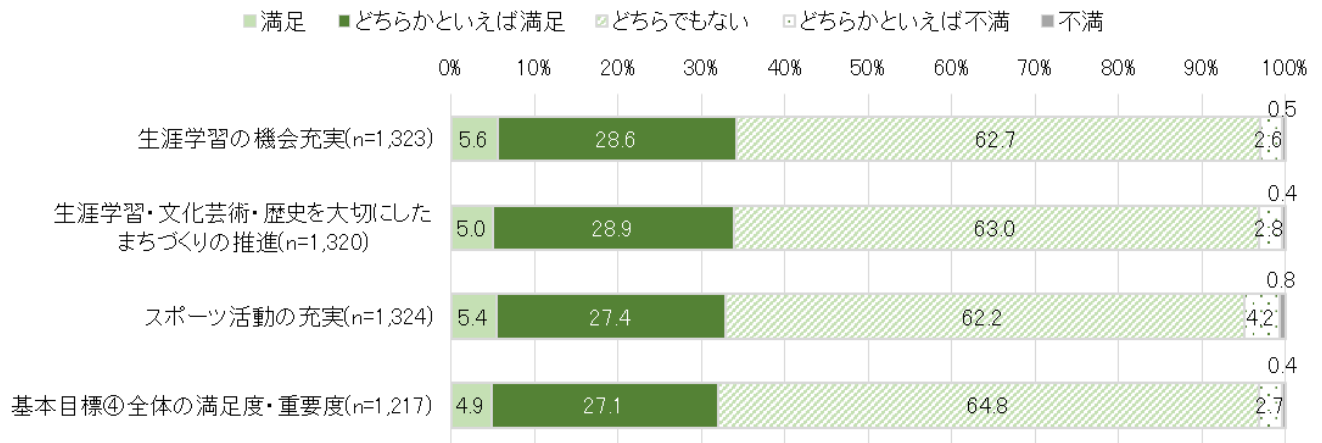
図表 37 基本目標3の重要度



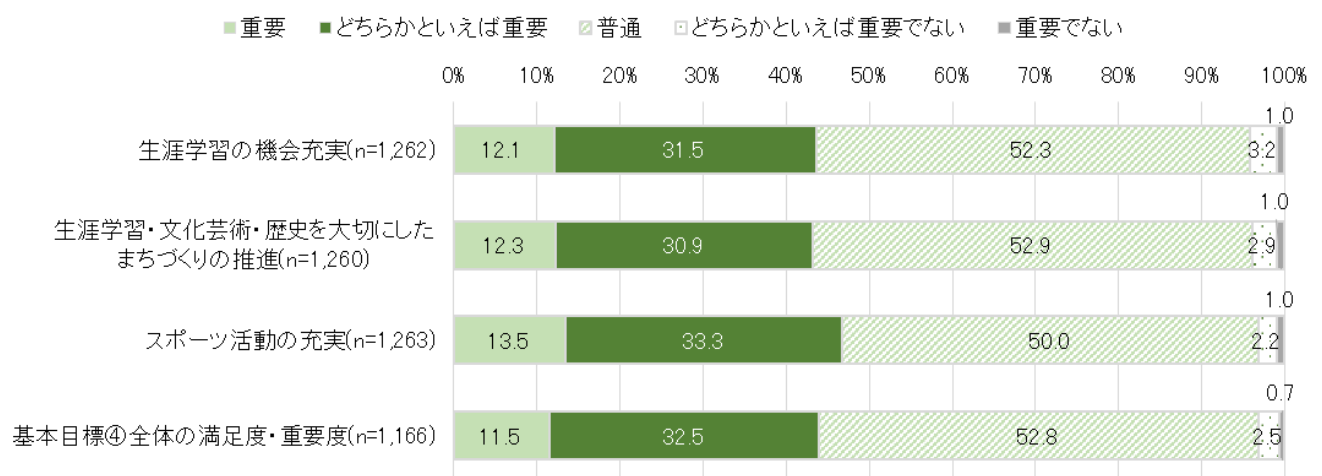
- 基本目標4の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、どの施策でも3割強となっています。
- 基本目標4の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、どの施策でも4割強となっています。

⑤ 基本目標4「多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり」の評価

図表 38 基本目標4の満足度



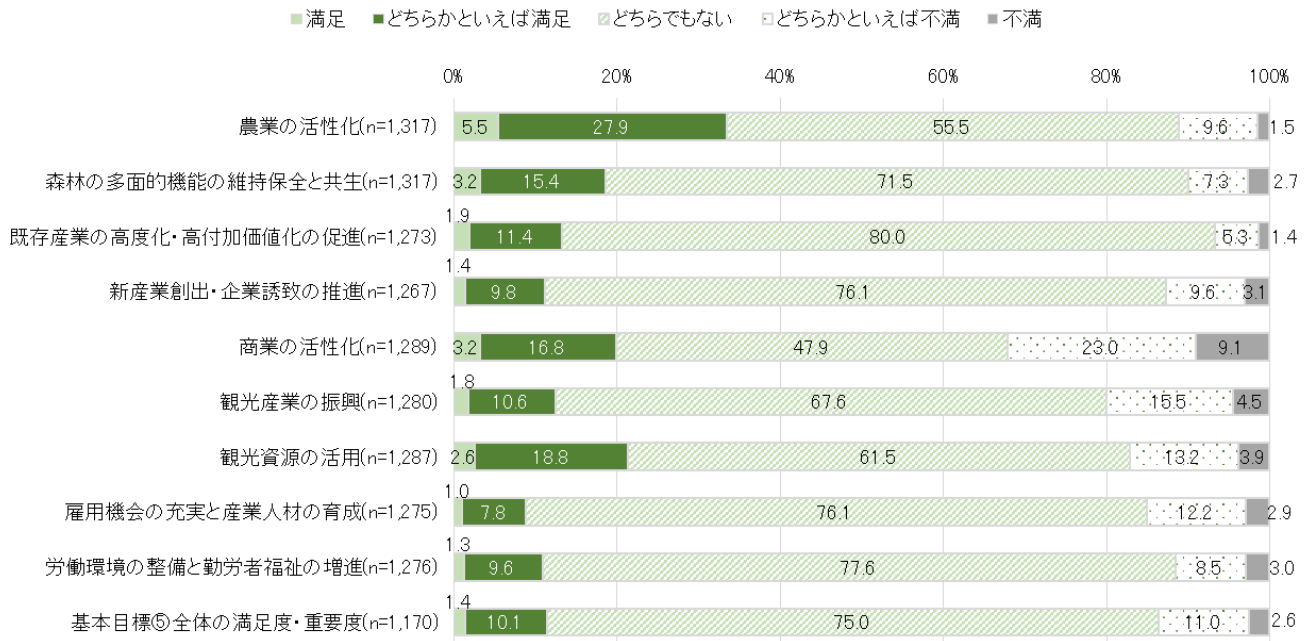
図表 39 基本目標4の重要度



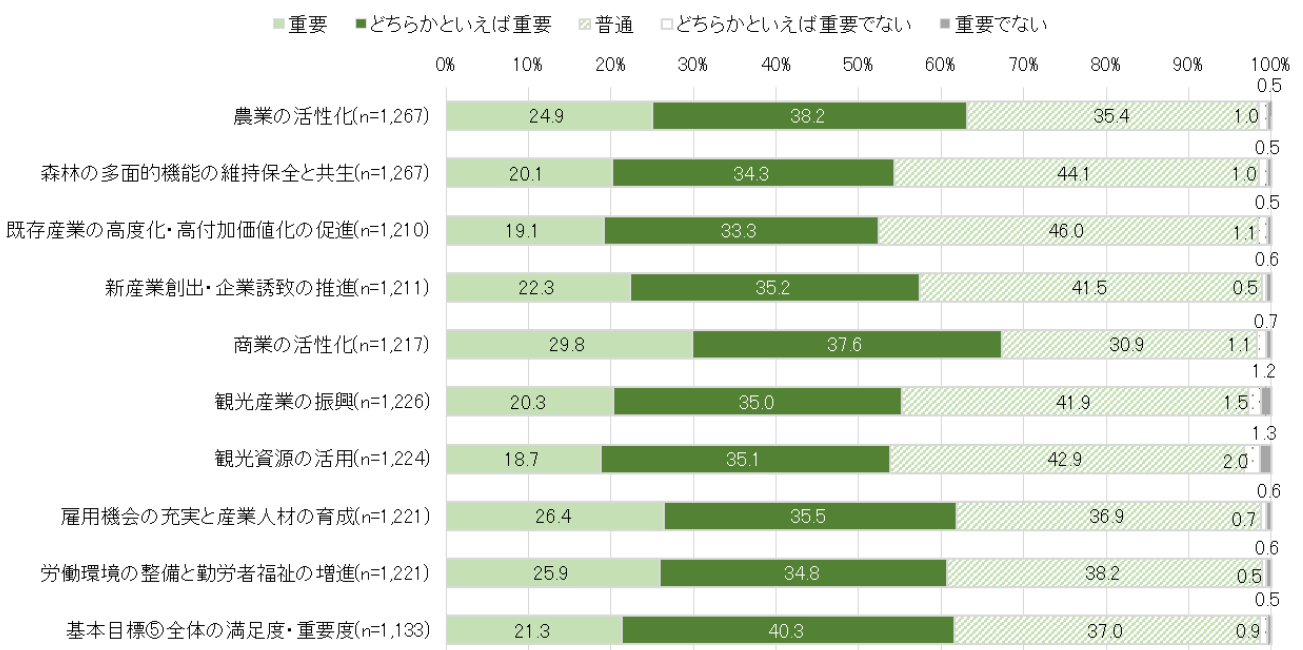
- 基本目標5の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、「農業の活性化」が最も高くなっていますが、多くの施策は1割程度と低水準にとどまっています。特に「商業の活性化」は3割以上が不満と回答しています。
- 基本目標5の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」は、どの施策でも5割を超えており、特に「農業の活性化」「商業の活性化」の割合が高くなっています。

⑥ 基本目標5「みんなの活力があふれるまちづくり」の評価

図表 40 基本目標5の満足度

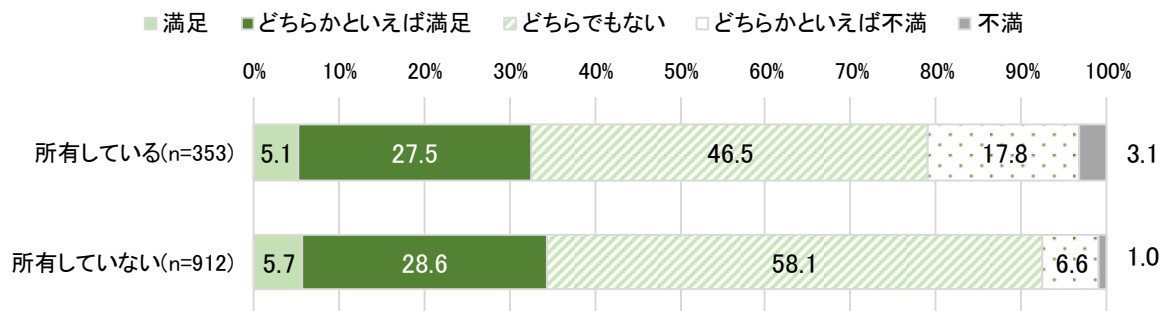


図表 41 基本目標5の重要度

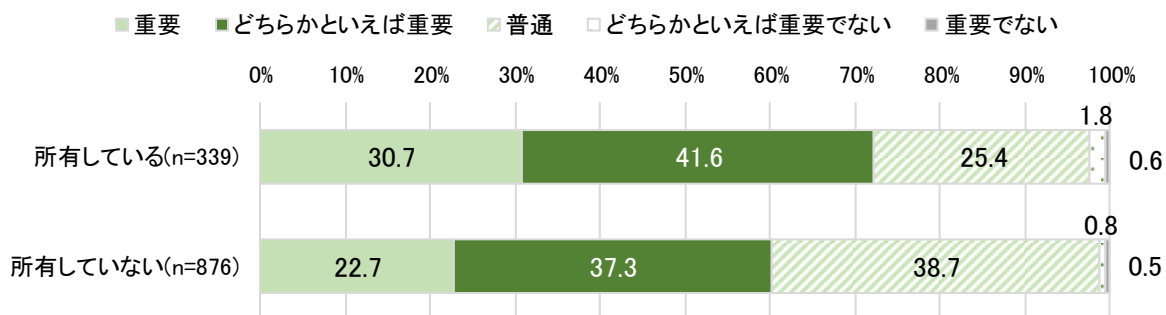


- 農地の保有状況別に施策「農業の活性化」の満足度を見ると、農地を所有している人の方が、農地を所有していない人と比べて、否定的な評価が多くなっています。
- 重要度を見ても、農地を所有する人の方が重要と考える人の割合が高くなっています。

図表 42 「農業の活性化」の受益者(農地所有状況)による満足度の分析

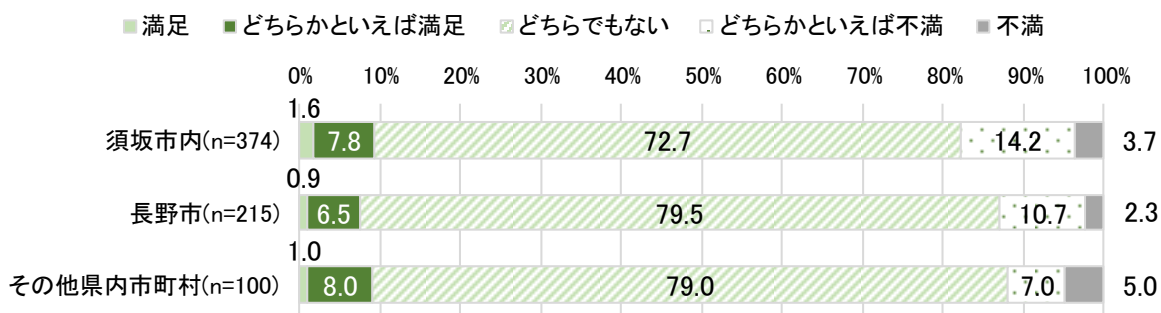


図表 43 「農業の活性化」の受益者(農地所有状況)による重要度の分析

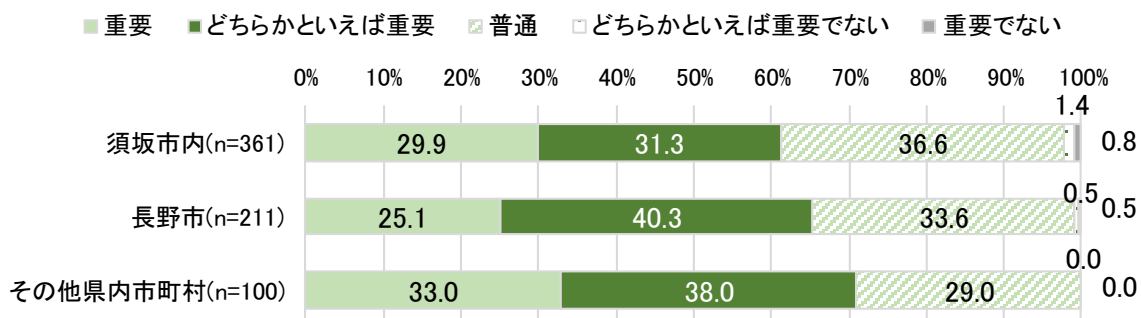


- 回答者の勤務先別に施策「雇用機会の充実と産業人材の育成」の満足度を見ると、概ね「どちらでもない」とする中間的な評価が多くなっていますが、須坂市内に勤務する人の方が若干否定的な評価が多くなっています。
- 重要度を見ると、須坂市外に勤務する人の方が、重要と考える人の割合がやや高くなっています。市内に雇用が確保されていれば、市内で勤務したいと考えている人が一定数いることが推測されます。

図表 44 「雇用機会の充実と産業人材の育成」の受益者(勤務先別)による満足度分析



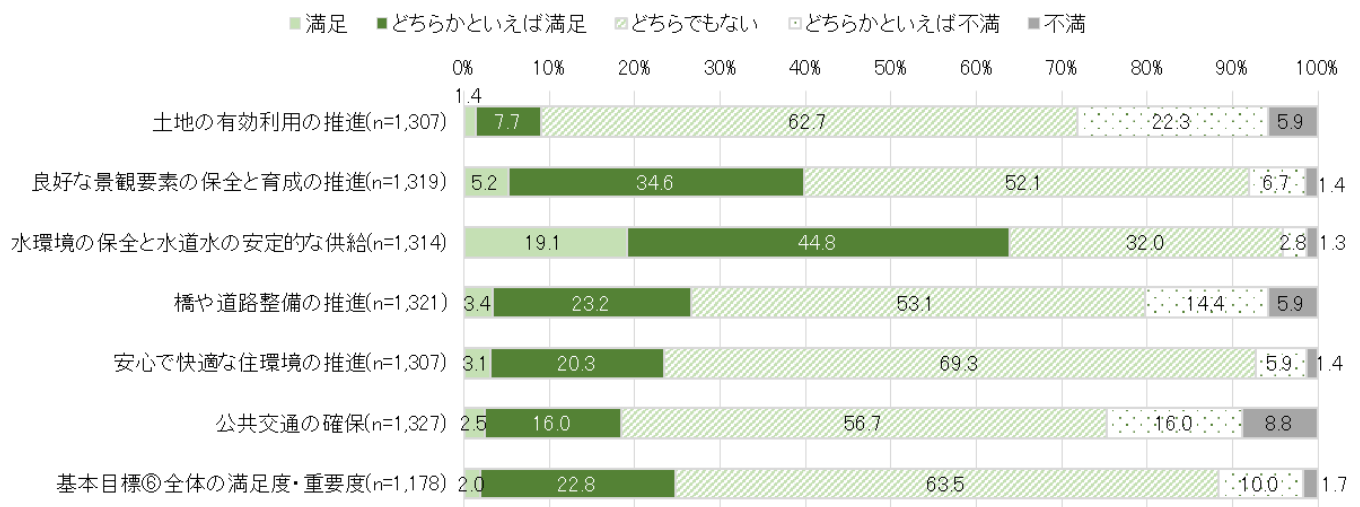
図表 45 「雇用機会の充実と産業人材の育成」の受益者(勤務先別)による重要度分析



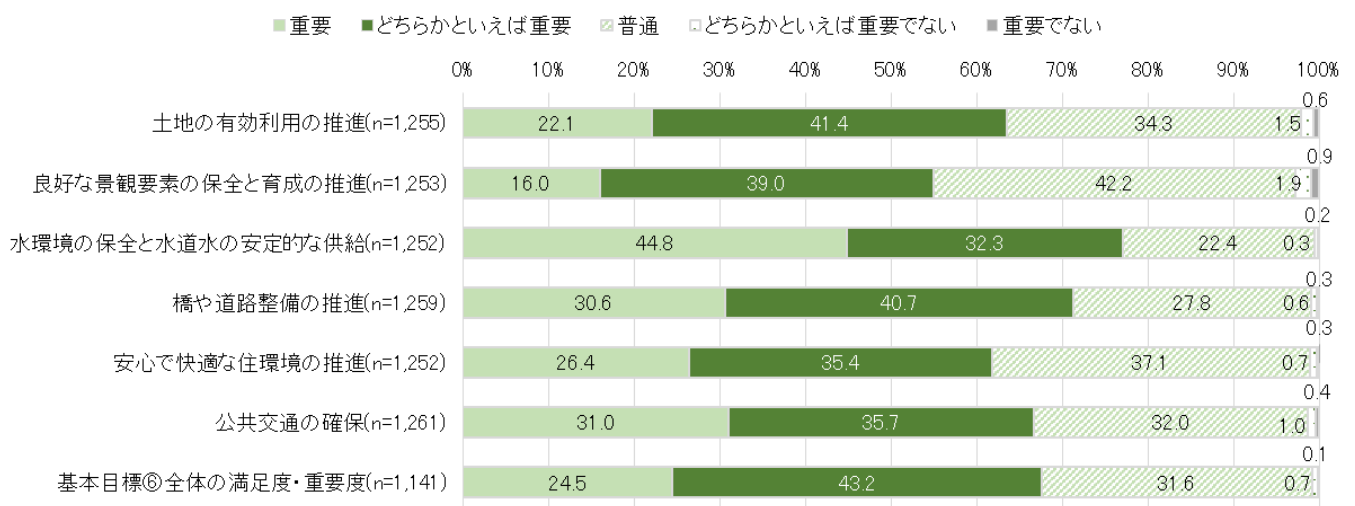
- 基本目標6の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、「水環境の保全と水道水の安定的な供給」が突出して高く、ついで「良好な景観要素の保全と育成の推進」が高くなっています。一方で、「土地の有効利用の推進」は10%以下となっており、不満の割合も高くなっています。「公共交通の確保」「橋や道路整備の推進」も不満とする回答者が多く見られます。
- 基本目標6の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、「水環境の保全と水道水の安定的な供給」が突出して高く、ついで「橋や道路整備の推進」が高くなっています。

⑦ 基本目標6「みんなが快適に生活できるまちづくり」の評価

図表 46 基本目標6の満足度

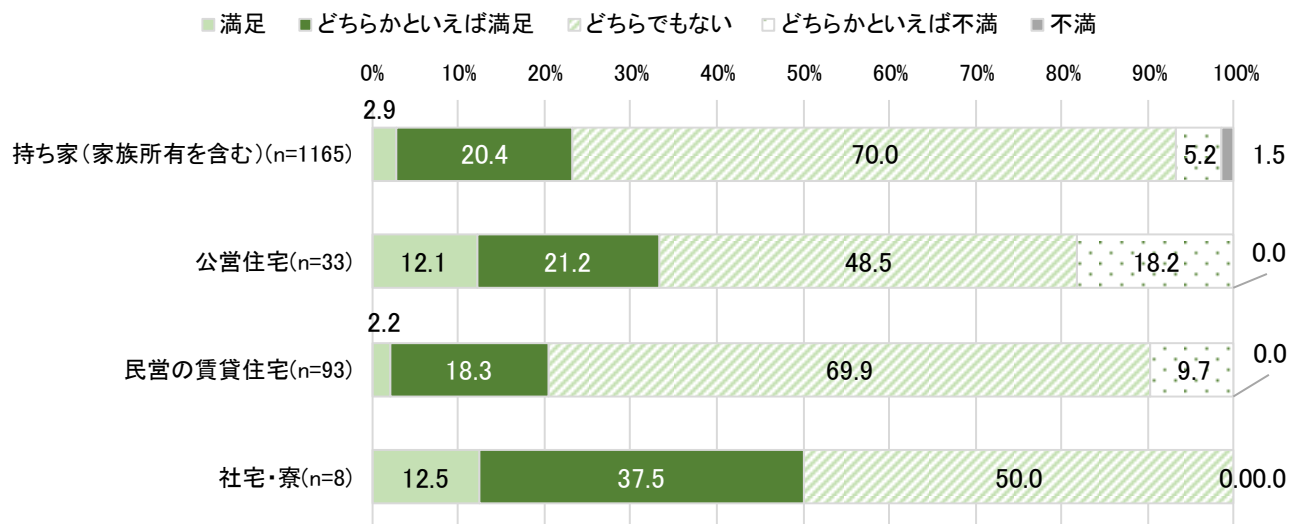


図表 47 基本目標6の重要度

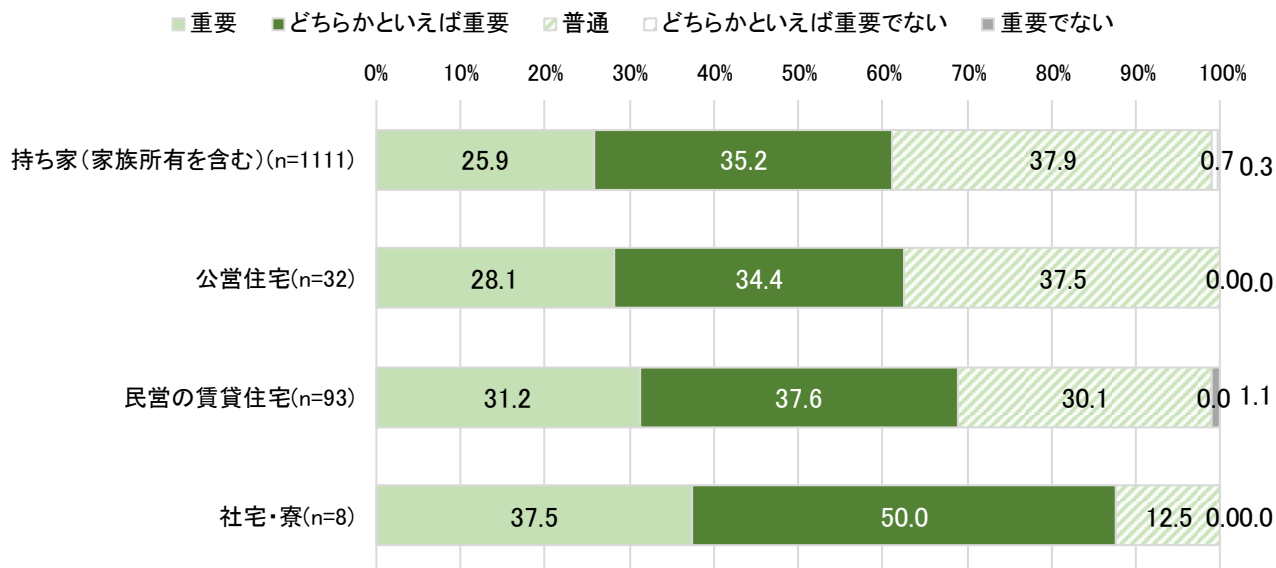


- 持ち家状況別に施策「安心して快適な住環境の整備」の満足度を見ると、概ね「どちらでもない」とする中間的な評価が多くなっていますが、持ち家や民営賃貸住宅と比較して、公営住宅に住む人では、肯定的な評価も否定的な評価も多くなっています。
- 重要度を見ると、社宅・寮等に住んでいる人は突出して高く、それ以外は概ね6割の人が住まいの確保を重要と捉えています。中でも民営賃貸住宅に住む人では、重要と考える人の割合が高くなっています。

図表 48 「安心して快適な住環境の整備」の受益者(持ち家状況別)による満足度の分析

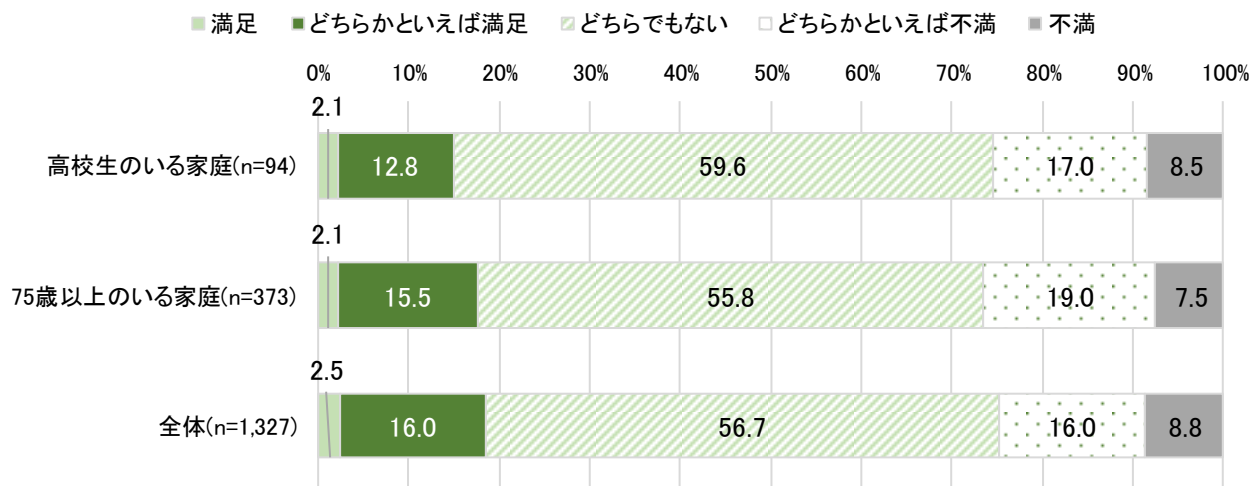


図表 49 「安心して快適な住環境の整備」の受益者(持ち家状況別)による重要度の分析

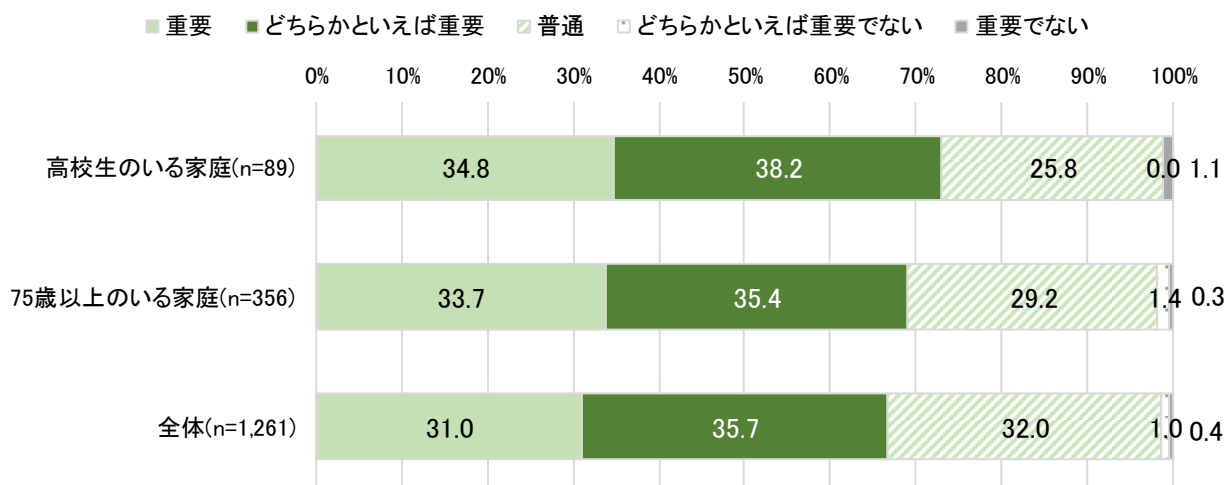


- 主な公共交通の利用者のいる家庭別に施策「公共交通の確保」の満足度を見ると、全体的に「どちらでもない」とする中間的な評価が多くなっていますが、主な利用者となる方のいる家庭では、全体と比較すると若干肯定的な評価が低く、否定的な評価が多くなっています。
- 重要度については、全体と比較して受益者のいる家庭の方が重要とする割合がやや高くなっており、高校生や75歳以上の方のいる家庭で全体より重要視されていると言えます。

図表 50 「公共交通の確保」の受益者による満足度分析



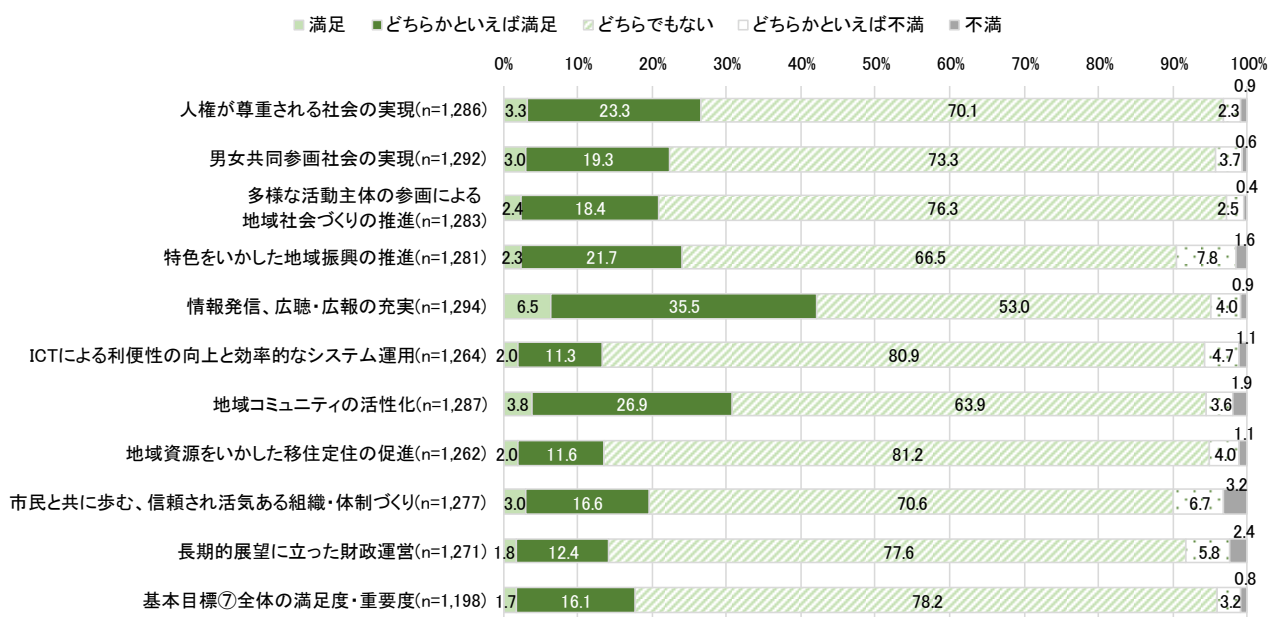
図表 51 「公共交通の確保」の受益者による重要度分析



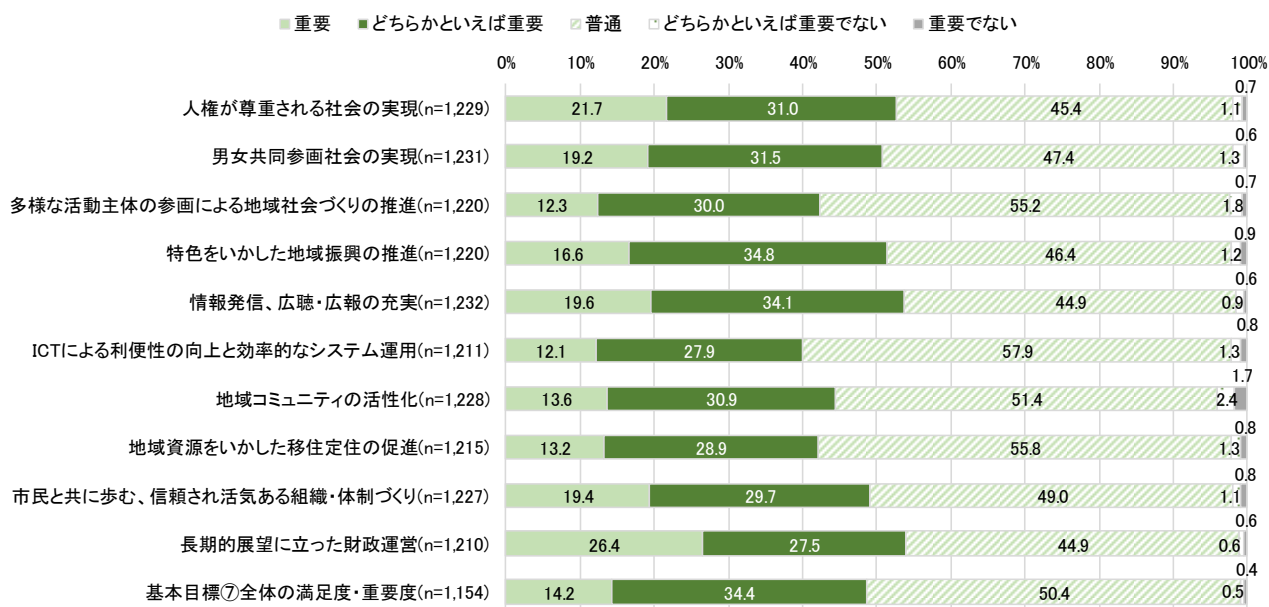
- 基本目標7の施策の満足度を見ると、「満足」「どちらかといえば満足」の割合は、「情報発信、広聴・広報の充実」「地域コミュニティの活性化」が高いものの、基本目標全体では2割程度にとどまっています。多くの施策で「どちらでもない」という中間評価がかなり高い傾向にあり、施策を実感できていない人が多いと思われます。
- 基本目標7の施策の重要度を見ると、「重要」「どちらかといえば重要」の割合は、どの施策でも4割から5割程度で、基本目標全体でも5割程度となっています。

⑧ 基本目標7「みんなが主役のまちづくり」の評価

図表 52 基本目標7の満足度



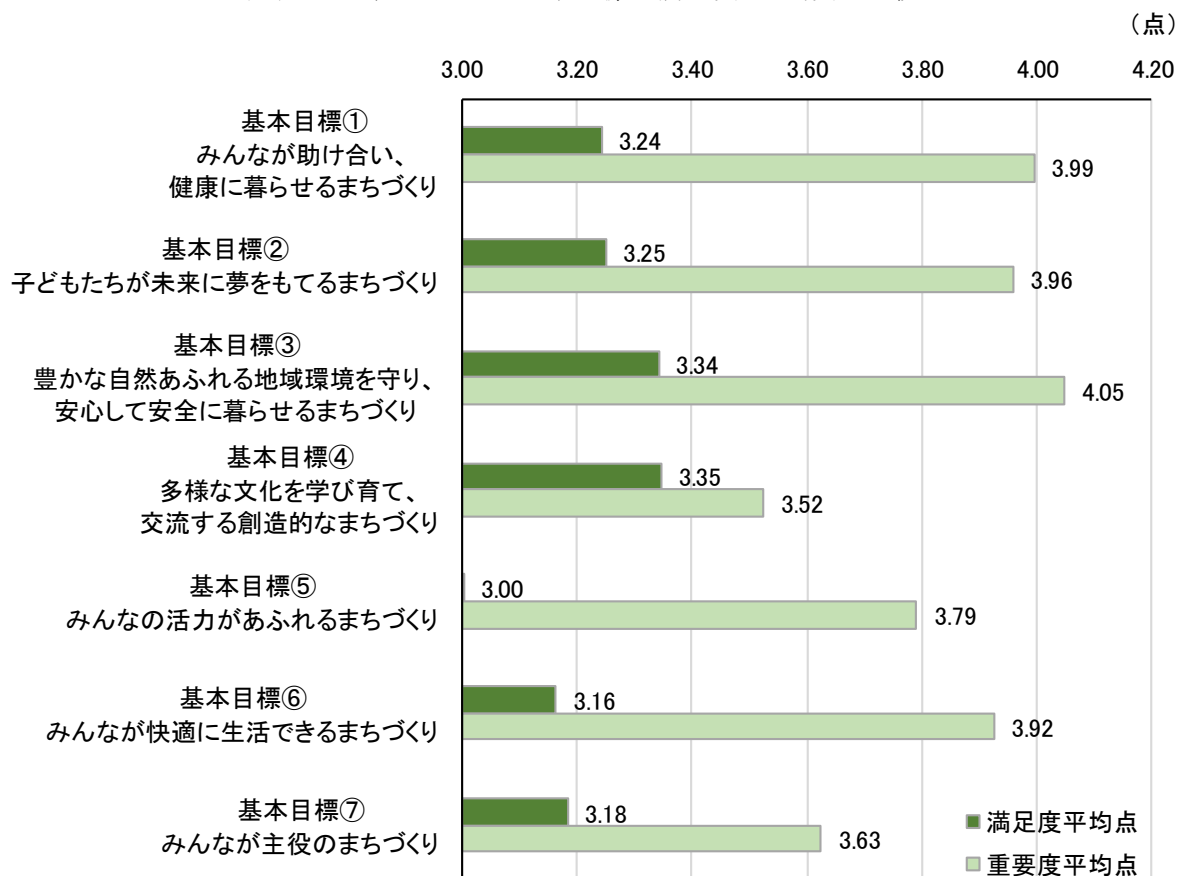
図表 53 基本目標7の重要度



- 「満足/重要」を5点、「どちらかといえば満足/重要」を4点、「どちらでもない/普通」を3点、「どちらかといえば不満/重要でない」を2点、「不満/重要でない」を1点として各基本目標の平均点を算出し比較しました。
- 満足度の平均点では、基本目標4が最も高くなっている一方で、基本目標5が最も低くなっています。
- 重要度の平均点では、基本目標3が最も高く、ついで基本目標1、2が高くなっています。また、基本目標4は最も重要度が低くなっています。

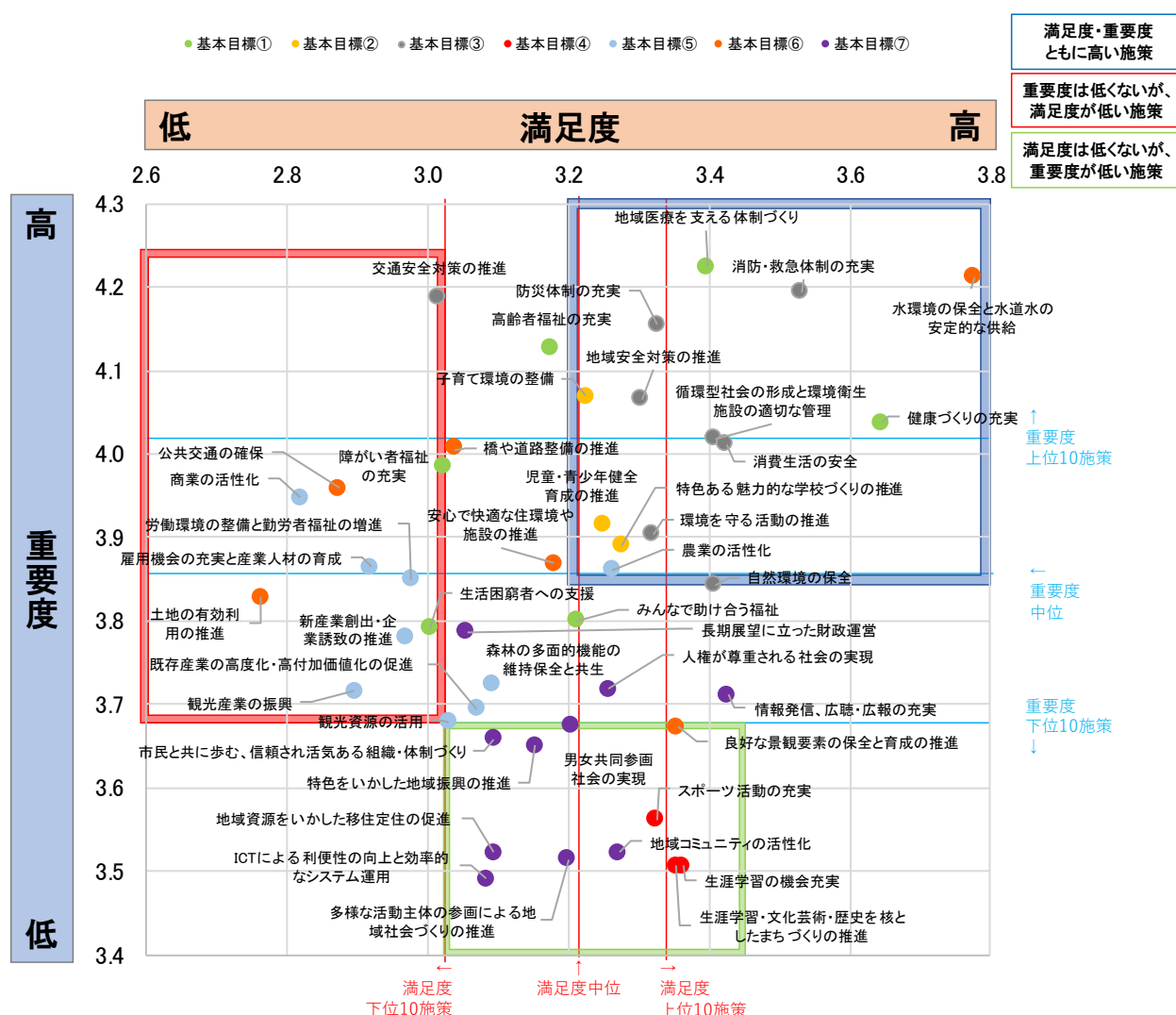
⑨ 各施策の満足度・重要度の平均点による比較

図表 54 平均点による基本目標の満足度・重要度の比較



- 各施策の満足度・重要度を、「満足/重要」を5点、「どちらかといえば満足/重要」を4点、「どちらでもない/普通」を3点、「どちらかといえば不満/重要でない」を2点、「不満/重要でない」を1点として得点化し、図表 55 に満足度平均点を横軸、重要度平均点を縦軸としてプロットしました。
- 図表 55 を見ると、「水環境の保全と水道水の安定的な供給」「消防・救急体制の充実」「健康づくりの充実」等は満足度も重要度も高く、引き続き充実した取組みを維持することが求められます。
- 一方で、重要度は低くないものの満足度が低くなっている「商業の活性化」「公共交通の確保」「雇用機会の充実と産業人材の育成」等の施策は、取組みを強化する必要があります。
- また、満足度は低くないものの重要度はあまり高く評価されていない「生涯学習の機会充実」「生涯学習・文化芸術・歴史を核としたまちづくりの推進」「地域コミュニティの活性化」等の施策は、市民にとって概ね満足されている、もしくは優先順位の低い施策であり、今後の継続について検討すべき施策群と言えます。

図表 55 平均点による各施策の満足度・重要度のプロット



- 各施策の満足度の平均点を「満足」を5点、「どちらかといえば満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「どちらかといえば不満」を2点、「不満」を1点として算出し、年代ごとに平均点による施策の順位付けを行いました。
- どの年代でも、「水環境の保全と水道水の安定的な供給」「健康づくり」「消防・救急体制」が上位となっている一方で、「商業の活性化」「観光産業の振興」「雇用機会の充実と産業人材の育成」「土地の有効利用」は下位となっています。年代別に大きく傾向が異なるものとしては、20代で「地域医療」の満足度順位が低いこと、20代で「安心して快適な住環境」の満足度順位が高いことなどがあげられます

図表 56 年代別施策満足度の順位

※青色が上位 10 位、赤色が下位 10 位

基本 目標	施策 No	施策	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	健康づくりの充実	5	9	2	2	2	2	2	2
	2	地域医療を支える体制づくり	8	35	18	16	6	4	4	4
	3	みんなで助け合う福祉	13	16	14	26	26	23	23	22
	4	高齢者福祉の充実	22	34	27	31	30	18	21	23
	5	障がい者福祉の充実	22	38	31	38	35	34	34	35
	6	生活困窮者への支援	22	36	31	35	41	37	35	42
2	7	特色ある魅力的な学校づくりの推進	22	21	10	17	16	19	15	18
	8	児童・青少年健全育成の推進	9	30	11	13	17	24	20	20
	9	子育て環境の充実	13	28	22	22	21	20	19	24
3	10	自然環境の保全	2	5	3	4	11	8	11	5
	11	環境を守る活動の推進	9	12	13	15	15	13	13	13
	12	循環型社会の形成と環境衛生施設の適切な管理	5	11	8	9	3	5	10	12
	13	防災体制の充実	22	8	16	14	18	17	9	11
	14	消防・救急体制の充実	9	6	6	7	5	3	3	3
	15	交通安全対策の推進	13	27	44	42	38	36	31	28
	16	地域安全対策の推進	22	13	12	10	14	15	18	14
	17	消費生活の安全	13	7	4	5	8	6	5	8
4	18	生涯学習の機会充実	22	26	19	11	7	9	7	9
	19	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進	22	23	15	12	12	10	8	10
	20	スポーツ活動の充実	13	23	21	19	10	11	14	6
5	21	農業の活性化	2	3	7	8	13	25	26	25
	22	森林の多面的機能の維持保全と共生	22	19	16	24	27	35	38	33
	23	既存産業の高度化・高付加価値化の促進	37	32	27	33	32	31	33	32
	24	新産業創出・企業誘致の推進	39	41	40	37	34	39	40	38
	25	商業の活性化	41	45	45	45	45	44	44	40
	26	観光産業の振興	41	44	43	41	42	43	39	41
	27	観光資源の活用	13	20	38	30	36	38	37	37
	28	雇用機会の充実と産業人材の育成	41	43	39	39	39	42	41	43
	29	労働環境の整備と勤労者福祉の増進	39	39	36	34	37	40	42	39
6	30	土地の有効利用の推進	44	39	42	43	44	45	45	45
	31	良好な景観要素の保全と育成の推進	2	2	5	6	9	12	17	16
	32	水環境の保全と水道水の安定的な供給	1	1	1	1	1	1	1	1
	33	橋や道路整備の推進	9	25	35	40	40	33	36	27
	34	安心して快適な住環境の推進	33	10	24	25	22	21	25	31
	35	公共交通の確保	44	41	41	44	43	41	43	44
7	36	人権が尊重される社会の実現	7	15	25	23	19	16	16	17
	37	男女共同参画社会の実現	19	17	20	20	23	22	24	19
	38	多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進	19	22	22	21	23	27	22	21
	39	特色をいかした地域振興の推進	34	18	25	26	23	28	27	30
	40	情報発信、広聴・広報の充実	31	4	9	3	4	7	6	7
	41	ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用	37	29	34	29	29	29	29	36
	42	地域コミュニティの活性化	19	14	27	18	20	14	12	15
	43	地域資源をいかした移住定住の促進	34	31	37	28	28	26	32	34
	44	市民と共に歩む、信頼され活気ある組織・体制づくり	31	33	30	31	31	32	28	26
	45	長期的展望に立った財政運営	36	36	33	36	33	30	30	29

- 各施策の重要度の平均点を、「重要」を5点、「どちらかといえば重要」を4点、「普通」を3点、「どちらかといえば重要でない」を2点、「重要でない」を1点として算出し、年代ごとに平均点による施策の順位付けを行いました。
- どの年代でも、「地域医療」「交通安全対策」「地域安全対策」「水環境の保全と水道水の安定的な供給」が上位である一方で、「生涯学習の機会充実」「生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進」「スポーツ活動」「多様な主体の参画による地域社会づくり」「ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用」「地域コミュニティの活性化」の重要度が低くなっています。年代別に大きく異なる傾向としては、10代で「みんなで助け合う福祉」の重要度が低いこと、10代・20代で全般的に産業と雇用の充実にかかる施策の順位が高いこと、10代で男女共同参画の順位が高いことがあげられます。

図表 57 年代別施策重要度の順位

※青色が上位 10 位、赤色が下位 10 位

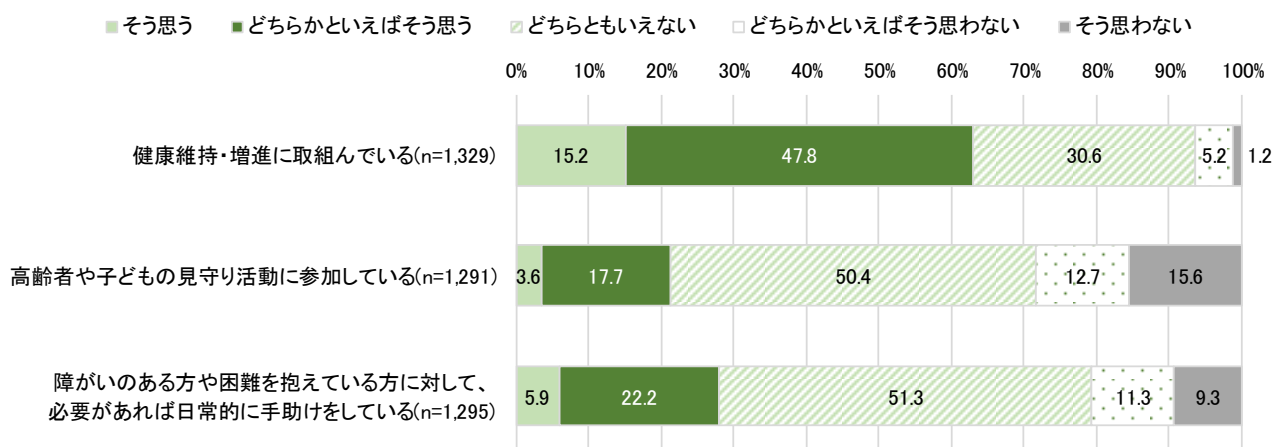
基本 目標	施策 No	施策	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
1	1	健康づくりの充実	33	9	7	9	16	7	12	8
	2	地域医療を支える体制づくり	10	1	1	2	1	2	5	4
	3	みんなで助け合う福祉	39	25	24	22	25	27	26	26
	4	高齢者福祉の充実	28	6	10	4	2	6	6	7
	5	障がい者福祉の充実	18	14	14	7	8	14	16	17
	6	生活困窮者への支援	28	26	22	24	22	30	30	32
2	7	特色ある魅力的な学校づくりの推進	15	27	9	20	20	25	15	16
	8	児童・青少年健全育成の推進	18	23	11	25	15	18	13	20
	9	子育て環境の充実	4	3	2	11	7	12	10	13
3	10	自然環境の保全	28	32	27	21	23	17	18	12
	11	環境を守る活動の推進	15	22	23	16	18	13	17	11
	12	循環型社会の形成と環境衛生施設の適切な管理	10	20	18	14	11	8	9	6
	13	防災体制の充実	15	4	5	6	6	4	4	3
	14	消防・救急体制の充実	18	7	8	3	3	3	2	2
	15	交通安全対策の推進	8	5	3	1	5	5	3	5
	16	地域安全対策の推進	6	10	4	8	10	9	7	9
	17	消費生活の安全	10	12	17	15	13	10	8	10
4	18	生涯学習の機会充実	45	45	44	44	41	42	38	42
	19	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしまちづくりの推進	44	44	42	45	44	43	40	38
	20	スポーツ活動の充実	43	38	39	39	40	39	43	41
5	21	農業の活性化	8	16	25	18	19	19	20	24
	22	森林の多面的機能の維持保全と共生	24	31	38	29	31	31	28	39
	23	既存産業の高度化・高付加価値化の促進	39	34	37	36	34	28	33	27
	24	新産業創出・企業誘致の推進	28	35	36	28	26	21	22	21
	25	商業の活性化	1	13	13	13	12	16	21	18
	26	観光産業の振興	24	19	28	33	28	32	39	31
	27	観光資源の活用	33	24	30	35	32	33	41	36
	28	雇用機会の充実と産業人材の育成	4	11	14	19	17	24	31	33
	29	労働環境の整備と勤労者福祉の増進	1	8	19	23	21	23	29	34
	30	土地の有効利用の推進	18	21	21	27	24	20	19	30
6	31	良好な景観要素の保全と育成の推進	36	39	35	31	30	38	35	35
	32	水環境の保全と水道水の安定的な供給	1	2	6	5	4	1	1	1
	33	橋や道路整備の推進	18	15	12	12	9	11	11	14
	34	安心で快適な住環境の推進	10	17	16	16	27	22	25	19
	35	公共交通の確保	18	17	20	10	14	15	14	14
	36	人権が尊重される社会の実現	14	29	33	38	33	29	27	23
7	37	男女共同参画社会の実現	7	29	29	37	36	35	34	37
	38	多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進	37	42	43	42	43	44	42	40
	39	特色をいかした地域振興の推進	37	36	34	32	35	37	37	43
	40	情報発信、広聴・広報の充実	26	27	31	30	37	34	24	22
	41	ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用	35	37	40	40	42	45	45	44
	42	地域コミュニティの活性化	42	43	45	43	45	40	36	29
	43	地域資源をいかした移住定住の促進	32	40	41	41	39	41	44	45
	44	市民と共に歩む、信頼され活気ある組織・体制づくり	41	41	32	34	38	36	32	25
	45	長期的展望に立った財政運営	26	32	25	26	29	26	23	28

(3) 自身の活動の状況や今後の意向

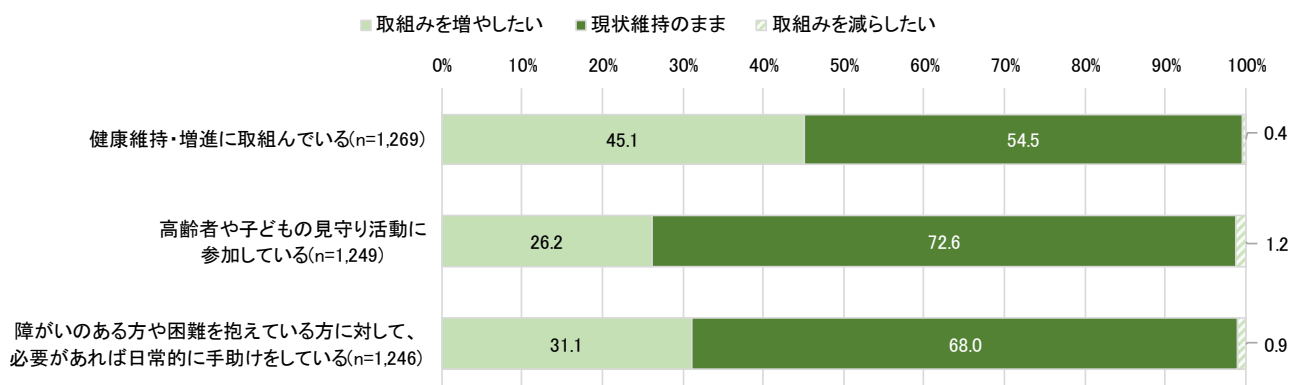
- 基本目標1「みんなが助け合い、健康に暮らせるまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、自分自身の「健康維持・増進に取り組んでいる」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は6割を超えているのに対して、高齢者や子ども、障がいのある方の見守り・支援に取り組んでいる人は2～3割にとどまっています。
- 今後の取組み意向も同様の傾向です。

① 基本目標1に関する活動

図表 58 現在の取組み状況



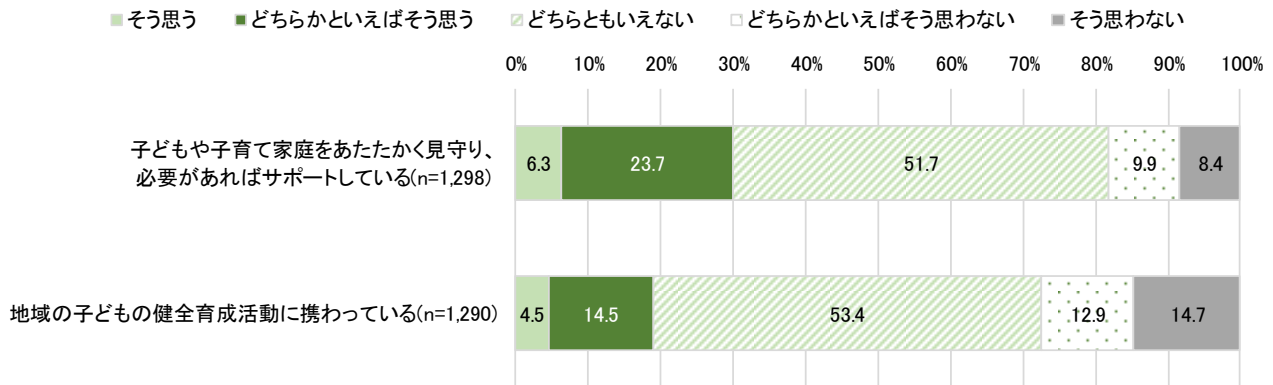
図表 59 今後の取組み意向



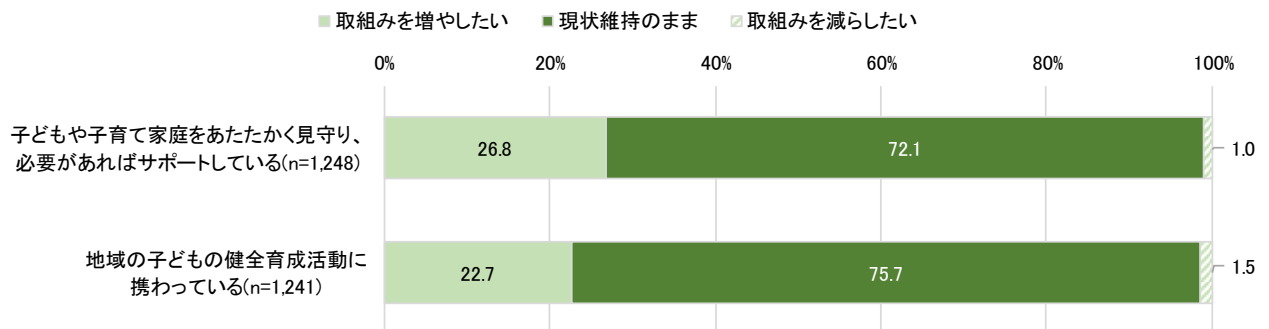
- 基本目標2「子どもたちが未来に夢をもてるまちづくり」に関する回答者自身の現在の取り組みの状況を見ると、見守りや地域の子どもの育成活動に関わっているのは、2～3割にとどまっています。
- 今後の取り組み意向も同様の傾向です。

② 基本目標2に関する活動

図表 60 現在の取り組み状況



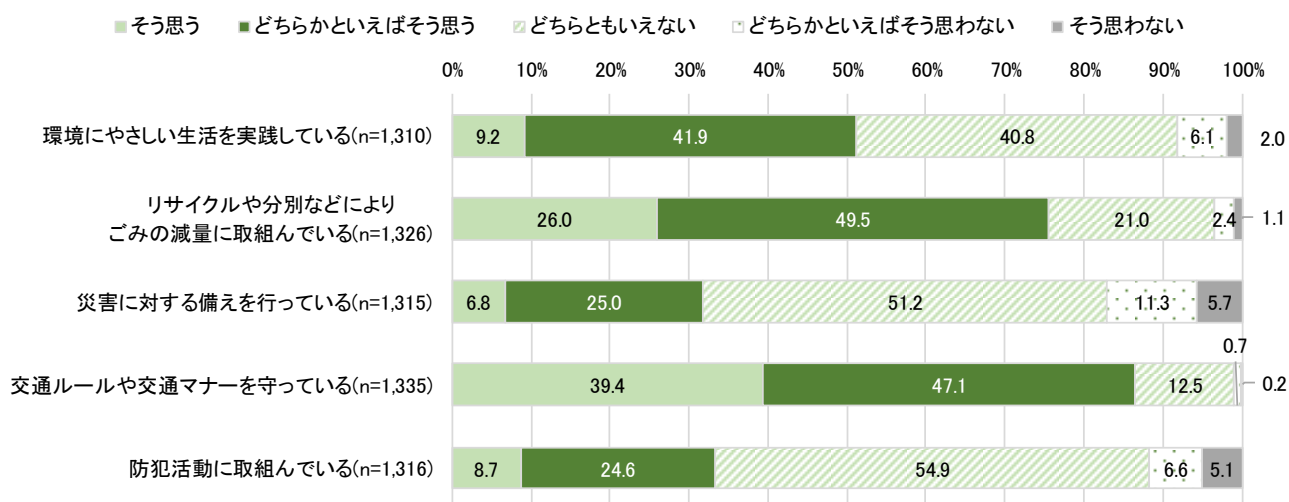
図表 61 今後の取り組み意向



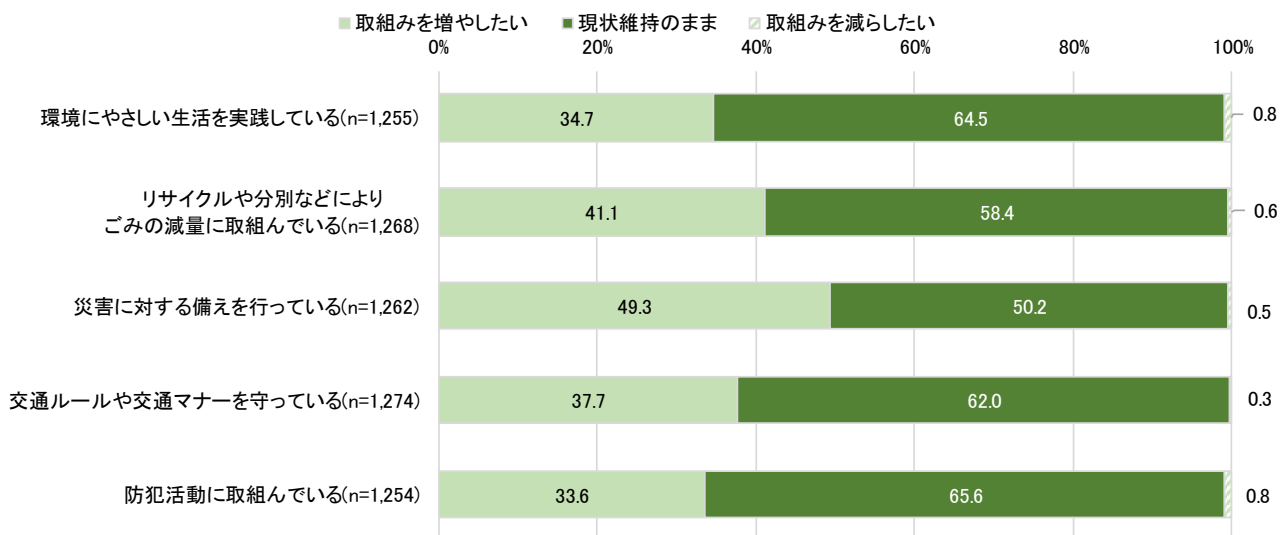
- 基本目標3「豊かな自然あふれる地域環境を守り、安心して安全に暮らせるまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、「リサイクル」及び「交通ルール・マナー」は高い取組み状況にある一方で、「災害に対する備え」や「防犯活動」への取組み状況は低くなっています。
- 今後の取組み意向としては、災害に対する備えが最も高くなっており、今年度の台風による被害を受けて取組み意向は今後より一層高まると推測されます。

③ 基本目標3に関する活動

図表 62 現在の取組み状況



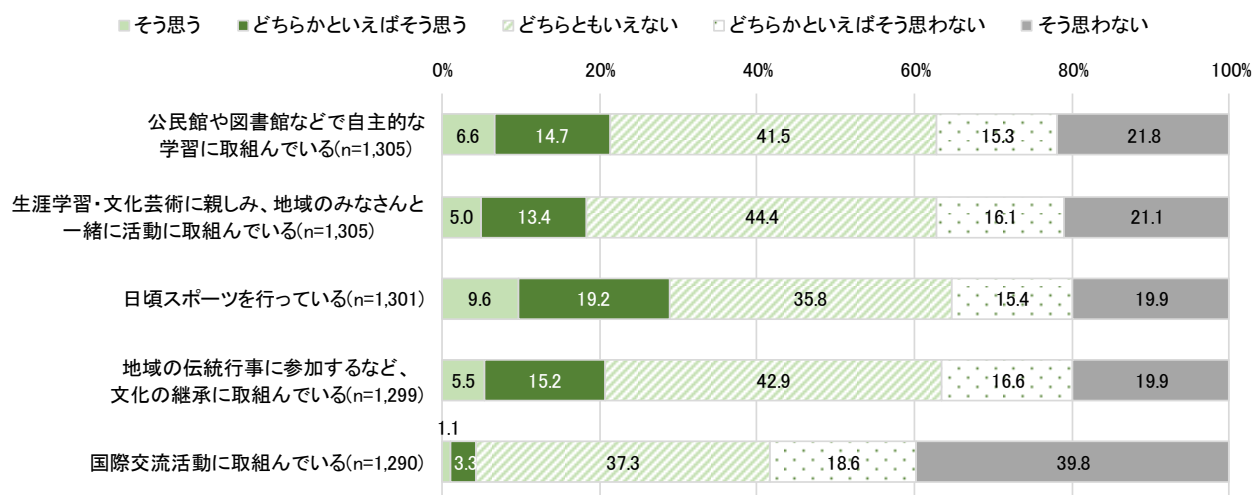
図表 63 今後の取組み意向



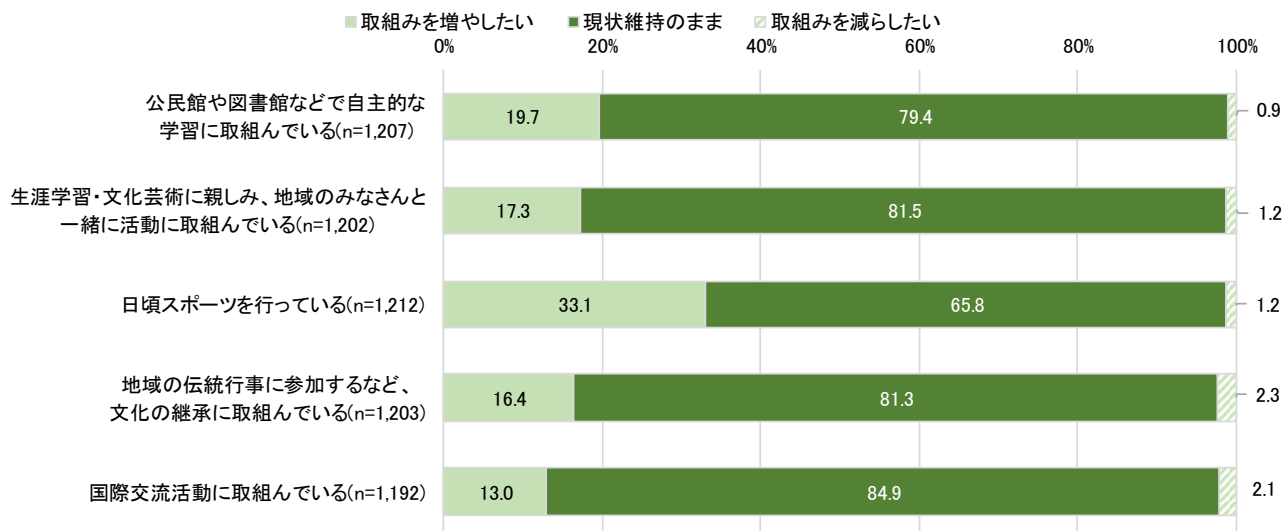
- 基本目標4「多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、生涯学習や地域の行事の継承に関わっている人は2割程度、スポーツに取り組んでいる人は3割程度、現在取り組んでいない人がどの施策も4割弱程度と高くなっています。特に、国際交流は6割近い人が取り組んでいません。
- 取組み意向は、スポーツが最も高く3割程度となっていますが、その他の生涯学習等の活動は高くありません。

④ 基本目標4に関する活動

図表 64 現在の取組み状況



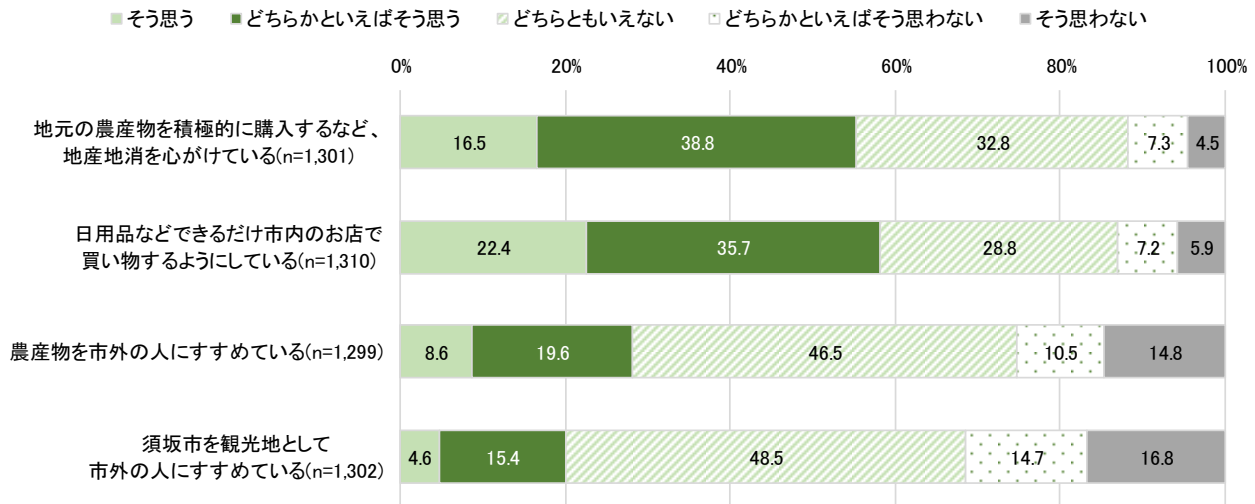
図表 65 今後の取組み意向



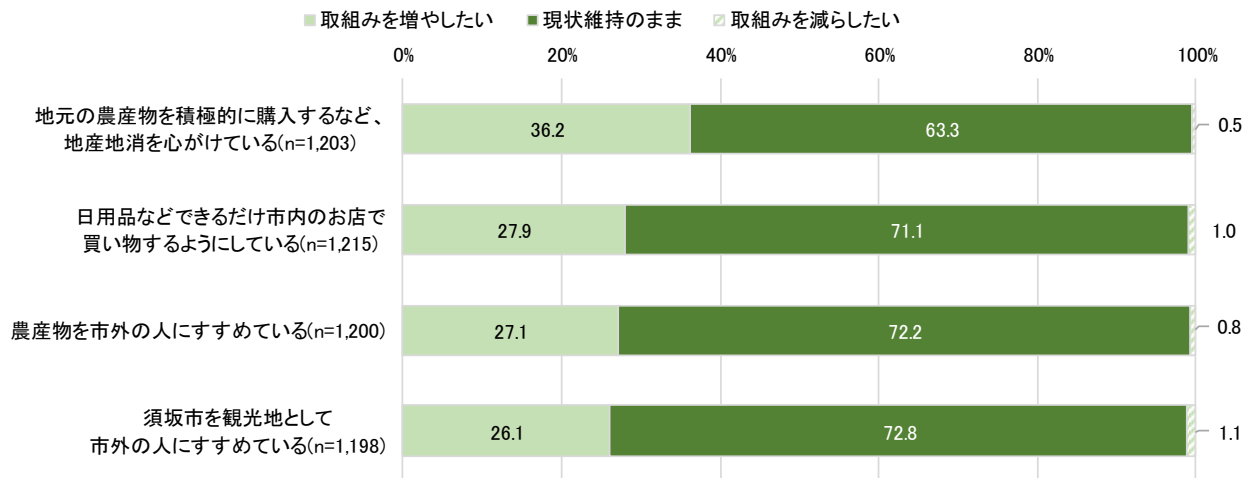
- 基本目標5「みんなの活力があふれるまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、地産地消や地元商店の利用を心がけている人は5割以上いるものの、市外の人に対して須坂市の農産物や観光地をすすめている人は2～3割程度にとどまっています。
- 今後の取組み意向としては、地産地消への取組み意向が最も高く 36.2%となっています。

⑤ 基本目標5に関する活動

図表 66 現在の取組み状況



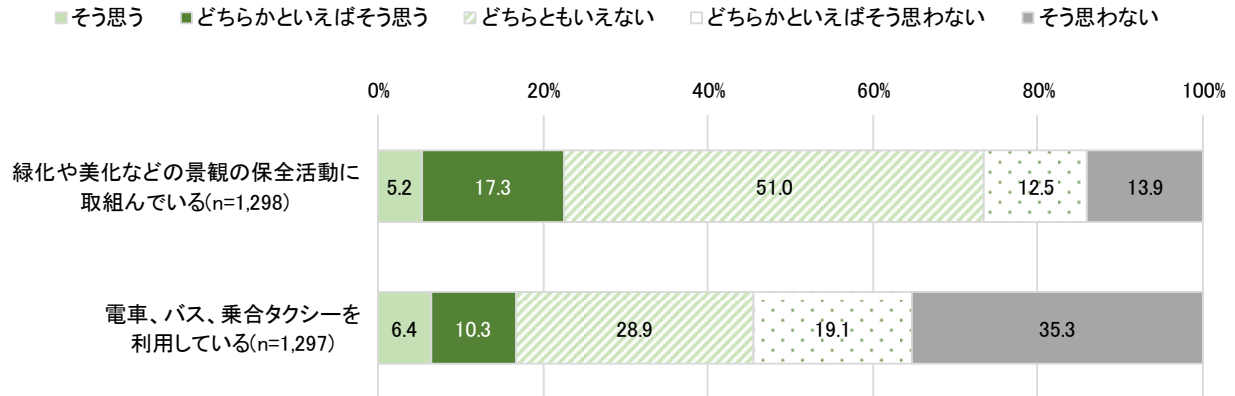
図表 67 今後の取組み意向



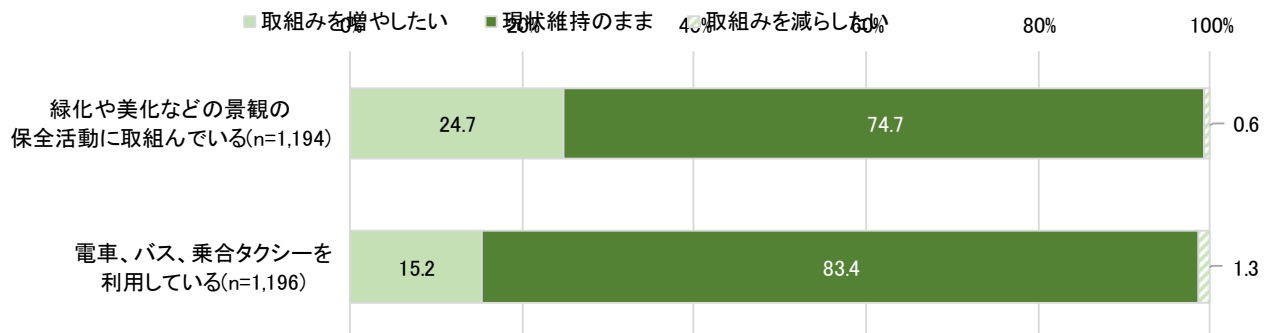
- 基本目標6「みんなが快適に生活できるまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、景観保全に関わっているのは2割程度であり、公共交通は5割以上の人が利用していない状況です。
- 公共交通に関しては利用者を増やす取組みが求められますが、今後の意向としても利用を増やしたいと回答しているのは、15%程度にとどまっています。

⑥ 基本目標6に関する活動

図表 68 現在の取組み状況



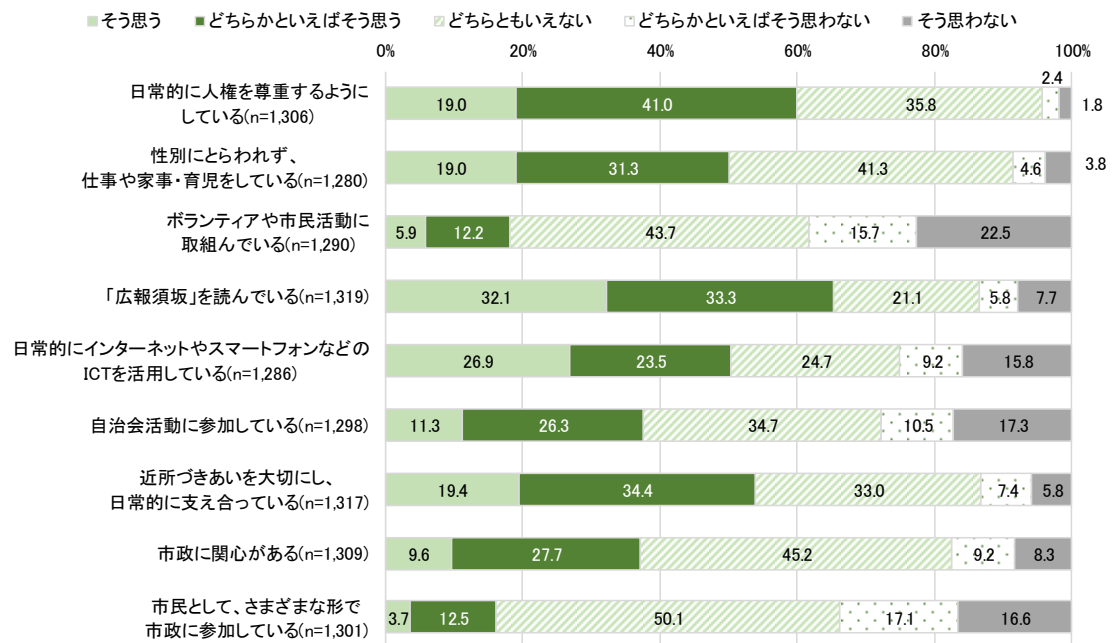
図表 69 今後の取組み意向



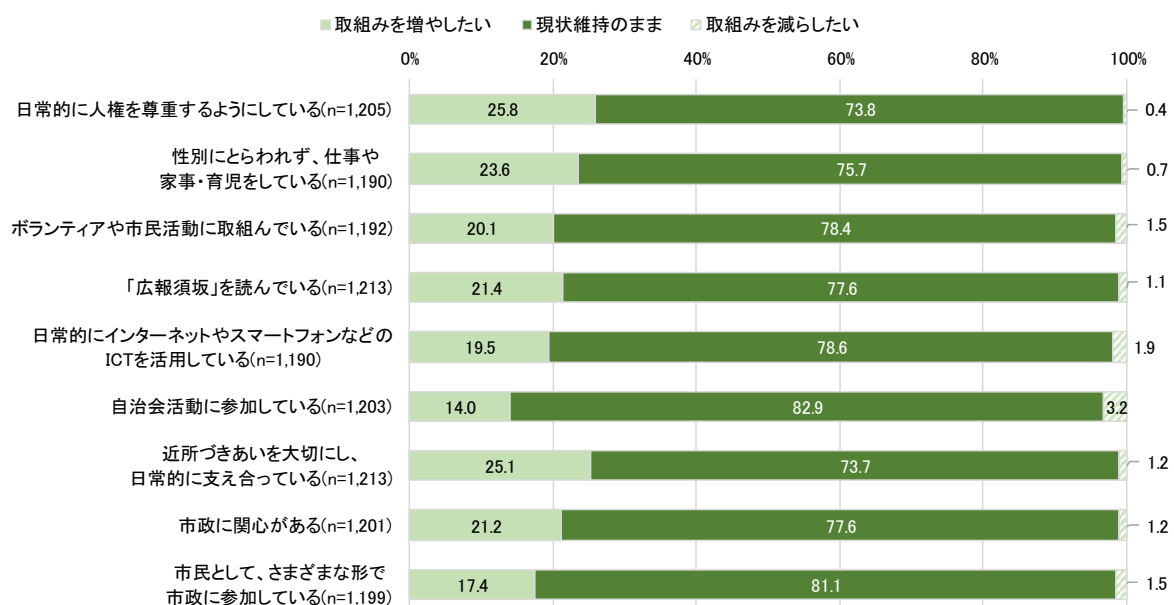
- 基本目標7「みんなが主役のまちづくり」に関する回答者自身の現在の取組みの状況を見ると、人権の尊重、男女共同の意識、「広報須坂」の購読、インターネットの利用、近所付き合いの尊重は5割を上回っています。一方で、ボランティア活動や市政参加は2割程度にとどまっています。
- 今後の取組みを増やしたいと回答した人は、15～25%程度にとどまっており、多くは現状維持と回答しています。ボランティアや自治会活動、市政参加を増やすにはより一層働きかけが必要です。

⑦ 基本目標7に関する活動

図表 70 現在の取組み状況



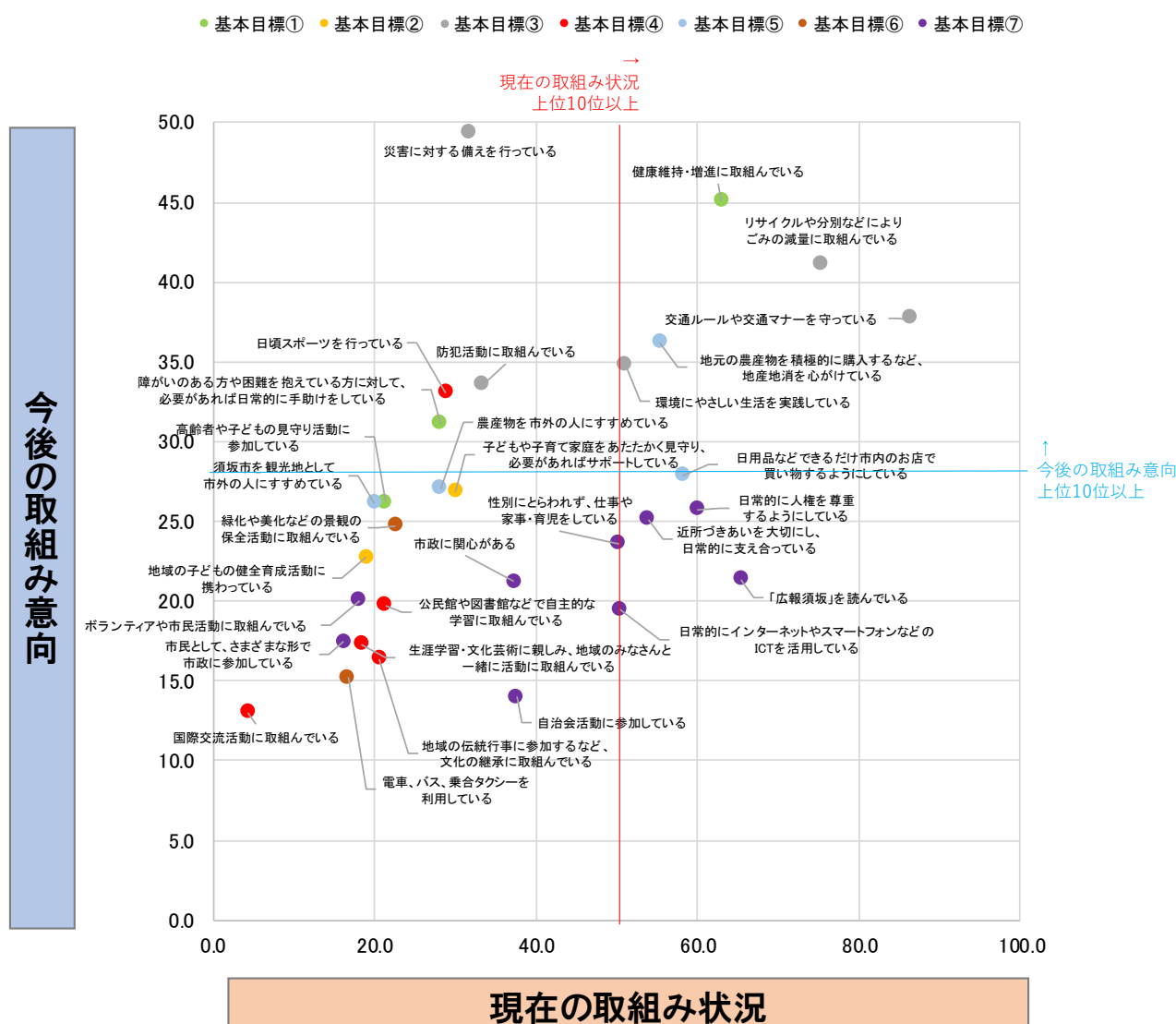
図表 71 今後の取組み意向



- 現在の取組みの「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計を横軸に、今後の取組み意向の「取組みを増やしたい」の割合を縦軸にとり、それぞれの活動を以下にプロットしました。
- 現在も高い取組み状況であり、今後も取組み意向が高い取組みとしては、交通マナー遵守、リサイクル、健康維持、農産物の地産地消、環境に優しい生活などがあげられています。
- 現在の取組み状況も低く、今後の取組み意向も低い取組みとしては、国際交流、公共交通の利用、生涯学習、市政参加、ボランティア等があげられています。これからの行政運営の重点の一つと言える市民との協働を実現するためには、これらの取組みへの意識を高めていく働きかけが必要と言えます。

⑧ 現在の取組み状況と今後の取組み意向のプロット

図表 72 現在の取組み状況と今後の取組み意向のプロット



- 現在の取組み状況で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計で、年代ごとに順位を比べたところ、すべての年代で交通マナーの遵守、リサイクルの順位が高くなっています。一方で、すべての年代で、生涯学習や文化の継承、国際交流の順位は低くなっています。
- 健康維持、「広報須坂」の購読、近所付き合い等は高齢になるほど順位が高くなる傾向にあり、人権の尊重、男女共同参画、インターネットの利用は年齢が低い方が順位が高い傾向にあります。日常的なインターネットの利用は 50 代くらいまでは多くの市民の間で浸透しつつあります。

⑨ 年代別の活動の状況

図表 73 年代別現在の取組み状況の順位

※青色が上位 10 位、赤色が下位 10 位

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
健康維持・増進に取り組んでいる	9	6	6	7	7	4	4	6
高齢者や子どもの見守り活動に参加している	23	20	22	22	23	20	18	19
障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	10	14	15	17	17	18	16	16
子どもや子育て家庭をあたかく見守り、必要があればサポートしている	10	12	10	14	18	17	15	14
地域の子どもの健全育成活動に携わっている	22	18	18	19	20	23	22	25
環境にやさしい生活を実践している	8	7	8	9	9	10	9	10
リサイクルや分別などによりごみの減量に取り組んでいる	3	3	4	3	2	3	2	4
災害に対する備えを行っている	16	11	14	13	16	15	13	12
交通ルールや交通マナーを守っている	5	1	1	1	1	1	1	1
防犯活動に取り組んでいる	10	10	13	12	12	14	11	13
公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	13	28	26	25	27	28	21	23
生涯学習・文化芸術に親しみ、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいる	18	27	27	27	28	26	25	21
日頃スポーツを行っている	18	13	21	20	22	21	19	27
地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	20	25	24	26	25	27	24	24
国際交流活動に取り組んでいる	23	30	30	30	30	30	30	30
地元の農産物を積極的に購入するなど、地産地消を心がけている	13	9	10	10	8	7	8	8
日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	3	8	9	8	11	6	5	5
農産物を市外の人にすすめている	27	24	16	18	15	16	23	18
須坂市を観光地として市外の人にすすめている	29	22	23	24	21	24	20	17
緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	20	23	20	21	19	19	17	22
電車、バス、乗合タクシーを利用している	2	19	29	29	29	29	29	28
日常的に人権を尊重するようにしている	7	5	5	5	3	5	6	7
性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	6	4	2	4	4	9	12	11
ボランティアや市民活動に取り組んでいる	23	21	28	28	26	25	26	26
「広報須坂」を読んでいる	27	16	7	6	5	2	3	2
日常的にインターネットやスマートフォンなどのICTを活用している	1	2	3	2	6	13	28	29
自治会活動に参加している	30	29	18	15	13	12	14	15
近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている	13	15	12	11	10	8	7	3
市政に関心がある	17	17	17	16	14	11	10	9
市民として、さまざまな形で市政に参加している	26	25	25	23	24	22	27	20

- 今後の取組み意向で「取組みを増やす」と回答した人の割合で年代ごとに順位を取ると、多くの年代で、災害への備え、健康維持、リサイクル、交通マナーの遵守の順位が高くなっています。一方で、自治会活動はどの年代でも順位が低くなっています。自治会活動が市民の負担となりつつある様子がうかがえます。

図表 74 年代別今後の取組み意向の順位

※青色が上位 10 位、赤色が下位 10 位

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
健康維持・増進に取組んでいる	9	2	2	2	2	1	4	3
高齢者や子どもの見守り活動に参加している	24	12	13	10	16	14	12	20
障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	9	7	15	9	10	6	9	15
子どもや子育て家庭をあたかく見守り、必要があればサポートしている	9	13	8	15	13	13	14	13
地域の子どもの健全育成活動に携わっている	24	14	11	18	27	16	22	19
環境にやさしい生活を実践している	15	9	6	5	6	8	5	12
リサイクルや分別などによりごみの減量に取り組んでいる	5	3	4	3	3	3	1	3
災害に対する備えを行っている	2	1	1	1	1	2	2	6
交通ルールや交通マナーを守っている	1	5	5	6	7	5	3	2
防犯活動に取り組んでいる	3	8	7	6	9	7	7	10
公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	20	26	20	22	19	25	21	21
生涯学習・文化芸術に親しみ、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいる	20	29	26	26	23	22	25	22
日頃スポーツを行っている	4	3	3	4	5	9	15	26
地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	6	23	24	29	26	27	29	27
国際交流活動に取り組んでいる	16	27	24	27	29	30	30	30
地元の農産物を積極的に購入するなど、地産地消を心がけている	12	5	10	8	4	4	6	5
日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	26	17	23	11	14	11	8	1
農産物を市外の人にすすめている	12	19	12	12	8	12	17	18
須坂市を観光地として市外の人にすすめている	16	14	17	13	11	17	16	11
緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	12	22	14	14	12	19	19	14
電車、バス、乗合タクシーを利用している	26	30	29	28	28	29	23	17
日常的に人権を尊重するようにしている	20	10	16	19	15	10	10	9
性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	16	11	9	16	17	18	20	24
ボランティアや市民活動に取り組んでいる	6	14	27	24	18	21	24	23
「広報須坂」を読んでいる	26	24	28	23	25	23	13	8
日常的にインターネットやスマートフォンなどのICTを活用している	30	25	18	20	21	20	27	28
自治会活動に参加している	26	28	30	30	30	28	26	25
近所づきあいを大切に、日常的に支え合っている	6	17	19	17	20	15	11	7
市政に関心がある	16	20	21	21	22	23	18	16
市民として、さまざまな形で市政に参加している	20	20	21	25	24	26	28	29

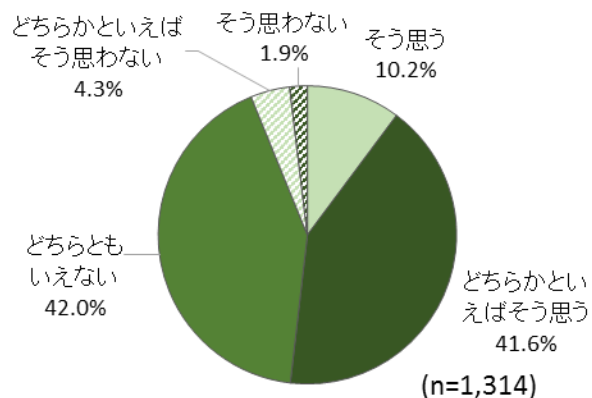
(4) 須坂市のまちづくりに対する評価

- 「須坂市は子育てしやすいまちだと思うか」という問に対して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答して人の割合は5割程度となっています。
- 18 歳未満の子どもが同居している人では、していない人と比べて、肯定的な回答の割合も否定的な回答の割合も多くなっており、必ずしも今子育て中のすべての人にとって望ましい状況とはなっていないことがうかがえます。
- 子どもの年齢別に見ると、特に就学前の家庭で否定的な評価の割合が他の年代と比べて多くなっており、就学前の支援の充実が求められます。

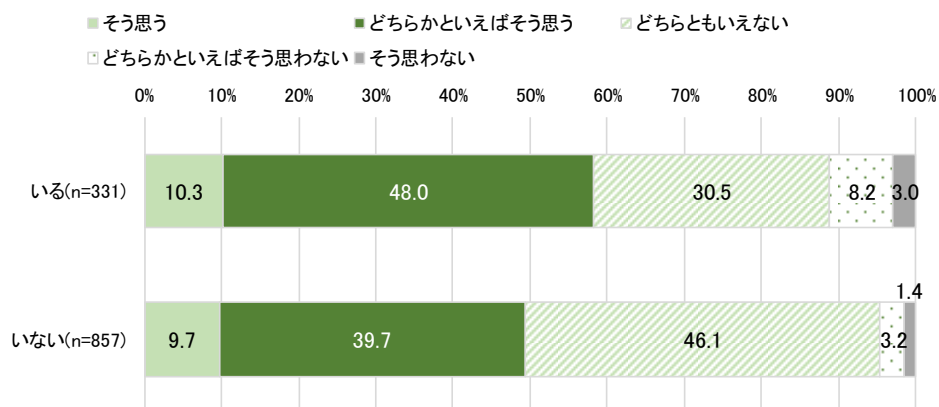
① 須坂市は子育てしやすいまちだと思うか

図表 75 須坂市は子育てしやすいまちだと思うかどうか

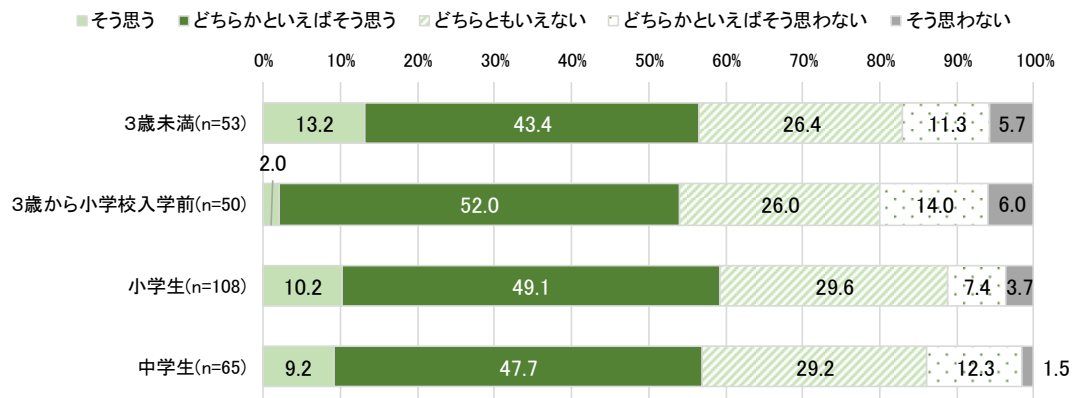
	度数	割合
そう思う	134	10.2
どちらかといえばそう思う	547	41.6
どちらともいえない	552	42.0
どちらかといえばそう思わない	56	4.3
そう思わない	25	1.9
合計	1,314	100.0



図表 76 18 未満の子どもの有無×須坂市は子育てしやすいまちだと思うかどうか



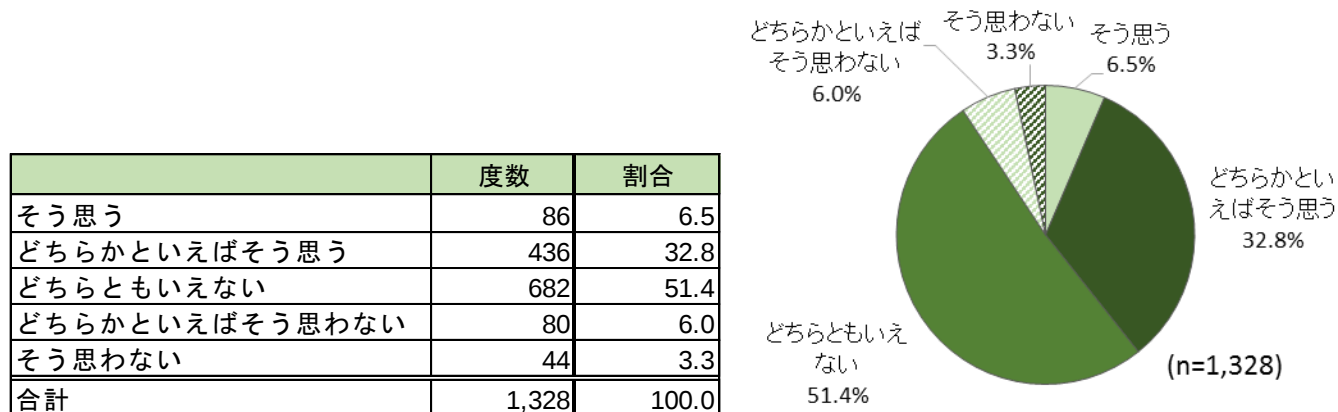
図表 77 子どもの年齢×須坂市は子育てしやすいまちだと思うかどうか



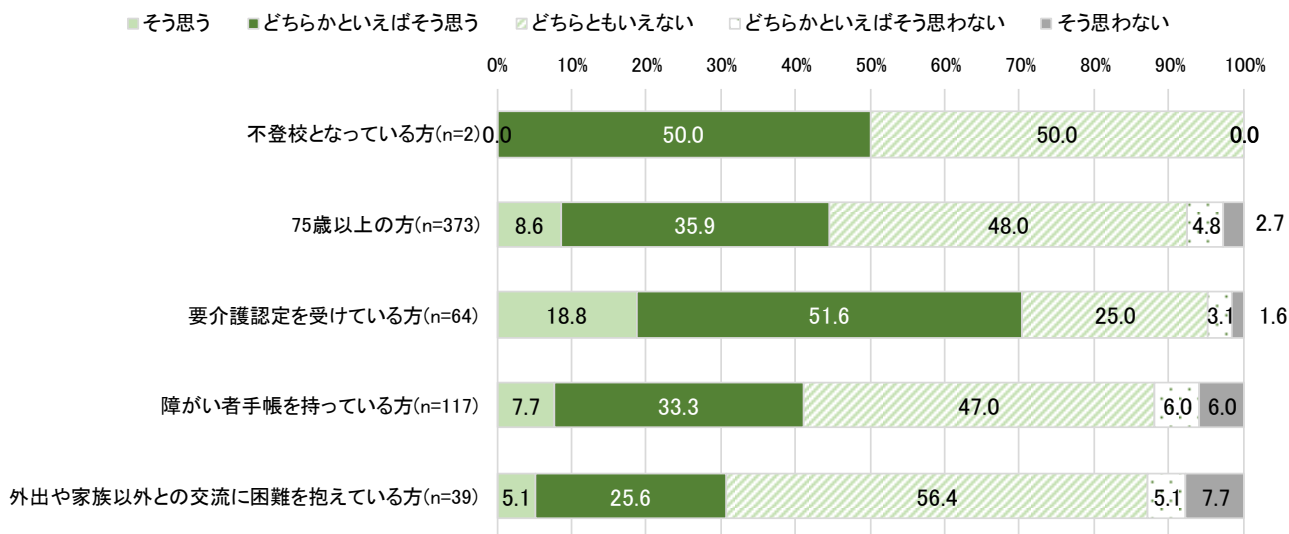
- 「須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか」という問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答して人の割合は4割程度となっています。
- 困難を抱える家族がいる人では、要介護認定を受けた家族がいる人の肯定的な評価は高くなっており、介護の施策が十分な成果を上げていることがうかがえます。一方で、障がいのある方や、外出に困難を抱える方では、否定的な評価が一定数あり、包括的な相談支援体制の構築等の福祉施策の一層の充実が求められます。

② 須坂市は困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うか

図表 78 困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うかどうか



図表 79 困難を抱える家族の有無×困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思うかどうか

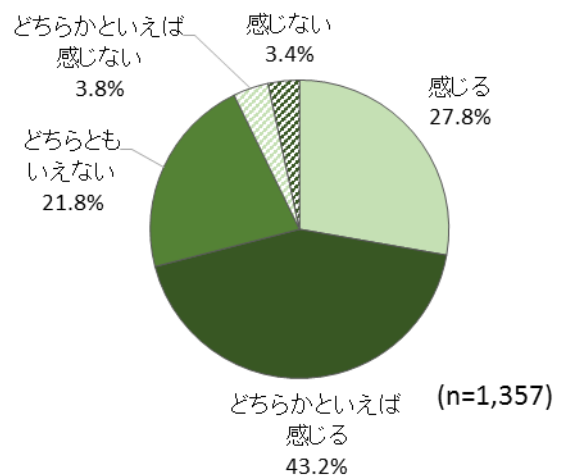


- 須坂市に愛着を感じるかという問に対して、「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した人は7割程度となっており、多くの市民が須坂市に愛着を持って暮らしていると言えます。
- 年代別に須坂市への愛着を見ると、肯定的な回答は40代が最も低くなっています。10代では地域行事や学校行事を通じた地域への愛着が一定程度育まれているのに対して、働いている世代ほど地域との距離感が開いている様子がうかがえます。

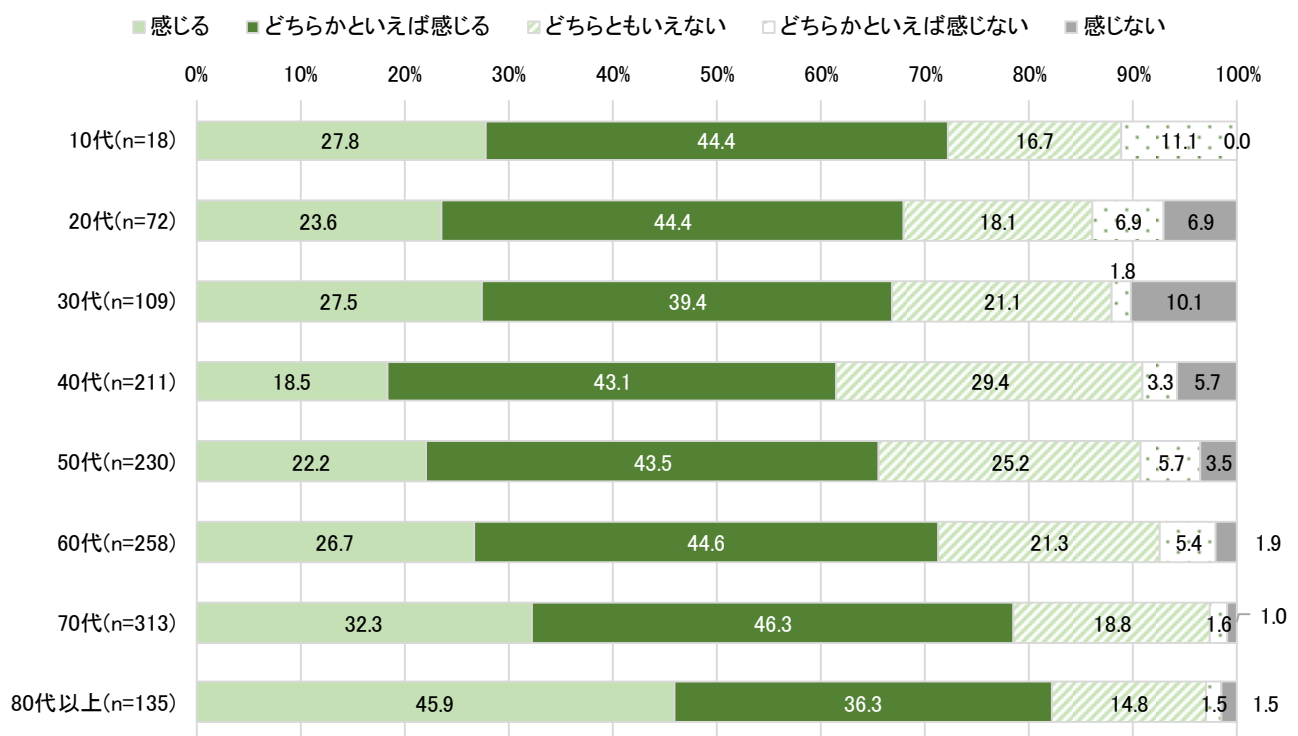
③ 須坂市に愛着を感じるか

図表 80 須坂市に愛着を感じるかどうか

	度数	割合
感じる	377	27.8
どちらかといえば感じる	586	43.2
どちらともいえない	296	21.8
どちらかといえば感じない	52	3.8
感じない	46	3.4
合計	1,357	100.0

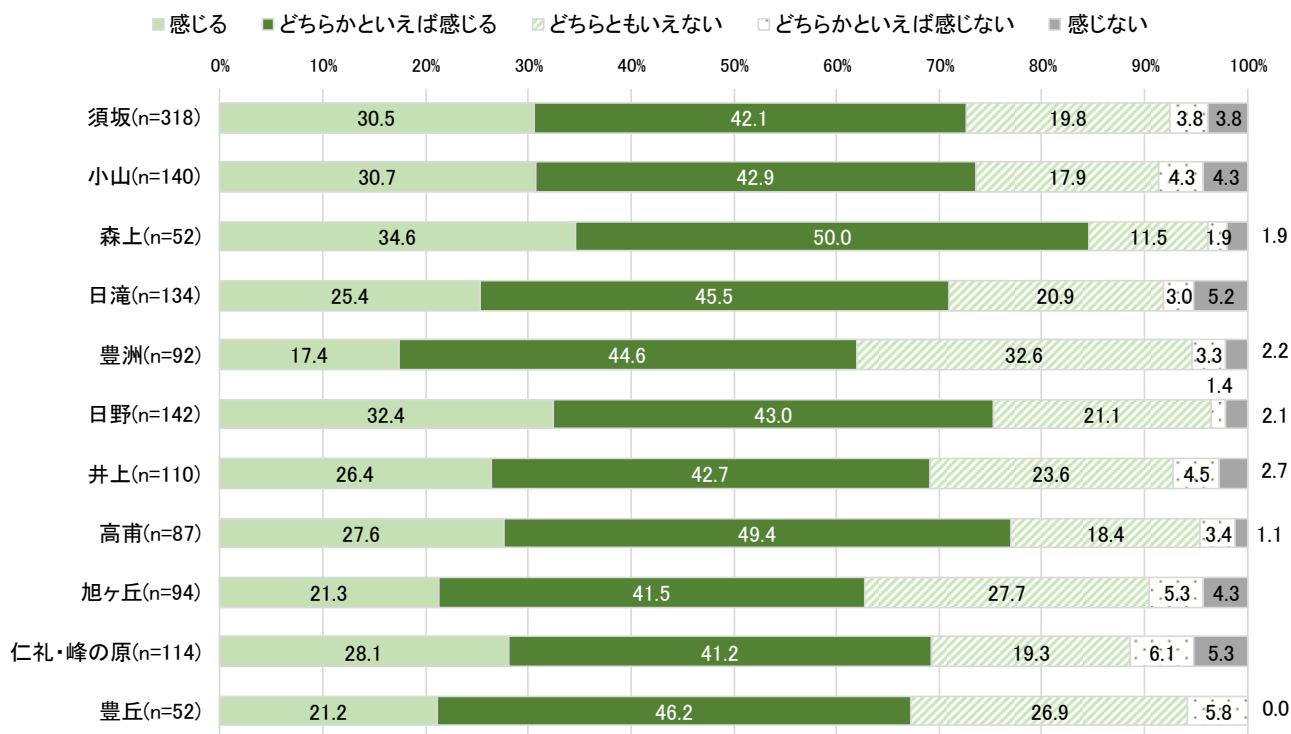


図表 81 回答者の年齢×須坂市に愛着を感じるかどうか

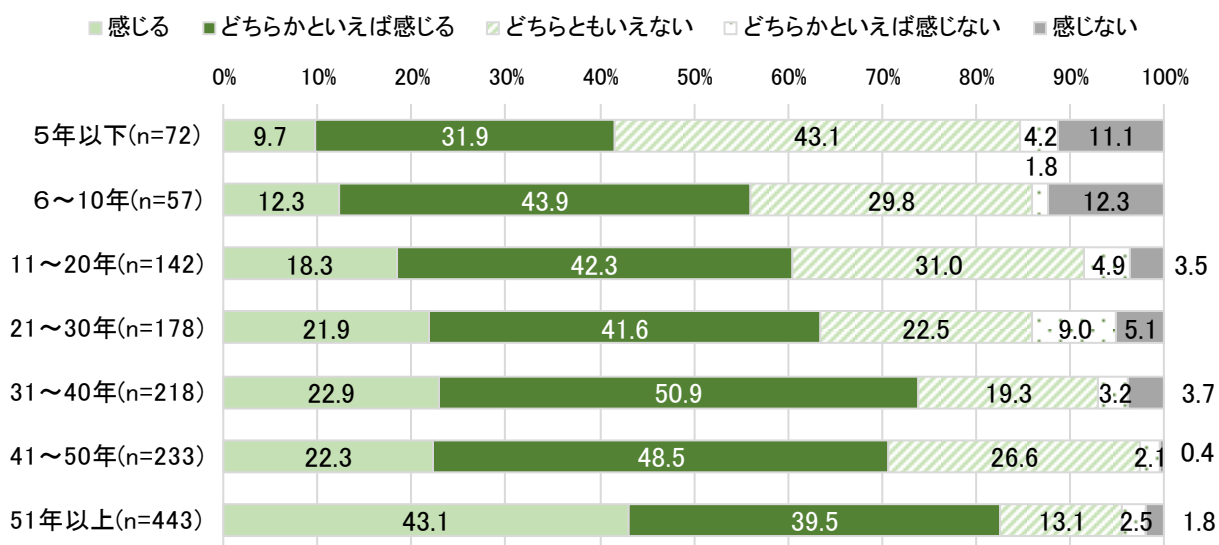


- 回答者の居住地区別に須坂市への愛着を見ると、豊洲地区、旭ヶ丘地区で比較的肯定的な回答が少なくなっています。これらの地区では転入者が他の地区よりも多いことが推測され、転入者が須坂市に愛着を持てるような取組みが必要と考えられます。
- 回答者の居住年数別に須坂市への愛着を見ると、居住年数が短い人ほど肯定的な回答が少なくなっています。転入者の須坂市への愛着を高めて、長期的な定住につなげる必要があります。

図表 82 回答者の居住地区×須坂市に愛着を感じるかどうか



図表 83 回答者の居住年数×須坂市に愛着を感じるかどうか

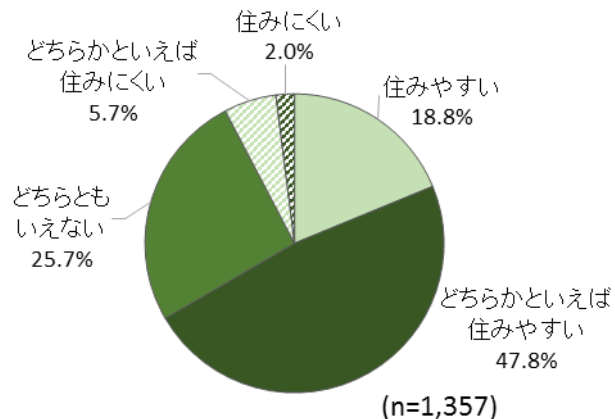


- 須坂市は住みやすいまちだと思うか、という問に対して、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合は 65%程度となっており、多くの市民が須坂市を住みやすいまちだと感じていると言えます。
- 回答者の年代別に見ると、40代で最も肯定的な回答が少なくなっており、子育て世代や、現役で働いている世代の一部の市民に、住みづらいまちと考えられている様子がうかがえます。特に須坂市から遠くに通勤する人ほど、否定的な回答が多い傾向にあります。

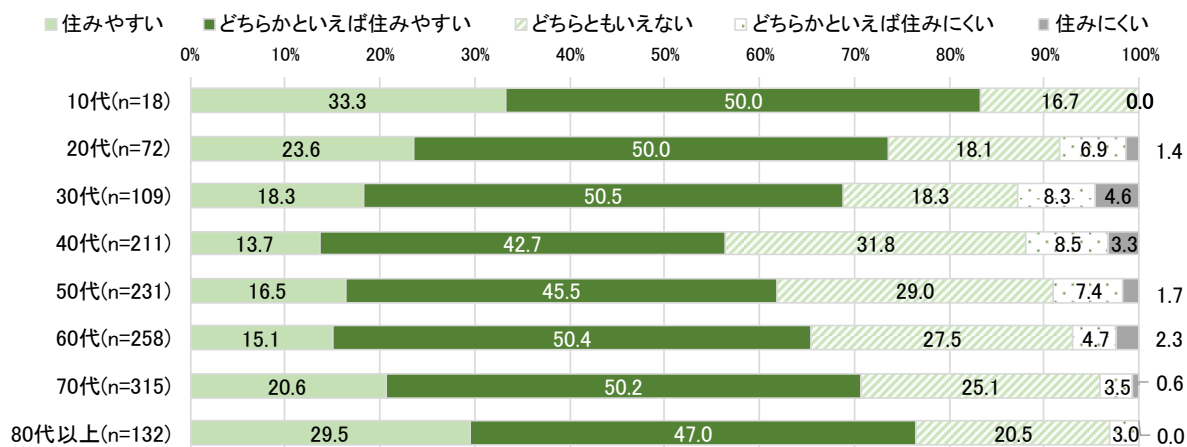
④ 須坂市は住みやすいまちだと思うか

図表 84 須坂市は住みやすいまちだと思うかどうか

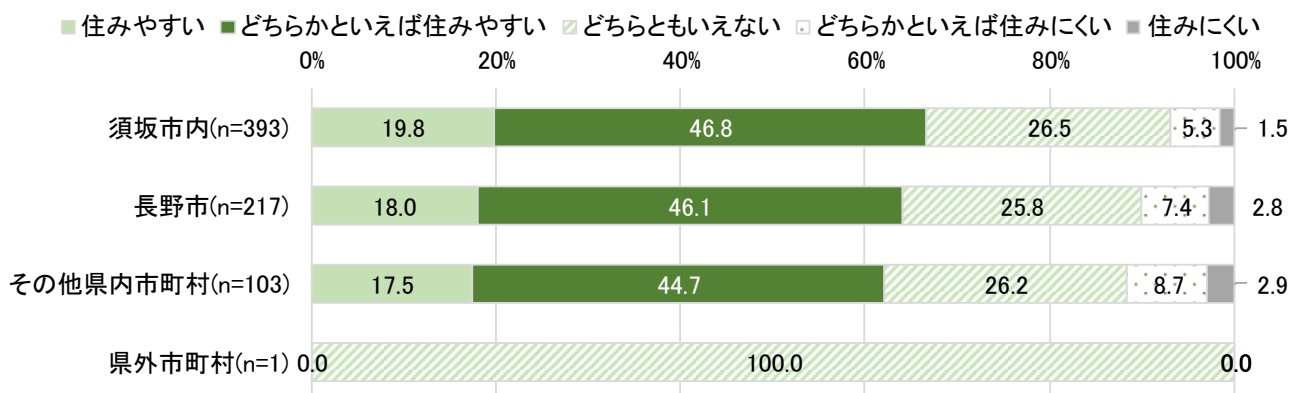
	度数	割合
住みやすい	255	18.8
どちらかといえば住みやすい	649	47.8
どちらともいえない	349	25.7
どちらかといえば住みにくい	77	5.7
住みにくい	27	2.0
合計	1,357	100.0



図表 85 回答者の年齢×須坂市は住みやすいまちだと思うかどうか



図表 86 回答者の職場の場所×須坂市は住みやすいまちだと思うかどうか

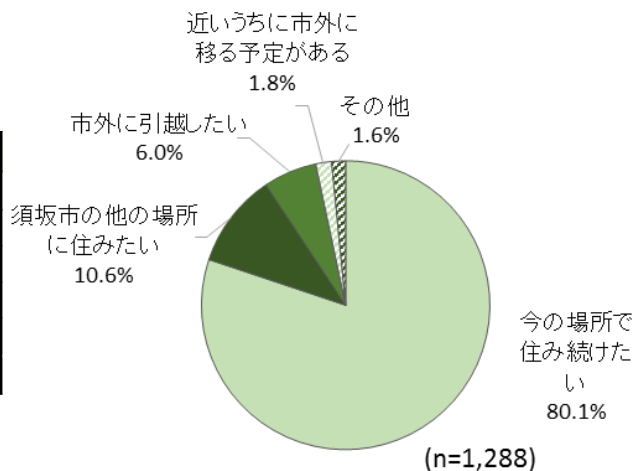


- 須坂市に今後も住みたいと思うか、という問に対して、「今の場所で住みたい」と回答した人の割合は 80%程度となっており、極めて多くの市民が現在地域への定住意向を示しています。一方で市外への転出意向を持っている住民も 1 割程度存在しています。
- 年代別に見ると、年齢が低いほど定住意向が低くなっており、若年層に対する定住促進の取組みが求められます。

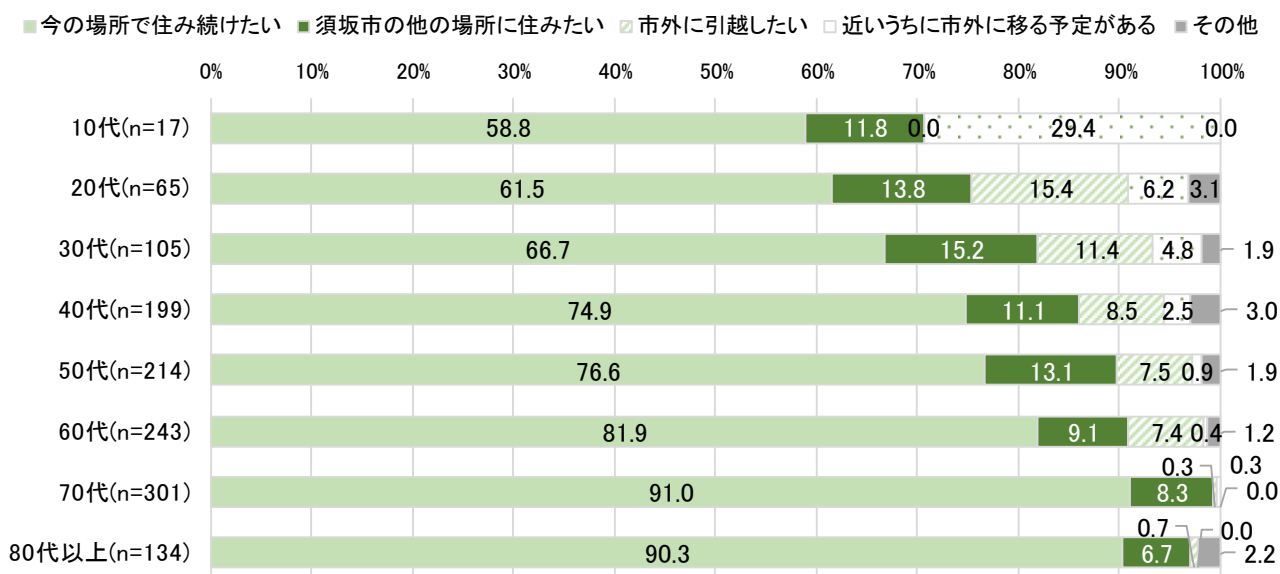
⑤ 須坂市に今後も住みたいと思うか

図表 87 須坂市に今後も住みたいと思うかどうか

	度数	割合
今の場所で住みたい	1,032	80.1
須坂市の他の場所に住みたい	136	10.6
市外に引越したい	77	6.0
近いうちに市外に移る予定がある	23	1.8
その他	20	1.6
合計	1,288	100.0

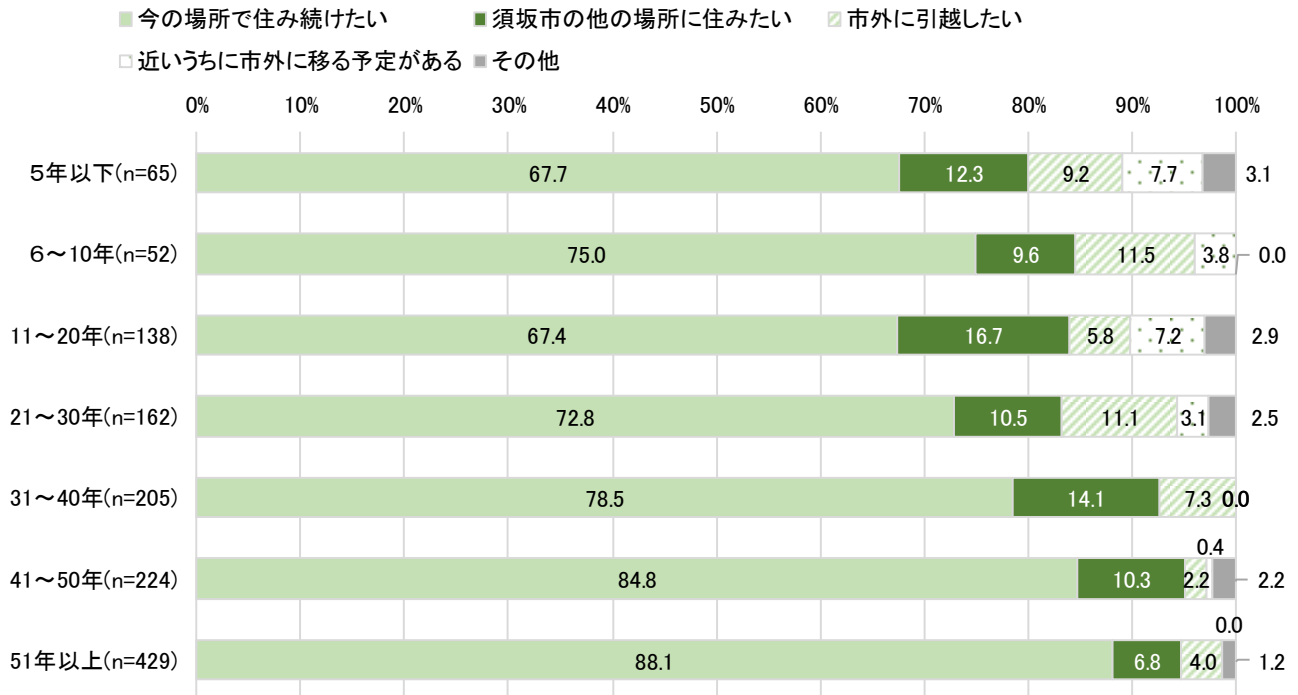


図表 88 年代別須坂市に今後も住みたいと思うかどうか

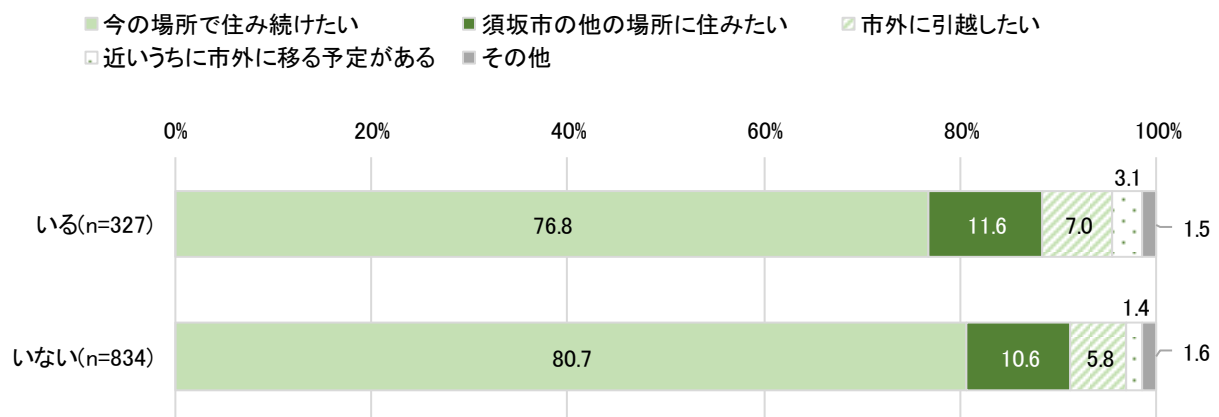


- 居住年数別に須坂市への定住意向を見ると、須坂市外への転出意向は居住年数 20 年までの住民でも1～2割程度となっています。20 代以下の須坂市出身の若年層で転出以降が高くなることが影響していると考えられます。
- 18 歳以下の子どもの有無別に定住意向を見ると、子どものいる家庭の方が若干定住意向が低くなっています。今後、人口を確保するためには、子育て世帯ほど須坂市に残りたいと思えるよう、一層子育て施策を充実させる必要があると言えます。

図表 89 回答者の居住年数×須坂市に今後も住みたいと思うかどうか



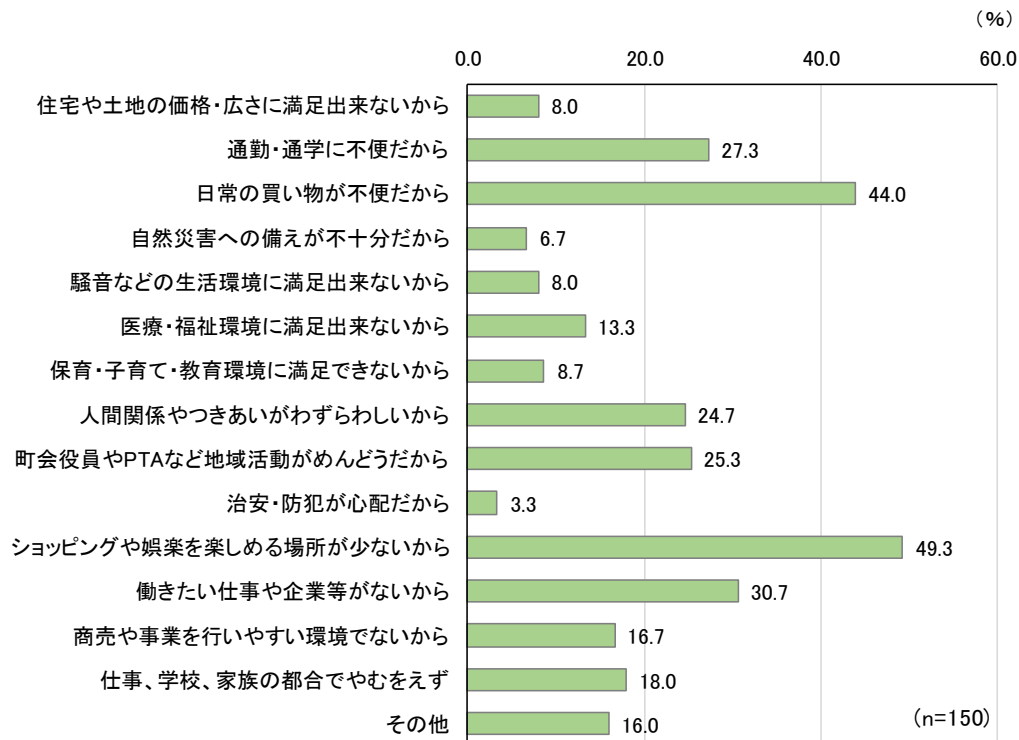
図表 90 18 歳未満の子どもの有無×須坂市に今後も住みたいと思うかどうか



- 須坂市外に転出を考えている理由としては、「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」が最も高く、ついで「日常の買い物が不便だから」、「働きたい仕事や企業等が少ないから」「通勤・通学に不便だから」が多くなっています。

⑥ 須坂市外に引越したいと考えている理由

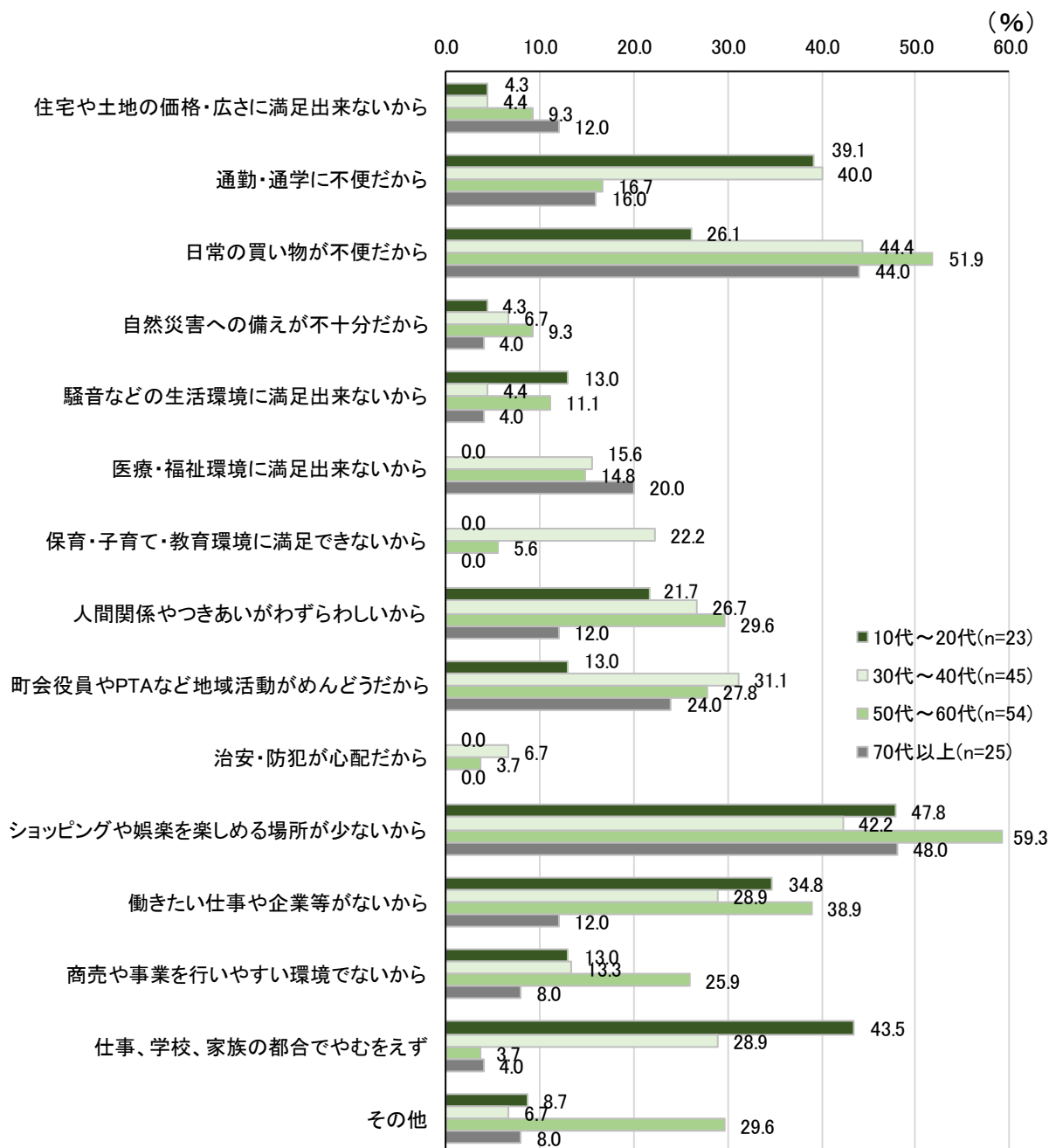
図表 91 須坂市外に引越したいと考えている理由



	度数	割合
住宅や土地の価格・広さに満足出来ないから	12	8.0
通勤・通学に不便だから	41	27.3
日常の買い物が不便だから	66	44.0
自然災害への備えが不十分だから	10	6.7
騒音などの生活環境に満足出来ないから	12	8.0
医療・福祉環境に満足出来ないから	20	13.3
保育・子育て・教育環境に満足できないから	13	8.7
人間関係やつきあいがわずらわしいから	37	24.7
町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから	38	25.3
治安・防犯が心配だから	5	3.3
ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから	74	49.3
働きたい仕事や企業等がないから	46	30.7
商売や事業を行いやすい環境でないから	25	16.7
仕事、学校、家族の都合でやむをえず	27	18.0
その他	24	16.0
回答者数	150	

- 年代別に須坂市外に転出を考えている理由を見ると、10代～20代では「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」が最も多く、ついで「仕事、学校、家族の都合でやむをえず」が多くなっています。また、30代～40代では「日常の買い物が不便」「ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから」「通勤・通学に不便だから」が多く、50代以上でも買い物施設の不足を理由とする回答が多くなっています。
- どの世代でも、商業施設の不足、市内での働く場所の不足が大きな理由となっており、商業振興、雇用の確保等の施策が求められます。

図表 92 年代別×須坂市外に引越したいと考えている理由

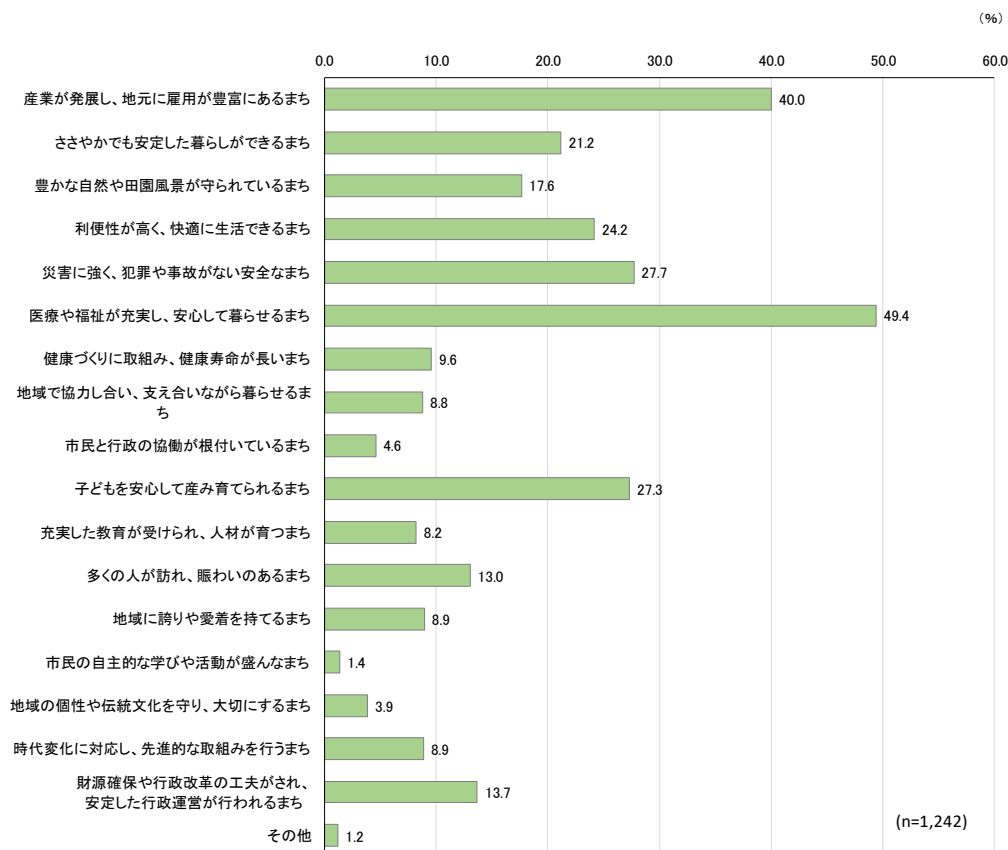


(5) 須坂市の将来都市像

- これからの 10 年間で須坂市にどのようなまちになってほしいか、という問に対して、「医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち」が最も多く、ついで、「産業が発展し、地元雇用が豊富にあるまち」が多くなっています。

① これからの 10 年間で須坂市にどのようなまちになってほしいか(3 つまでの複数回答)

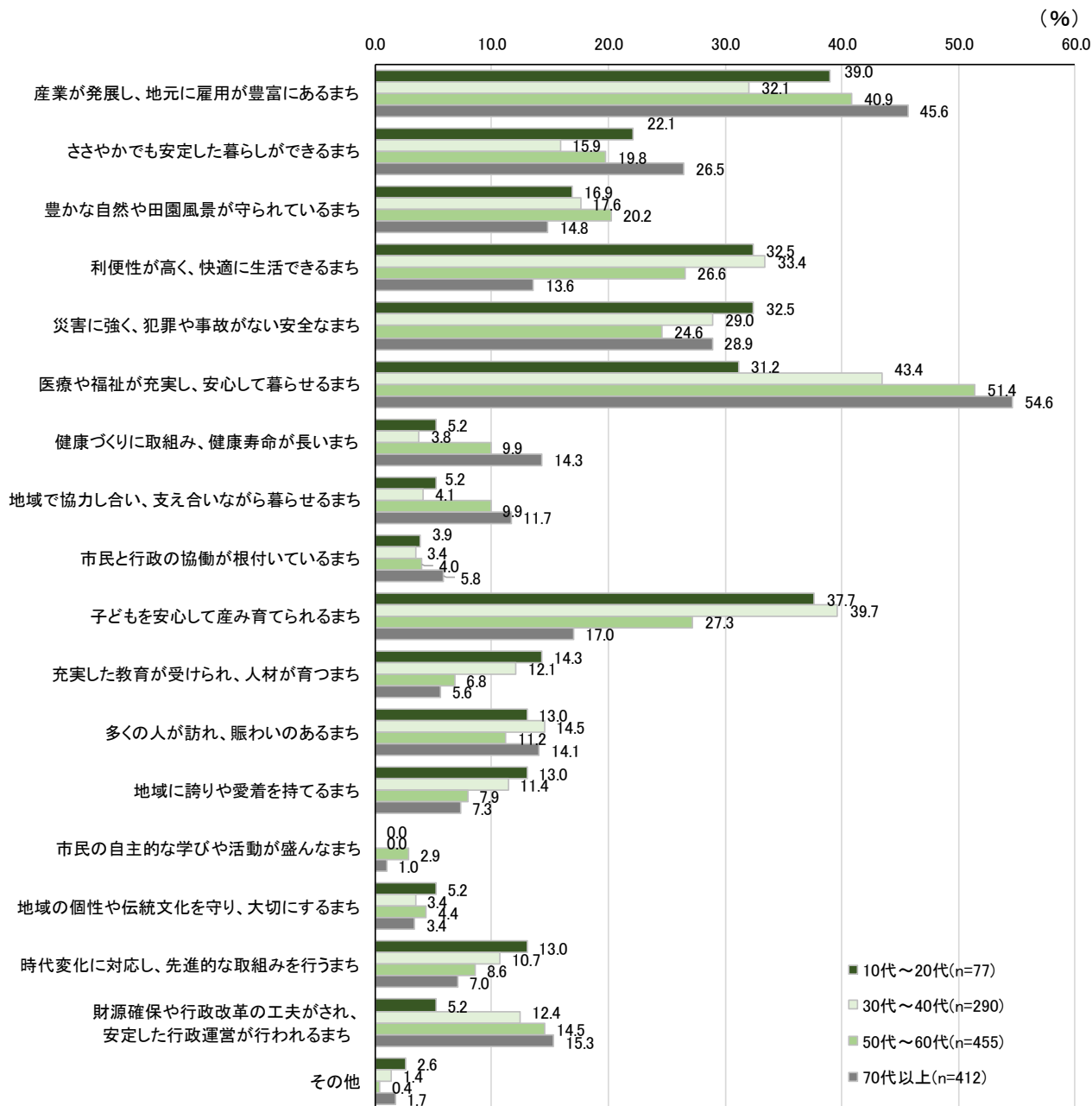
図表 93 これからの 10 年間で須坂市にどのようなまちになってほしいか



	度数	割合
産業が発展し、地元雇用が豊富にあるまち	497	40.0
ささやかでも安定した暮らしができるまち	263	21.2
豊かな自然や田園風景が守られているまち	219	17.6
利便性が高く、快適に生活できるまち	300	24.2
災害に強く、犯罪や事故がない安全なまち	344	27.7
医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち	613	49.4
健康づくりに取り組み、健康寿命が長いまち	119	9.6
地域で協力し合い、支え合いながら暮らせるまち	109	8.8
市民と行政の協働が根付いているまち	57	4.6
子どもを安心して産み育てられるまち	339	27.3
充実した教育が受けられ、人材が育つまち	102	8.2
多くの人が訪れ、賑わいのあるまち	162	13.0
地域に誇りや愛着を持てるまち	111	8.9
市民の自主的な学びや活動が盛んなまち	17	1.4
地域の個性や伝統文化を守り、大切にすまち	48	3.9
時代変化に対応し、先進的な取り組みを行うまち	110	8.9
財源確保や行政改革の工夫がされ、安定した行政運営が行われるまち	170	13.7
その他	15	1.2
回答者数	1,242	

- 年代別にこれからの10年間で須坂市にどのようなまちになってほしいかを見ると、若い世代ほど、まちの利便性、安心して子育てできるまち、地域に誇りを持てるまち、先進的な取り組みを行うまち、の回答が高くなっています。
- 一方で、年齢が高くなるほど、医療福祉の充実や健康づくり、地域での支えあい等を重視する傾向にあります。

図表 94 回答者の年代×これからの10年間須坂市にどのようなまちになってほしいか

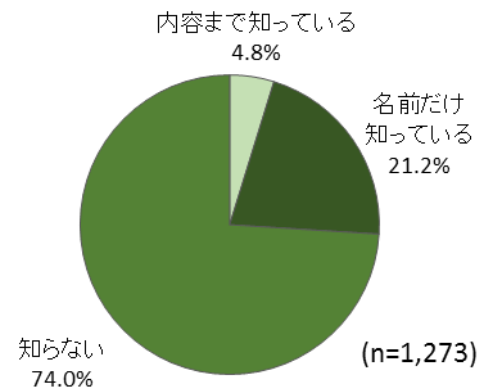


- SDGs に対する認知度を見ると、内容まで知っている人の割合は5%程度にとどまっており、依然として認知度は高くない状況です。
- 取組みの遅れている SDGs の目標としては、「経済成長と雇用」「インフラ、産業化、イノベーション」があげられており、経済・産業施策の遅れが指摘されています。

② SDGs に対する認知度

図表 95 SDGs に対する認知度

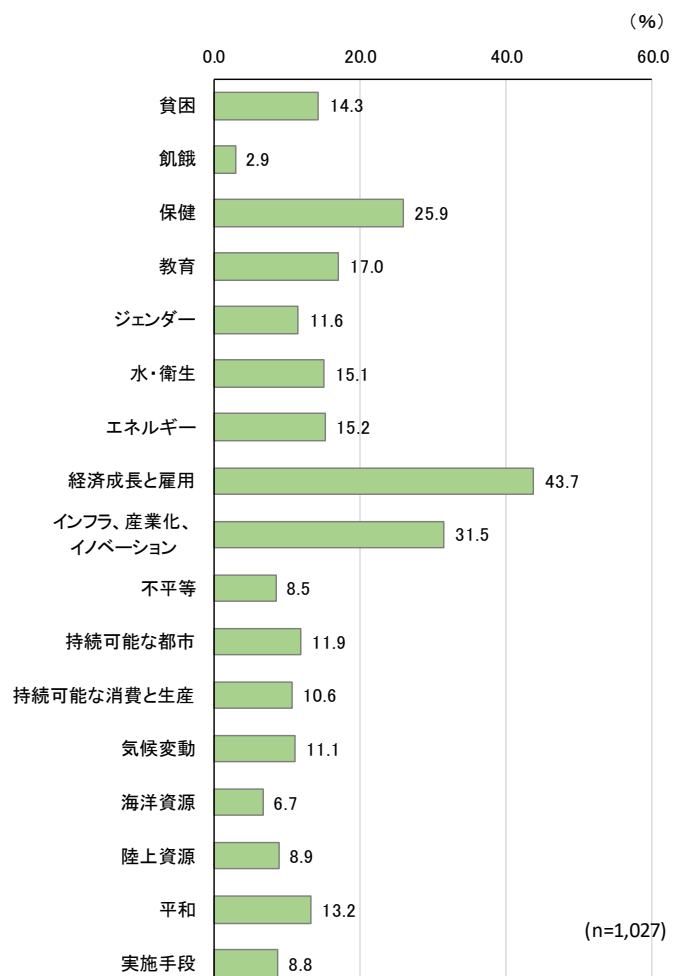
	度数	割合
内容まで知っている	61	4.8
名前だけ知っている	270	21.2
知らない	942	74.0
合計	1,273	100.0



③ 須坂市において取組みが遅れていると感じる SDGs の目標

図表 96 須坂市において取組みが遅れていると感じる SDGs の目標

	度数	割合
貧困	147	14.3
飢餓	30	2.9
保健	266	25.9
教育	175	17.0
ジェンダー	119	11.6
水・衛生	155	15.1
エネルギー	156	15.2
経済成長と雇用	449	43.7
インフラ、産業化、イノベーション	323	31.5
不平等	87	8.5
持続可能な都市	122	11.9
持続可能な消費と生産	109	10.6
気候変動	114	11.1
海洋資源	69	6.7
陸上資源	91	8.9
平和	136	13.2
実施手段	90	8.8
回答者数	1,027	

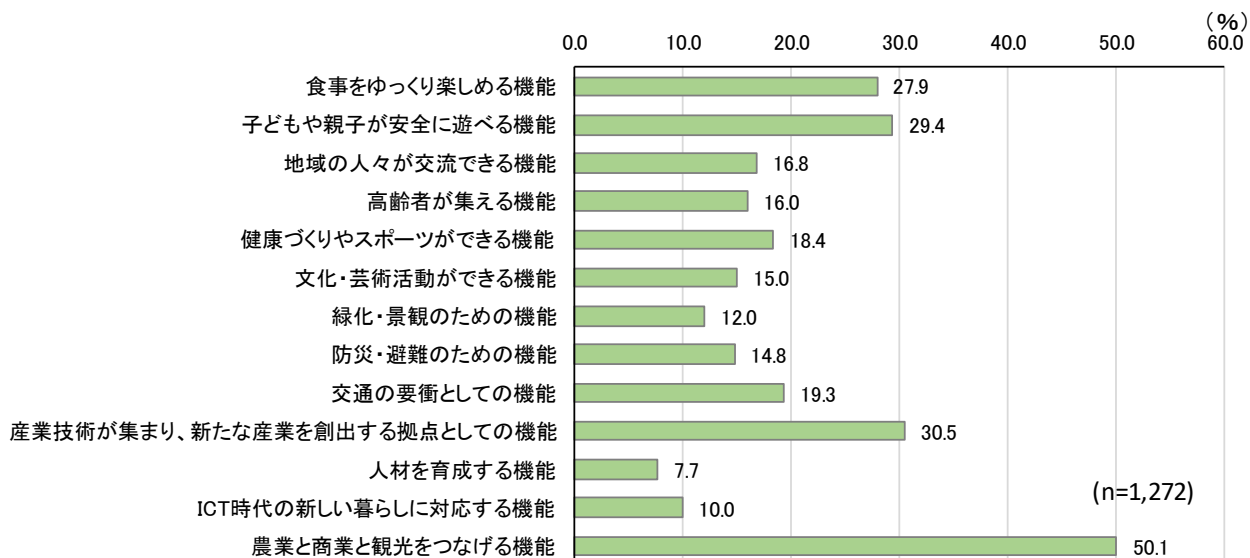


(6) 今後推進されるまちづくりについて

- 須坂長野東 IC 周辺の開発エリアに対して求める機能としては、「農業と商業と観光をつなげる機能」が最も回答が多く、ついで「産業技術が集まり、新たな産業を創出する拠点としての機能」「子どもや親子が安全に遊べる機能」「食事をゆっくり楽しめる機能」が多くなっています。

① 須坂長野東 IC 付近の新しい開発エリアに対して求める機能

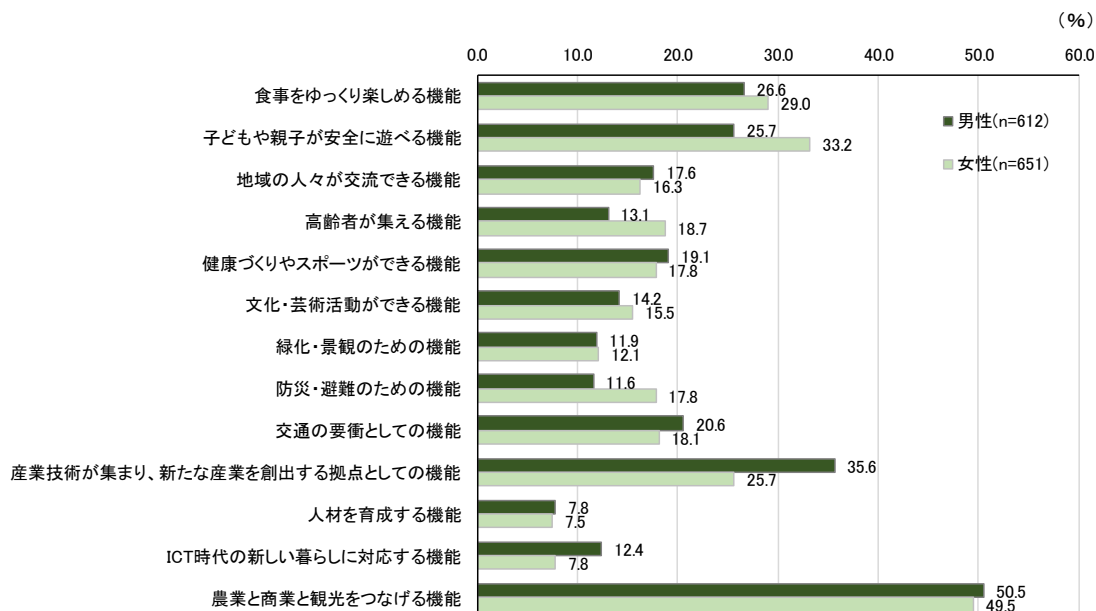
図表 97 須坂長野東 IC 付近の新しい開発エリアに対して求める機能



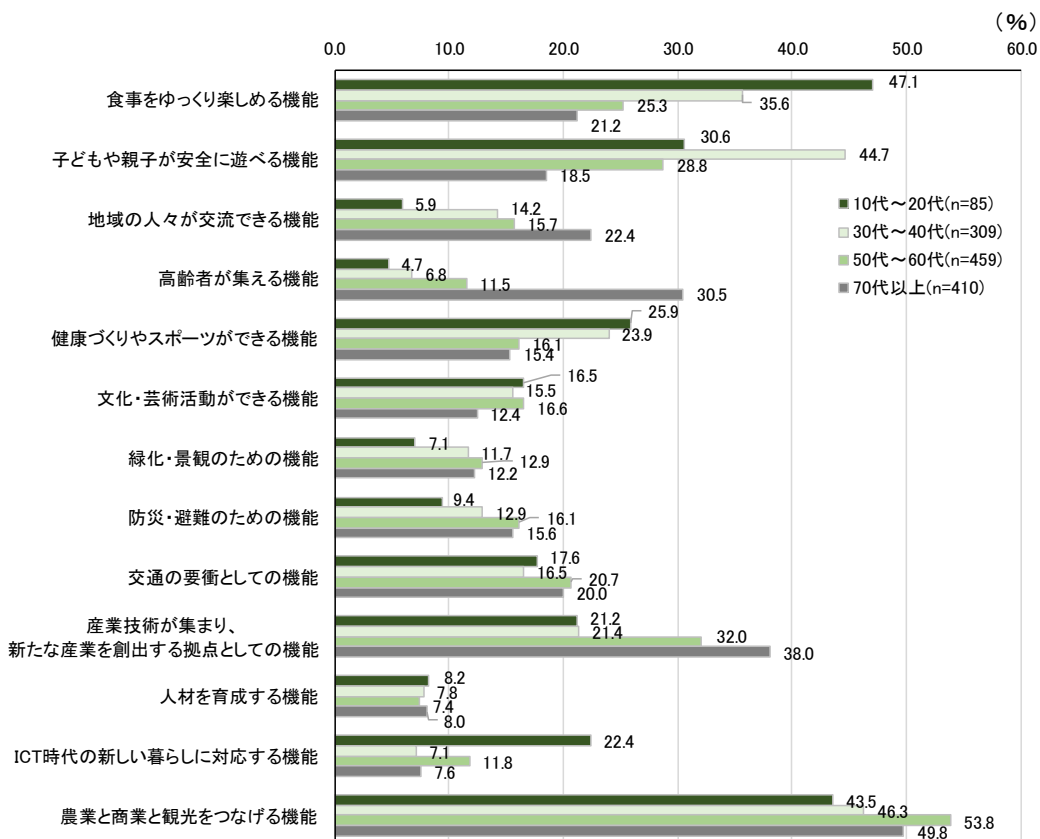
	度数	割合
食事をゆっくり楽しめる機能	355	27.9
子どもや親子が安全に遊べる機能	374	29.4
地域の人々が交流できる機能	214	16.8
高齢者が集える機能	203	16.0
健康づくりやスポーツができる機能	234	18.4
文化・芸術活動ができる機能	191	15.0
緑化・景観のための機能	153	12.0
防災・避難のための機能	188	14.8
交通の要衝としての機能	246	19.3
産業技術が集まり、新たな産業を創出する拠点としての機能	388	30.5
人材を育成する機能	98	7.7
ICT時代の新しい暮らしに対応する機能	127	10.0
農業と商業と観光をつなげる機能	637	50.1
回答者数	1,272	

- 男女別に須坂長野東 IC 周辺の開発エリアに対して求める機能を見ると、男性の方が産業技術の集積や新産業創出機能への期待が高く、女性の方が食事のスペースや親子で遊べる場所への期待が高くなっています。
- また、年代別に見ると、若い世代ほど食事の場所としての機能や健康づくりの場所としての機能を期待しており、年齢が高くなるほど、地域の交流機能、高齢者が集まれる場所としての機能、産業の創出機能の期待が高くなっています。

図表 98 回答者の性別×須坂長野東 IC 付近の新しい開発エリアに対して求める機能



図表 99 回答者の年代×須坂長野東 IC 付近の新しい開発エリアに対して求める機能

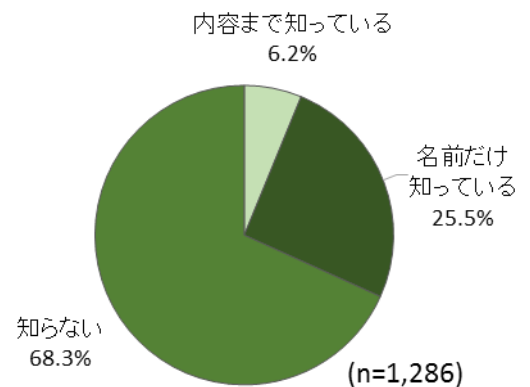


- 須坂 JAPAN の取組みの認知度を見ると、「知らない」の割合は約7割と最も多く、取組みの認知度は依然として高くない状況です。
- 年代別に認知度を見ると、年代が高くなるほど認知度が高まっており、特に介護予防等に関わる機会の多い高齢者にはある程度認知されていた状況がうかがえます。

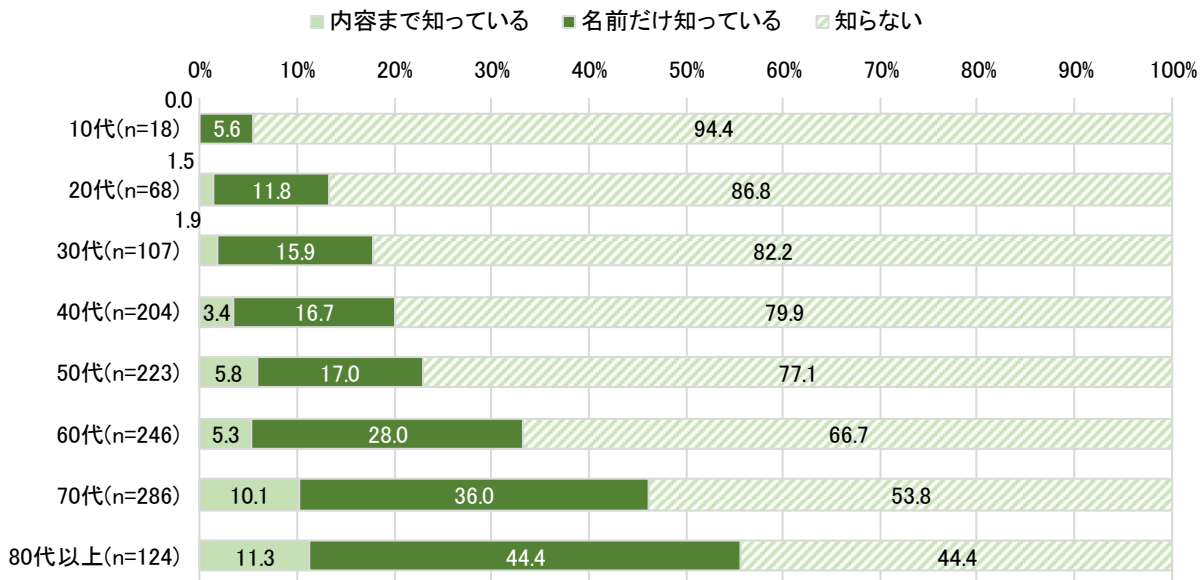
② 「須坂市 JAPAN」の取組みの認知度

図表 100 「須坂市 JAPAN」の取組みの認知度

	度数	割合
内容まで知っている	80	6.2
名前だけ知っている	328	25.5
知らない	878	68.3
合計	1,286	100.0



図表 101 年代別×「須坂市 JAPAN」の取組みの認知度



令和元年度 須坂市市民総合意識調査 ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政運営についてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では「第五次須坂市総合計画後期基本計画」が令和2年度で終了することから、その後の新たな10年間のまちづくりの方針を示す「第六次須坂市総合計画」を策定します。

策定にあたっては、市民の皆さまにも市の望ましい未来を考えていただくとともに、少子高齢化等による今後の厳しい財政状況の中、どのような施策を優先的に進めるべきかについてご意見をうかがうために、本アンケート調査を実施することになりました。同封の冊子にて、須坂市を取り巻く環境変化や未来予測をまとめています。これらの情報も参考にいただきながら、忌憚ないご意見をお寄せいただければ幸いです。

アンケートは、市内にお住まいの18歳以上（平成31年1月1日時点）の方の中から3,000人を無作為に抽出させていただき、ご協力をお願いいたしました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年7月

須坂市長

三木正夫

＜ご記入にあたってのお願い＞

- 本アンケートは無記名でお答えいただき、結果は統計的に処理いたしますので、個人が特定されたり、個人に関する情報が公表されることはありません。率直なご意見をお書きください。
- **必ず「宛名のご本人」様がお答えください。**なお、無作為抽出のため、ご病気等によりご回答いただけない方にも届いてしまう場合がございますので、その際はご容赦くださいますようお願いいたします。
- ご記入が終わりましたら、同封いたしました返信用封筒（切手不要）に入れ、**令和元年7月25日(木)まで**にお近くのポストへ投函していただきますようお願い申し上げます。

《この調査のお問い合わせ先》

須坂市 総務部 政策推進課 政策秘書係

電話：026-248-9017（課専用）

電子メール：seisaku@city.suzaka.nagano.jp

I あなたやご家族のことについて

問1-1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問1-2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代以上 |

問1-3 お住まいの地区をお答えください。(1つに○)

- | | | | |
|--------|------------|--------|-------|
| 1. 須坂 | 2. 小山 | 3. 森上 | 4. 日滝 |
| 5. 豊洲 | 6. 日野 | 7. 井上 | 8. 高甫 |
| 9. 旭ヶ丘 | 10. 仁礼・峰の原 | 11. 豊丘 | |

問1-4 主に従事している職業等をお答えください。(1つに○)

- | | | | |
|--------------------|--------------------|-------------|-------|
| 1. 会社員 | 2. パート・アルバイト・契約社員等 | | |
| 3. 自営業・経営者（農林業を除く） | 4. 農林業 | 5. 家事（内職含む） | |
| 6. 公務員（教員含む） | 7. 団体職員 | 8. 学生 | 9. 無職 |
| 10. その他（ | ） | | |

問1-5 問1-4で「5. 家事（内職含む）」「8. 学生」「9. 無職」と回答した方以外
勤務地をお答えください。(1つに○)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 須坂市内 | 2. 長野市 |
| 3. その他県内市町村
（市町村名 | 4. 県外市町村
（市町村名 |

問1-6 農地の所有状況（自己所有/家族所有）をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 所有している | 2. 所有していない |
|-----------|------------|

問1-7 須坂市での居住年数をお答えください。(1つに○)

※実際に生活した期間の合計年数をお答えください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 5年以下 | 2. 6～10年 | 3. 11～20年 | 4. 21～30年 |
| 5. 31～40年 | 6. 41～50年 | 7. 51年以上 | |

問1-8 お住まいの状況をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 持ち家（家族所有を含む） | 2. 公営住宅 |
| 3. 民営の賃貸住宅 | 4. 社宅・寮 |
| 5. その他（ | ） |

問1-9 配偶者の有無についてお答えください。(1つに○)

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない(死別・離婚を含む) |
|-----------|----------------------|

問1-10 あなたと配偶者のお仕事(パート・アルバイト含む)の状況についてお答えください。(1つに○)

- | | |
|------------|------------------------|
| 1. 共働きである | 2. 共働きではない(夫婦どちらかのみ就労) |
| 3. 夫婦ともに無職 | |

問1-11 同居しているご家族の構成についてお答えください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------|------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦だけ | 3. 親子(2世帯) |
| 4. 親と子と孫(3世帯) | 5. その他() | |

問1-12 同居しているご家族の中に18歳未満の方はいらっしゃいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問1-13 問1-12に「1. いる」と回答した方のみ

同居している18歳未満のご家族の年齢をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|---------|---------------------|--------|
| 1. 3歳未満 | 2. 3歳から小学校入学前 | 3. 小学生 |
| 4. 中学生 | 5. 高校生(高校生相当の年齢を含む) | |

問1-14 同居しているご家族の中で、以下に当てはまる方(自身を含む)がいらっしゃる場合、あてはまる番号をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 不登校となっている方 | 2. 75歳以上の方 |
| 3. 要介護認定を受けている方 | 4. 障がい者手帳を持っている方 |
| 5. 外出や家族以外との交流に困難を抱えている方 | |

問1-15 ご家族(同居していない家族を含む。自身以外。)の中に、大学生以上の未婚の方はいらっしゃいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問1-16 問1-15に「1. いる」と回答した方のみ

大学生以上で未婚のご家族のお住まいをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------------|---------|------------------|
| 1. 同居 | 2. 市内別居 | 3. 市外(県内)(市町村名) |
| 4. 市外(県外)(市町村名) | | |

II 須坂市の施策に対する評価

問2-1 現在の総合計画の中で掲げている以下の4つの重点プロジェクト（重要度が高く、特に集中して取組む分野横断的なプロジェクト）について、この5年間、どのように変化していると思うかお答えください。（1つに○）

重点プロジェクトの内容はカッコの中を参考にしてください。

		重点プロジェクトに対する評価				
		良くなっている	やや良くなっている	やや悪くなっている	悪くなっている	わからない
		1	2	3	4	0
【記入例】 <u>1つに○</u>			○			
1	須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする (強固な産業基盤の構築をすすめ、市内に安定した働き口を創出するとともに、地元で創業が出来る支援体制を整備する)	1	2	3	4	0
2	須坂市への新しい人の流れを創る (移住を促進するため、実際に須坂市を訪れる機会や移住相談の機会を充実させるとともに、移住者同士の交流を促進する)	1	2	3	4	0
3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる (子育て支援サービスを充実し、希望する数の子どもを産み育てられる環境を整備する)	1	2	3	4	0
4	安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する (防災体制の強化を始め、緊急医療の充実、公共交通の確保等を進めるとともに、地域の自治会活動の活発化を促進する)	1	2	3	4	0

問2-2 以下の基本目標ごとの各施策の取組み状況について、あなたはどの程度満足していますか。また、今後取り組むことがどの程度重要だと考えていますか。各施策のカッコの中の考え方を参考に、市の取組みをイメージしながらご回答ください。

基本目標①：みんなが助け合い、健康に暮らせるまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	どちらかといえば満足	どちらでもない	どちらかといえば不満	不満	重要	どちらかといえば重要	普通	重要でない	重要でない
施策NO	【記入例】満足度、重要度に1つつ〇	1	②	3	4	5	1	2	3	④	5
1	健康づくりの充実 (健康診断・相談、保健指導、各種健康教室が充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	地域医療を支える体制づくり (休日・夜間及び救急医療体制や、各種検診が充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	みんなで助け合う福祉 (地域の見守り活動をはじめとする、市民によるボランティア活動が活発である)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	高齢者福祉の充実 (ひとり暮らし支援、介護予防、相談窓口などサービスが充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	障がい者福祉の充実 (障がい者の社会参加、歩道段差解消など必要な支援、サービスが充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	生活困窮者への支援 (生活に困っている人が気軽に相談や支援を受けながら自立に向けて生活できる)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標①全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標①の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標②：子どもたちが未来に夢をもてるまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	ば満足 どちらかといえ	どちらでもない	ば不満 どちらかといえ	不満	重要	ば重要 どちらかといえ	普通	ば重要でない	重要でない
7	特色ある魅力的な学校づくりの推進 (須坂の歴史や文化を生かした教育を展開し、感性豊かで元気な子どもが育っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	児童・青少年健全育成の推進 (家庭や地域の中で、体験や交流を通じ生きる力が育まれている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	子育て環境の充実 (相談窓口、親子が集える場所、預かり保育など子育て支援サービスが充実している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標②全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標②の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標③：豊かな自然あふれる地域環境を守り、安心して安全に暮らせるまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	満足 どちらかといえ	どちらでもない	不満 どちらかといえ	不満	重要	重要 どちらかといえ	普通	重要でない	重要でない
10	自然環境の保全 (自然にふれあう機会が多く、効果的な自然環境の保全が進められている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11	環境を守る活動の推進 (節電や節水、省エネ、清掃活動など環境保全の取組みが進んでいる)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	循環型社会の形成と環境衛生施設の適切な管理 (市民や事業者によりごみを減らす、再使用、修理して使う、リサイクル等が行われている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

		満足度					重要度								
		満足	満足	どちらかといえ ば	どちらでもない	不満	どちらかといえ ば	不満	重要	重要	どちらかといえ ば	普通	重要でない	どちらかといえ ば	重要でない
13	防災体制の充実 （防災設備や備蓄品の充実など防災に対する備えがあり、防災体制が整っている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
14	消防・救急体制の充実 （消防防災施設の充実、医療機関との連携による救急体制が図られている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
15	交通安全対策の推進 （交通安全意識の啓発、子どもや高齢者が安心して歩ける道路・歩道が整っている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
16	地域安全対策の推進 （防犯パトロール、防犯意識の啓発が進み、市民が犯罪や事故に対する不安を感じることなく安心して暮らしている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
17	消費生活の安全 （振り込め詐欺などから市民を守るため、地域と連携して被害防止に努めている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
基本目標③全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				

基本目標③の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標④：多様な文化を学び育て、交流する創造的なまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	満足 どちらか といえ ば	どちら でも ない	不満 どちらか といえ ば	不満	重要	重要 どちらか といえ ば	普通	重要 でない どちらか といえ ば	重要 でない
18	生涯学習の機会充実 (学習機会の拡大や学習成果の発表の場を提供するなど公民館が生涯学習の拠点となっている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしたまちづくりの推進 (個人が生涯学習、歴史・文化・芸術に親しめるまちづくりが図られている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	スポーツ活動の充実 (指導者の育成、スポーツ施設の充実などにより、市民のスポーツ活動が盛んである)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標④全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標④の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標⑤：みんなの活力があふれるまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	満足 どちらか といえ ば	どちら でも ない	不満 どちらか といえ ば	不満	重要	重要 どちらか といえ ば	普通	重要 でない どちらか といえ ば	重要 でない
21	農業の活性化 (おいしい農産物の生産や 農産物の販路拡大、耕作放棄地対策が図られている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22	森林の多面的機能の維持保全と共生 (松くい虫対策や間伐材の活用など森林が緑の財産として育成管理されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

		満足度					重要度								
		満足	満足	どちらかといえ ば	どちらでもない	不満	どちらかといえ ば	不満	重要	重要	どちらかといえ ば	普通	重要でない	どちらかといえ ば	重要でない
23	既存産業の高度化・高付加価値化の促進 （市内企業が、産学官連携や補助金獲得により新たな製品開発を行い、競争力を高めるための活動を行っている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
24	新産業創出・企業誘致の推進 （時代を先導する産業分野の企業や新たに誘致した企業が、活発に事業展開している）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
25	商業の活性化 （市内で必要な買い物ができる環境がある）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
26	観光産業の振興 （「おもてなし」運動や土産品の充実など観光産業の振興が図られている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
27	観光資源の活用 （観光案内板の設置のほか、蔵の町並みや歴史などの観光資源の活用が進んでいる）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
28	雇用機会の充実と産業人材の育成 （求職者への就業支援を通じて、働く意欲がある人が、希望する職業に就いている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
29	労働環境の整備と勤労者福祉の増進 （働きやすい職場づくりや勤労者の福利厚生が図られ、勤労者がいきいきと働き、充実した生活を送っている）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
基本目標⑤全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				

基本目標⑤の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標⑥：みんなが快適に生活できるまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	満足 どちらか といえ ば	どちら でもない	不満 どちら かとい え ば	不満	重要	重要 どちら かとい え ば	普通	重要 でない どちら かとい え ば	重要 でない
30	土地の有効利用の推進 (空地・空き家が減り、耕作放棄地の解消など環境整備がされている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31	良好な景観要素の保全と育成の推進 (自然景観や蔵の町並み、身近にある花壇など須坂らしい景観となっている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32	水環境の保全と水道水の安定的な供給 (安全な水道水が安定供給されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33	橋や道路整備の推進 (道路網の整備や修繕、歩道の段差解消など整備がされている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34	安心で快適な住環境の推進 (公共施設や住宅の耐震診断・耐震補強が図られ、快適な住環境が整備されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35	公共交通の確保 (市民バス、乗合タクシーなど便利で持続可能な公共交通の環境が整っている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標⑥全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標⑥の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

基本目標⑦：みんなが主役のまちづくり

		満足度					重要度				
		満足	満足 どちらか といえ ば	どちら でもない	不満 どちら かとい え ば	不満	重要	重要 どちら かとい え ば	普通	重要 でない どちら かとい え ば	重要 でない
36	人権が尊重される社会の実現 (地域に存在する人権侵害が解消され、人権意識が高い地域社会が築かれている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	男女共同参画社会の実現 (家庭、職場で性別にとらわれず、自分らしい生き方ができる社会が実現している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38	多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進 (ボランティアなど地域活動をしている個人などのつながりが充実し、交流している)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39	特色をいかした地域振興の推進 (市の特産品や歴史などが地域ブランドとして認知され、地域振興が図られている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
40	情報発信、広聴・広報の充実 (「広報すぎか」や「須坂市ホームページ」などを通じて知りたい情報がいつでも入手でき、わかりやすく提供されている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
41	ICTによる利便性の向上と効率的なシステム運用 (情報通信技術を活用し快適な生活が送れている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
42	地域コミュニティの活性化 (区(自治会)活動が活発に行われている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
43	地域資源をいかした移住定住の促進 (移住定住先として選ばれるような、相談体制・情報発信・受け入れ態勢整備が行われている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
44	市民と共に歩む、信頼され活気ある組織・体制づくり (市職員が意欲をもって市民のみなさんとともに課題解決に取り組んでいる)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
45	長期的展望に立った財政運営 (長期的視点に立ち、収支バランスの取れた財政運営が行われている)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基本目標⑦全体の満足度・重要度		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

基本目標⑦の中で「4.どちらかといえば不満」「5.不満」と回答した項目のある方のみ
項目番号と「不満」と回答した理由をお書きください。

項目番号	不満の理由・ご意見

Ⅲ あなたご自身の活動の状況や今後の意向

問3-1 以下の各項目について、あなたの普段の活動状況や今後の意向をお答えください。

		現在の活動状況					今後の 取組み意向		
		そう 思う	どちら かとい え ば そう 思う	どちら ともい え ない	どちら かとい え ば そう 思わ ない	そう 思わ ない	取 組 み を 増 や し た い	現 状 維 持 の ま ま	取 組 み を 減 ら し た い
番号	【記入例】活動状況、取組み意向に 一つずつ○	1	②	3	4	5	①	2	3
1	健康維持・増進に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
2	高齢者や子どもの見守り活動に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3
3	障がいのある方や困難を抱えている方に対して、必要があれば日常的に手助けをしている	1	2	3	4	5	1	2	3
4	子どもや子育て家庭をあたたく見守り、必要があればサポートしている	1	2	3	4	5	1	2	3
5	地域の子どもの健全育成活動に携わっている	1	2	3	4	5	1	2	3
6	環境にやさしい生活を実践している	1	2	3	4	5	1	2	3
7	リサイクルや分別などによりごみの減量に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
8	災害に対する備えを行っている	1	2	3	4	5	1	2	3
9	交通ルールや交通マナーを守っている	1	2	3	4	5	1	2	3

		現在の活動状況					今後の 取組み意向		
		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	取 組 み を 増 や し た い	現 状 維 持 の ま ま	取 組 み を 減 ら し た い
10	防犯活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
11	公民館や図書館などで自主的な学習に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
12	生涯学習・文化芸術に親しみ、地域の人々と一緒に活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
13	日頃スポーツを行っている	1	2	3	4	5	1	2	3
14	地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
15	国際交流活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
16	地元の農産物を積極的に購入するなど、地産地消を心がけている	1	2	3	4	5	1	2	3
17	日用品などできるだけ市内のお店で買い物するようにしている	1	2	3	4	5	1	2	3
18	農産物を市外の人にすすめている	1	2	3	4	5	1	2	3
19	須坂市を観光地として市外の人にすすめている	1	2	3	4	5	1	2	3
20	緑化や美化などの景観の保全活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
21	電車、バス、乗合タクシーを利用している	1	2	3	4	5	1	2	3
22	日常的に人権を尊重するようにしている	1	2	3	4	5	1	2	3
23	性別にとらわれず、仕事や家事・育児をしている	1	2	3	4	5	1	2	3
24	ボランティアや市民活動に取り組んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
25	「広報須坂」を読んでいる	1	2	3	4	5	1	2	3
26	日常的にインターネットやスマートフォンなどの ICT を活用している	1	2	3	4	5	1	2	3
27	自治会活動に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3
28	近所づきあいを大切にし、日常的に支え合っている	1	2	3	4	5	1	2	3
29	市政に関心がある	1	2	3	4	5	1	2	3

		現在の活動状況					今後の 取組み意向		
		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	取組みを 増やしたい	現状維持のまま	取組みを減らしたい
30	市民として、さまざまな形で市政に参加している	1	2	3	4	5	1	2	3

Ⅳ 須坂市のまちづくりに対する評価

問4-1 須坂市は子育てしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない

問4-2 問4-1で「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と回答した方のみ

須坂市は子育てしやすいまちだと思わない理由をお書きください。

問4-3 須坂市は高齢者や障がいのある方など困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思いますか。(1つに○)

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない

問4-4 問4-3で「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と回答した方のみ

須坂市が高齢者や障がいのある方など困難を抱えた人が安心して暮らせるまちだと思わない理由をお書きください。

問4-5 須坂市に愛着を感じますか。(1つに○)

1. 感じる 2. どちらかといえば感じる 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば感じない 5. 感じない

問4-6 須坂市は住みやすいまちだと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|------------------|------------------|--------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば住みにくい | 5. 住みにくい | |

問4-7 須坂市に今後も住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 今の場所で住み続けたい | 2. 須坂市の他の場所に住みたい |
| 3. 市外に引越したい | 4. 近いうちに市外に移る予定がある |
| 5. その他 () | |

問4-8 問4-7で「3. 市外に引越したい」「4. 市外に移る予定がある」と回答した方のみ

須坂市外に引越したいと考えている理由としてあてはまるものを以下からお選びください。(すべてに○)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 住宅や土地の価格・広さに満足出来ないから | 2. 通勤・通学に不便だから |
| 3. 日常の買い物が不便だから | 4. 自然災害への備えが不十分だから |
| 5. 騒音などの生活環境に満足出来ないから | 6. 医療・福祉環境に満足出来ないから |
| 7. 保育・子育て・教育環境に満足できないから | 8. 人間関係やつきあいがわずらわしいから |
| 9. 町会役員やPTAなど地域活動がめんどうだから | 10. 治安・防犯が心配だから |
| 11. ショッピングや娯楽を楽しめる場所が少ないから | 12. 働きたい仕事や企業等がないから |
| 13. 商売や事業を行いやすい環境でないから | 14. 仕事、学校、家族の都合でやむをえず |
| 15. その他 () | |

V 須坂市の将来都市像

問5-1 総合計画は今後10年間の須坂市のあり方を決めるものです。10年後も残したいと思える須坂市の強みや魅力について自由にお書きください。

問5-2 10年後に向けて改善したいと思う須坂市の改善点について自由にお書きください。

以下からあてはまるものを選びください。

1. 産業が発展し、地元で雇用が豊富にあるまち
2. ささやかでも安定した暮らしができるまち
3. 豊かな自然や田園風景が守られているまち
4. 利便性が高く、快適に生活できるまち
5. 災害に強く、犯罪や事故がない安全なまち
6. 医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち
7. 健康づくりに取り組み、健康寿命が長いまち
8. 地域で協力し合い、支え合いながら暮らせるまち
9. 市民と行政の協働が根付いているまち
10. 子どもを安心して産み育てられるまち
11. 充実した教育が受けられ、人材が育つまち
12. 多くの人が訪れ、賑わいのあるまち
13. 地域に誇りや愛着を持てるまち
14. 市民の自主的な学びや活動が盛んなまち
15. 地域の個性や伝統文化を守り、大切にするまち
16. 時代変化に対応し、先進的な取り組みを行うまち
17. 財源確保や行政改革の工夫がされ、安定した行政運営が行われるまち
18. その他（ ）

1. 内容まで知っている 2. 名前だけ知っている
3. 知らない

70

問5-6 以下のSDGsの17目標の内容や自治体に求められる役割をお読みになり、須坂市において取組みが遅れていると感じる目標の番号を選んで○をつけてください。

(3つまで○)

番号	目標		自治体に求められる役割
1	貧困	あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる。	すべての市民が必要最低限の暮らしを確保することができるよう、きめ細やかな支援策を実施すること。
2	飢餓	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	自治体内の資源を活用して、食料を生産する活動を推進し、安全な食料確保に貢献すること。
3	保健	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	国民皆保険制度の運営や良好な都市環境の維持を通じて、市民の健康状態の維持・改善に貢献すること。
4	教育	すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	学校教育(特に義務教育)と社会教育の両面で、すべての市民に対して質の高い教育機会を提供すること。
5	ジェンダー	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	女性や子供等の弱者の人権を守るとともに、行政職員等における女性の割合を増やすこと。
6	水・衛生	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	市民が安全で清潔な水を使えるよう、水道事業を維持するとともに、水源地の環境保全を行うこと。
7	エネルギー	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。	公共施設の省エネを推進し、市内の再生可能エネルギー等の持続可能なエネルギー利用を増やすこと。
8	経済成長と雇用	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	地域経済の活性化や雇用の創出を推進するとともに、労働者の待遇の改善に貢献すること。
9	インフラ、産業化、イノベーション	強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	道路や橋等のインフラ整備を担うとともに、地元企業の支援等を通じて産業創出やイノベーションに貢献すること。
10	不平等	国内及び各国家間の不平等を是正する。	差別や偏見の解消を推進し、少数意見を吸い上げつつ、不公平・不平等のないまちづくりを行うこと。
11	持続可能な都市	包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する。	災害時等に市民の安全を確保し、都市機能が強靱に維持される持続可能なまちづくりを進めること。
12	持続可能な消費と生産	持続可能な消費生産形態を確保する。	環境負荷削減を推進するため、市民対象の環境教育などを行って市民の意識改革を行うこと。
13	気候変動	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。	従来の温室効果ガス削減といった緩和策だけでなく、気候変動に備えた適応策の検討と策定を行うこと。
14	海洋資源	持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。	まちの中で発生した汚染が河川等を通して海洋に流れ出ることがないように必要な汚染対策を講じること。
15	陸上資源	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。	国や周辺自治体、その他関係者と連携して、土地利用計画を通じて自然生態系の保護を行うこと。
16	平和	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。	地域内の多くの市民の参画を促して参加型の行政を推進して、暴力や犯罪を減らすこと。
17	実施手段	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	公的／民間セクター、市民、NGO／NPO等の多くの関係者を結び付け、多様な主体の連携を促進すること。

参考：一般財団法人 建築・省エネルギー機構「私たちにとってのSDGs（持続可能な開発目標）－導入のためのガイドライン－」

VI 今後推進されるまちづくりについて

問6-1 現在、市では須坂長野東IC（インターチェンジ）付近を開発する構想を推進しています。須坂長野東IC付近の新しい開発エリアに対して、あなたが求める機能は何でしょうか。以下からあてはまるものをお選びください。

(3つまで○)

1. 食事をゆっくり楽しめる機能
2. 子どもや親子が安全に遊べる機能
3. 地域の人々が交流できる機能
4. 高齢者が集える機能
5. 健康づくりやスポーツができる機能
6. 文化・芸術活動ができる機能
7. 緑化・景観のための機能
8. 防災・避難のための機能
9. 交通の要衝としての機能
10. 産業技術が集まり、新たな産業を創出する拠点としての機能
11. 人材を育成する機能
12. ICT時代の新しい暮らしに対応する機能
13. 農業と商業と観光をつなげる機能

問 6-2 須坂駅や駅周辺の施設・お店と、須坂長野東 IC 周辺の新たな拠点の連携のあり方についてご意見やアイデアがありましたらお書きください。

また、須坂長野東 IC 周辺開発全般についてもご意見があればご自由にお書きください。

[illegible]

問 6-3 第五次須坂市総合計画では、重点プロジェクトとして健康長寿発信都市「須坂 JAPAN」を掲げ、市独自の保健補導員制度を中心に健康長寿の増進、地域資源の活用の取組みを行ってきました。あなたは「須坂 JAPAN」をどの程度知っていますか。

(1 つに○)

1. 内容まで知っている 2. 名前だけ知っている
3. 知らない

以上でアンケートは終了となります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。